

第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画策定に係る 基礎調査資料

平成30年10月

目 次

将来目標1	人権を尊重し、人との出会いを大切にするまち……………	1
将来目標2	歴史を継承し、文化を創造するまち……………	5
将来目標3	都市環境を保全・創造するまち……………	10
将来目標4	健やかで心豊かに暮らせるまち……………	21
将来目標5	安全で快適な生活が送れるまち……………	40
将来目標6	活力ある暮らしやすいまち……………	61
計画推進に向けた考え方……………		85

将来目標1 人権を尊重し、人との出会いを大切にするまち

将来目標に係る地域の概況

平和、女性活躍、人権に関する啓発の取り組みが進められている。また、外国人市民の増加に対し、そのニーズも多様化している。

分野(1)平和

平和推進のための啓発事業の参加者数はやや減少傾向にある。

分野(2)人権

女性活躍は一定の進展は見られるものの未だ十分とはいえない水準にある。
子ども向けの人権教育実施件数は減少傾向にある。

分野(3)多文化共生社会の推進

市内の外国人数は確実に増加し、国籍の多様化が進展している。
国際交流に係る事業の参加団体数や実績は活発とはいえない状況にある。

将来目標1 人権を尊重し、人との出会いを大切にするまち

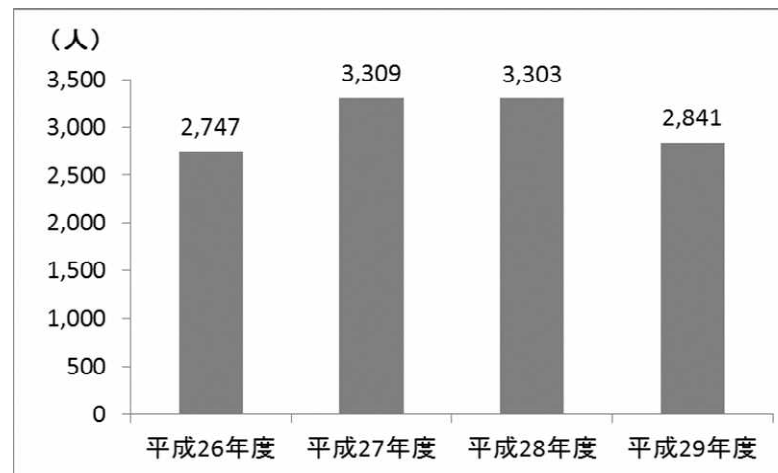
分野(1)平和

施策の方針 平和推進事業の充実

鎌倉市の動向

・市は様々な平和推進のための啓発事業を実施しているが、その直近の参加者数はやや減少傾向にある。

図表1-1 平和推進事業への参加者数の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標1 人権を尊重し、人との出会いを大切にするまち

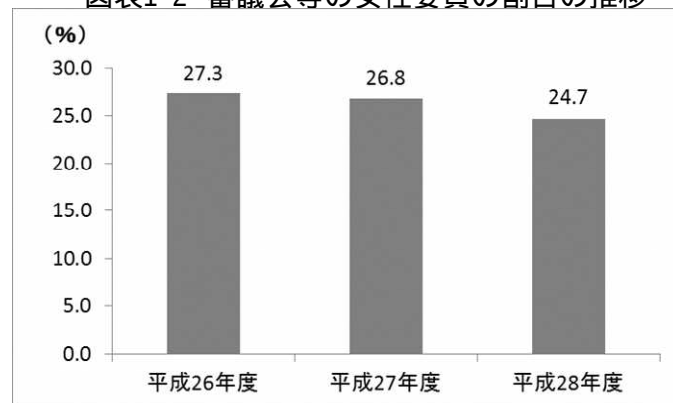
分野(2)人権

施策の方針 人権施策の推進

鎌倉市の動向

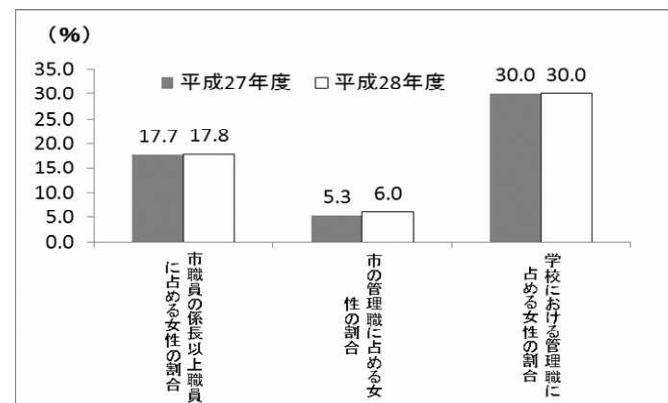
- ・市の審議会等における女性委員の比率はやや低下傾向にあるほか、市および学校における女性管理職割合も若干上昇傾向にあるものの、市管理職における割合は低い水準に留まっている。一方、市議会における女性議員比率は近隣都市の中では比較的高い水準にある。
- ・子ども向けの人権教育実施件数は減少傾向にある。

図表1-2 審議会等の女性委員の割合の推移



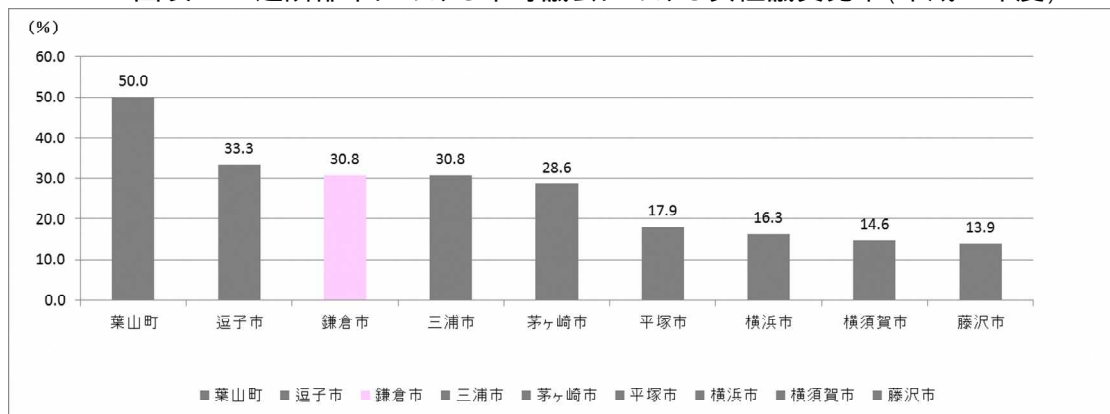
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表1-3 市および学校の女性管理職割合



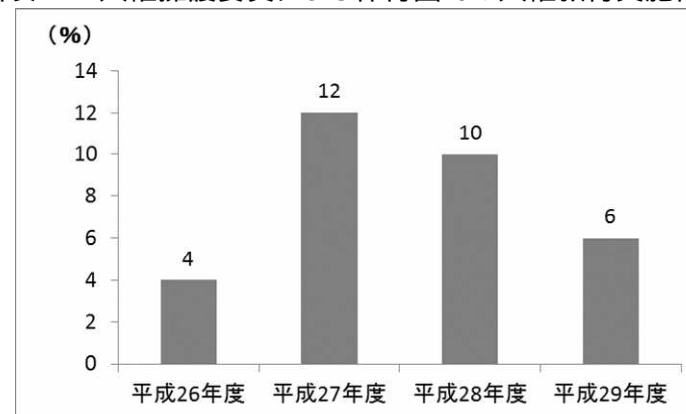
資料)鎌倉市男女共同参画年次報告より作成

図表1-4 近隣都市における市町議会における女性議員比率(平成27年度)



資料)神奈川県「かながわジェンダーダイバーシティ・データベース」より作成

図表1-5 人権擁護委員による保育園での人権教育実施件数の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標1 人権を尊重し、人との出会いを大切にするまち

分野(3) 多文化共生

施策の方針 多文化共生社会の推進

鎌倉市の動向

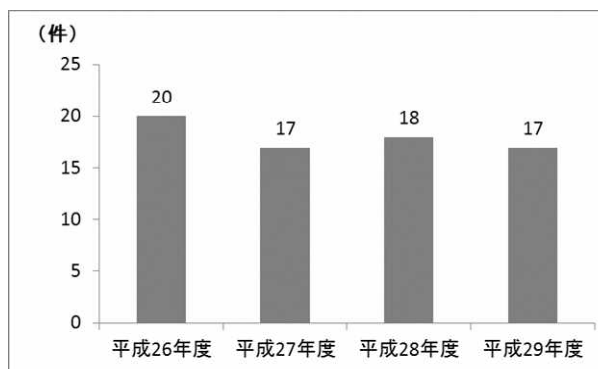
- ・市の在住外国人数は徐々にではあるが確実に増加しており、国籍別では従来の在住者数が多い国が横這いとなる中でその他の国が増加し、多様化が進展する傾向が見られる。
- ・国際交流に係る事業の参加団体数や実績は活発とは言いがたい状況にある。

図表1-6 国籍別外国人市民数の推移



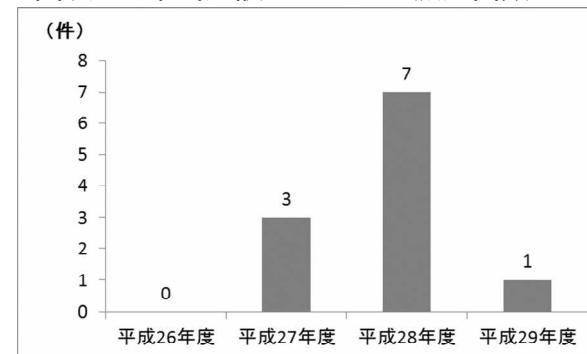
資料)「鎌倉の統計」より作成

図表1-7 国際フェスティバル参加団体数



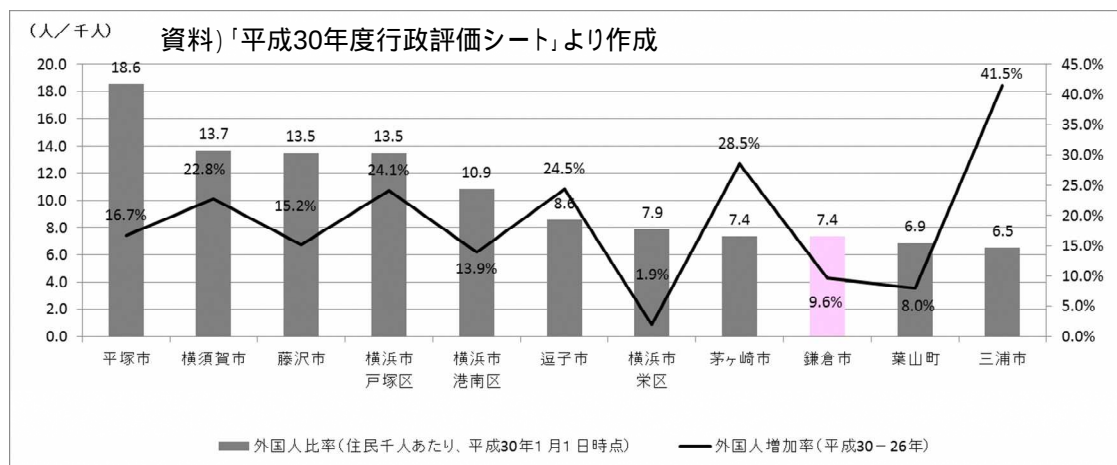
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表1-8 市民通訳ボランティア派遣回数



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表1-9 近隣都市の外国人居住者の割合



資料)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成

将来目標に係る地域の概況

市は、全国的にも価値の高い歴史的資産を多数有しており、また、芸術文化鑑賞施設、活動施設も活発に活用されている。

分野(1)歴史環境

市は歴史的風土と史跡や文化財など、国民的な財産であり、後生に継承すべき歴史的資産を有しており、その質、量は全国でも有数の、また県を代表する地域となっている。

分野(2)文化

市の芸術文化鑑賞施設、活動施設の利用者数や、市が実施する文化事業の観覧者数は概ね堅調に推移している。

将来目標2 歴史を継承し、文化を創造するまち

分野(1)歴史環境

施策の方針 歴史的風土の保存

鎌倉市の動向

・神奈川県内の歴史的風土特別保全地区のすべて、歴史的風土保全区域のほとんどが鎌倉市内であり、京都市や奈良市と比較すると面積は小さいものの、県を代表する歴史的風土を有している。

図表2-1 神奈川県内の歴史的風土特別保全地区

市	地区名	面積(ha)
鎌倉市	朝比奈切通し	7
	瑞泉寺	119
	護良親王墓	2
	浄妙寺	8
	永福寺跡	6
	寿福寺	18
	建長寺・浄智寺・八幡宮	172
	円覚寺	29
	大仏・長谷観音	110
	極楽寺	10
	稲村ヶ崎	6
	妙本寺・衣張山	67
	名越切通し	20
	合計	574
参考:京都市合計		約 2,861
参考:奈良市合計		1,809

資料)神奈川県「神奈川県都市整備統計年報」2017
京都市資料、奈良市資料

図表2-2 神奈川県内の歴史的風土保全区域

市	地区名	面積(ha)
	朝比奈	142
	八幡宮	308
	山ノ内	158
	長谷・極楽寺	207
	大町・材木座(鎌倉市部分)	167
	逗子	7
合計		989
参考:京都市合計		約 8,513
参考:奈良市合計		2,776

資料)神奈川県「神奈川県都市整備統計年報」2017
京都市資料、奈良市資料

(注)歴史的風土特別保全地区及び歴史的風土保全区域について

「都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」にもとづき、歴史的風土を損なう懸念のある建築、土木行為や景観に影響を与える行為が制限される地区及び区域。これらの行為について、保存区域では都道府県知事・政令指定都市長への届け出、特別保全地区では都道府県知事の許可が必要。

将来目標2 歴史を継承し、文化を創造するまち

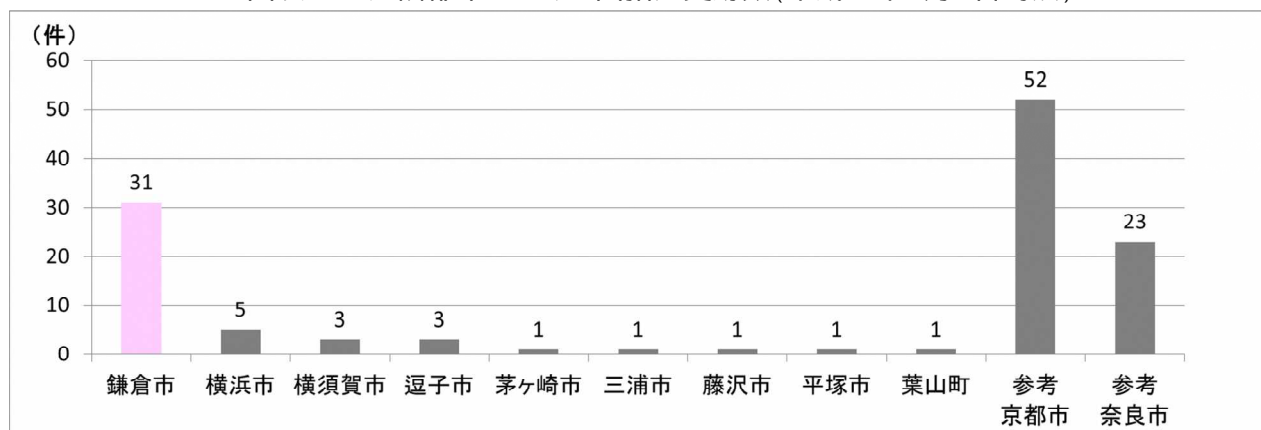
分野(1)歴史環境

施策の方針 史跡の指定、保存・管理、整備及び活用

鎌倉市の動向

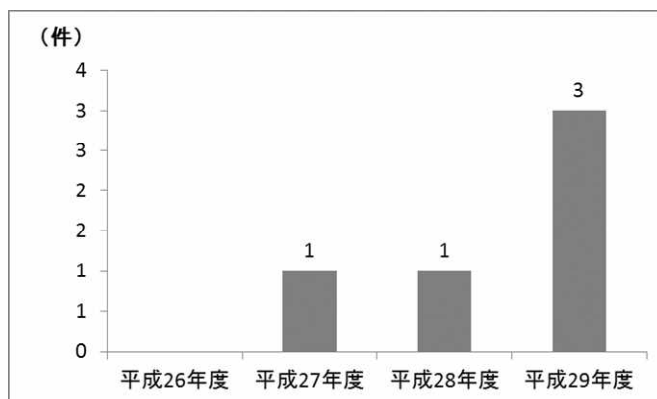
- ・鎌倉市は県内59件の国指定史跡のうち、過半を占める31件を有しており、京都市と比較すると少ないものの近隣都市では最も、かつ圧倒的に多い。
- ・国指定史跡の保全に向けた公有地化の取り組みは、限られた件数ではあるが着実に進められており、また、史跡の維持管理の取り組みの実施件数も微増傾向にある。

図表2-3 近隣都市における国指定史跡数(平成30年5月1日時点)



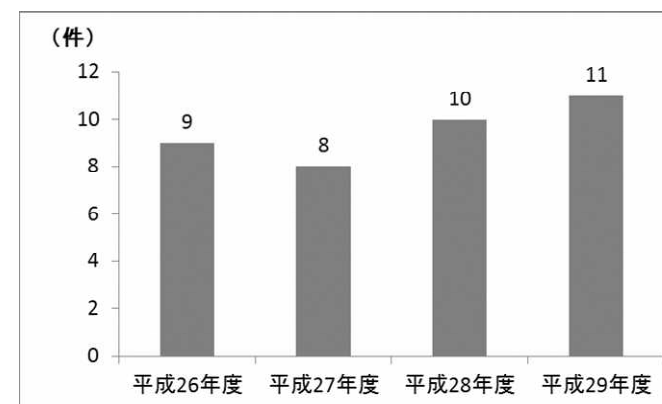
資料) 神奈川県「市町村別神奈川県文化財目録(平成30年5月1日現在)」、文化庁「国指定文化財等データベース」より作成

図表2-4 国指定史跡の公有地化件数



資料) 「平成30年度行政評価シート」より作成

図表2-5 市内の維持管理を実施した史跡数



資料) 「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標2 歴史を継承し、文化を創造するまち

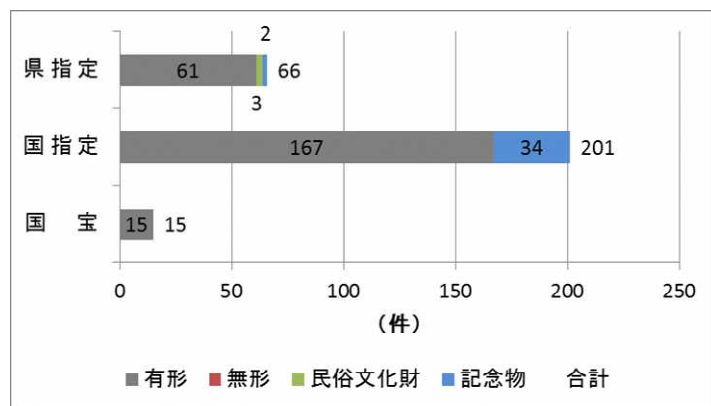
分野(1)歴史環境

施策の方針 文化財の保存、調査・研究、情報の充実

鎌倉市の動向

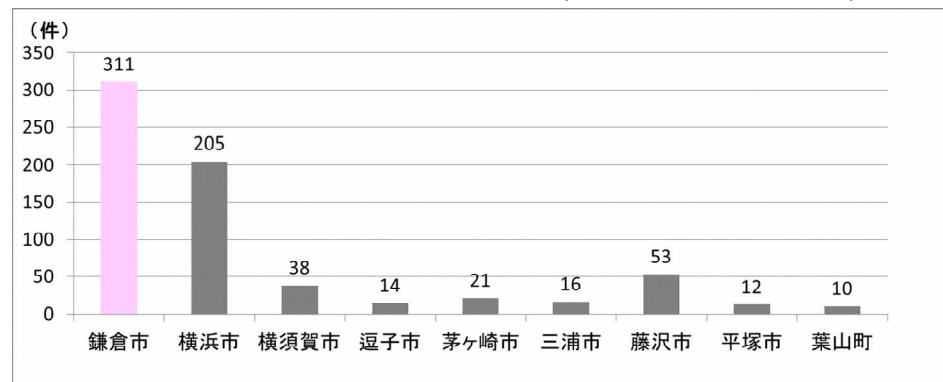
- ・鎌倉市は多数の国・県指定の文化財を有しており、近隣都市の中で最も多くなっている。また、特に国指定の有形文化財が多い。
- ・指定文化財所有者に必要な支援を行い、文化財の適切な保存管理と活用を図る保存・修理事業の実施件数は近年堅調に推移している。
- ・さらに、人々に文化財に触れる機会を提供する展示施設の利用者数は、平成29年に新しく鎌倉歴史文化交流館を開設したことから大幅に増加した。

図表2-6 市内の文化財数(平成29年12月1日現在時点)



資料)「鎌倉の統計」より作成

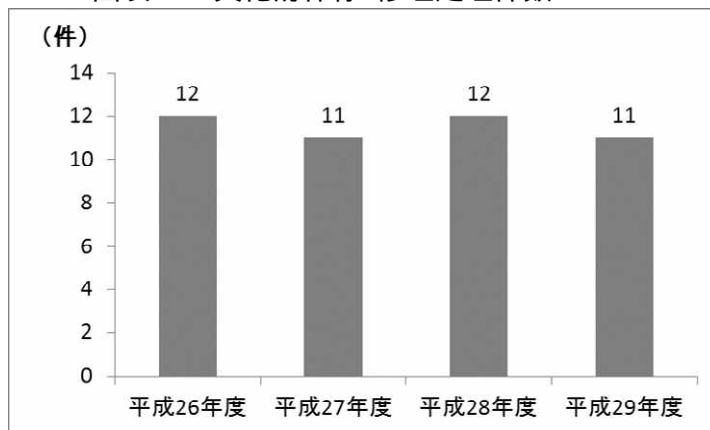
図表2-7 近隣都市における文化財数(平成30年5月1日時点)



注) 出展資料における市町村ごとの延べ件数を集計した

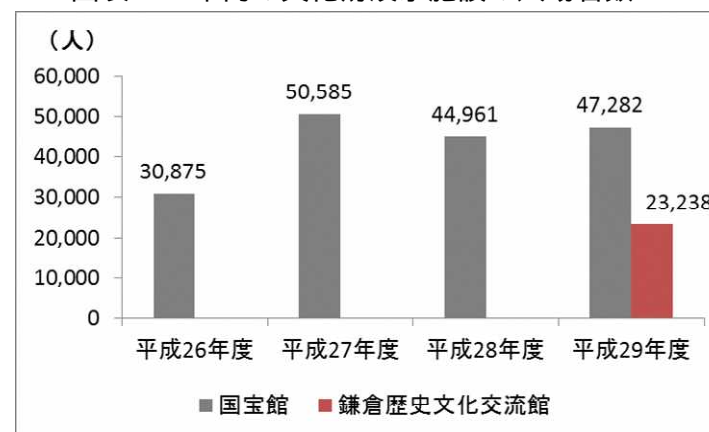
資料) 神奈川県「市町村別神奈川県文化財目録(平成30年5月1日現在)」より作成

図表2-8 文化財保存・修理事業件数



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表2-9 市内の文化財展示施設の入場者数



資料)「鎌倉の統計」より作成

将来目標2 歴史を継承し、文化を創造するまち

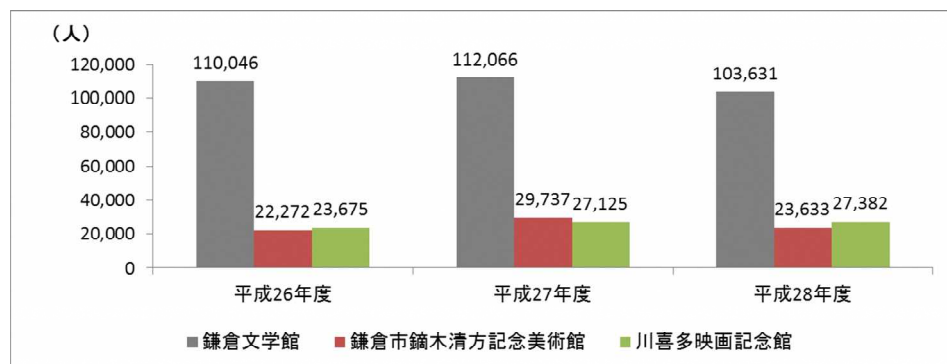
分野(2)文化

施策の方針 文化活動の支援・促進

鎌倉市の動向

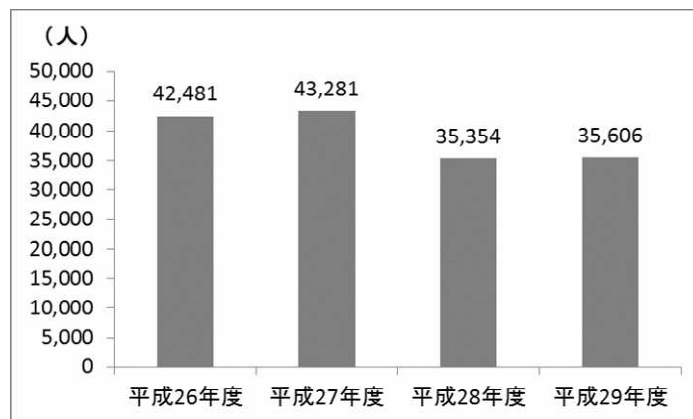
- ・市が設置した芸術文化施設の利用者数は概ね堅調に推移しているが、市が実施した文化事業の観覧者数は平成27年度から28年度に掛けて大きく減少し、翌年度は概ね横這いとなっている。
- ・一方、本市の芸術文化活動の拠点施設である鎌倉芸術館の利用率は概ね高水準で推移している。

図表2-10 市内の芸術文化鑑賞施設の利用者数の推移



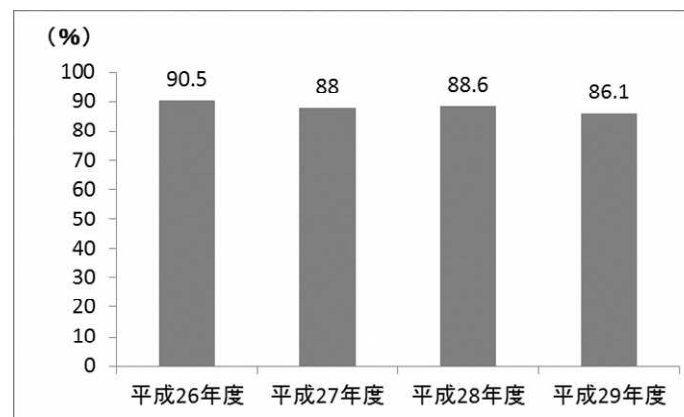
資料)「鎌倉の統計」より作成

図表2-11 市が実施した文化事業の観覧者数の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表2-12 鎌倉芸術館の利用率の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標に係る地域の概況

良好で豊かな緑地・自然環境、及び歴史都市・生活環境を有している。市民・事業者・行政が一体となって、環境の改善と適正な管理・保全を進めているが、市民への意識啓発や取り組みの普及・充実は十分とはいえない状況にある。

分野(1)みどり

市民・事業者・推進団体などのより多くの参画・連携のもと、豊かな自然環境の維持・活用、ニーズが多様化している公園・緑地の指定・拡充が行われ、森林資源・緑地面積は安定的に推移している。また、老朽化した施設や移管された資源に対する適正な管理・保全が実施されている。一方、市民に対する啓発や推進組織の育成は十分とはいえない状況にある。

分野(2)都市景観

歴史と自然環境が豊かな地域特性であるなかで、商・工・住地域の多様な土地利用の転換・開発はまだ十分とはいえない状況にある。市民・事業者の自主活動に留まらず、行政の能動的な取り組み・支援である景観地区制定や建築物認定制度などを軸に、違反広告物の除去が進むなど、質の高い良好な都市景観の形成や適正保全に向けた取り組みができています。

分野(3)生活環境

リサイクル率は高いがごみの搬入量は横ばいとなっており、良好な生活環境の確保のため、市民・滞在者・事業者・行政が一体となった大量消費・ライフスタイルの見直しを含めた省資源・リサイクルが十分とはいえない状況である。また、環境負荷を低減し低炭素化を実現する再生可能エネルギーの普及・創出、まちの美化・マナー向上、山林・海浜の環境保全は一定の効果を上げているが十分ではない。

将来目標3 都市環境を保全・創造するまち

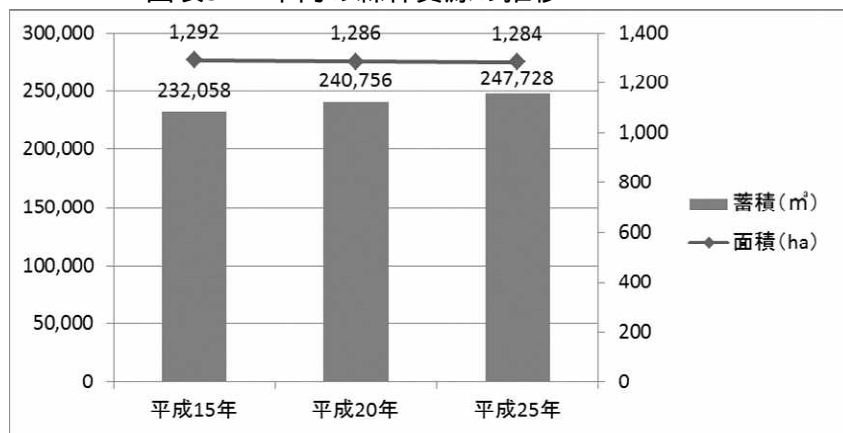
分野(1)みどり

施策の方針 緑の保全等

鎌倉市の動向

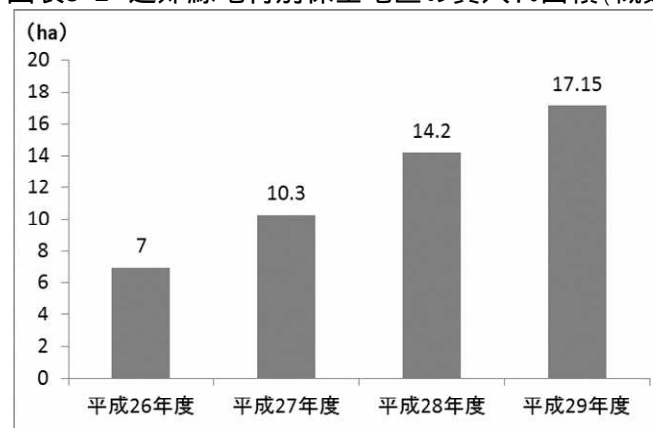
市内の森林資源は概ね安定的に推移しているが、面積はやや減少する一方、蓄積(森林を構成する樹木の幹の体積)はやや増加している。また、緑地を保全するため、所有者の買入れ申出等に対応し保全すべき緑地を確保する近郊緑地特別保全地区における緑地取得面積は年々増加している。さらに、緑地を保全するために指定する地域性緑地の行政区域あたり面積は近隣都市で最も多くなっている。

図表3-1 市内の森林資源の推移



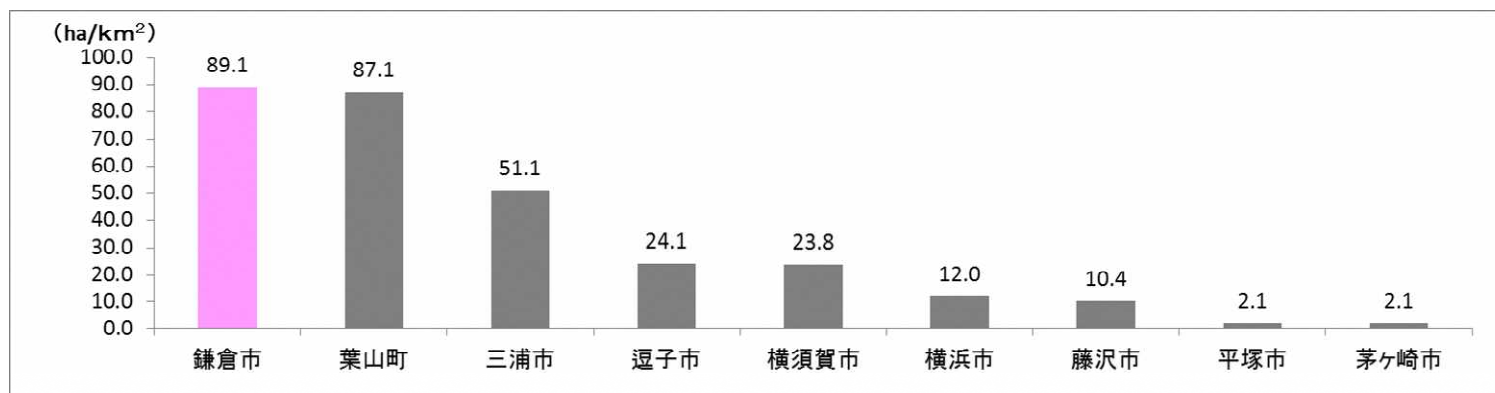
資料)「鎌倉の統計」より作成

図表3-2 近郊緑地特別保全地区の買入れ面積(概数)



資料)鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表 3-3 近隣都市の行政区域あたり地域性緑地面積の比較



資料)神奈川県「都市整備統計年報 2017(平成29年度)」より作成

将来目標3 都市環境を保全・創造するまち

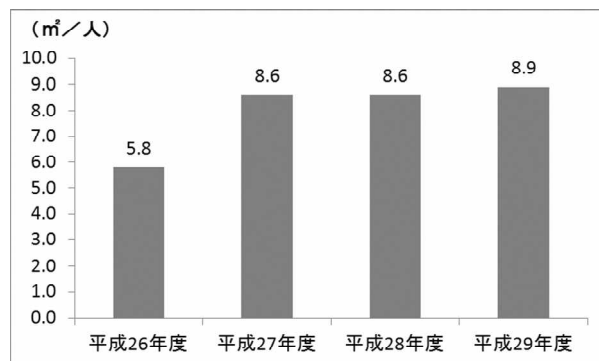
分野(1)みどり

施策の方針 都市公園等の整備・管理

鎌倉市の動向

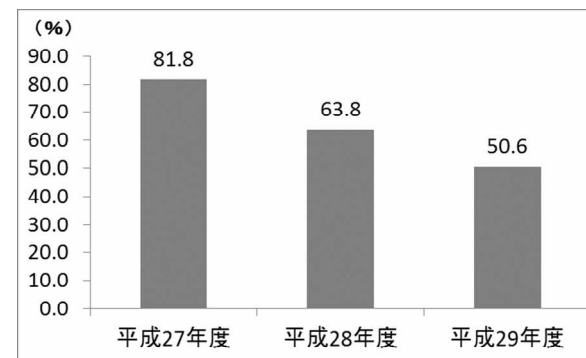
- ・市内の都市公園面積は平成27年度に大幅に増加した。これに伴い、市民一人あたり面積も増加したが、近隣都市の中では平均的水準に留まっている。
- ・市内の緑地の保全に関して、伐採、枝払い等の要望件数に対する達成率は近年低下している。

図表3-4 市内の人口一人あたり都市公園面積の推移



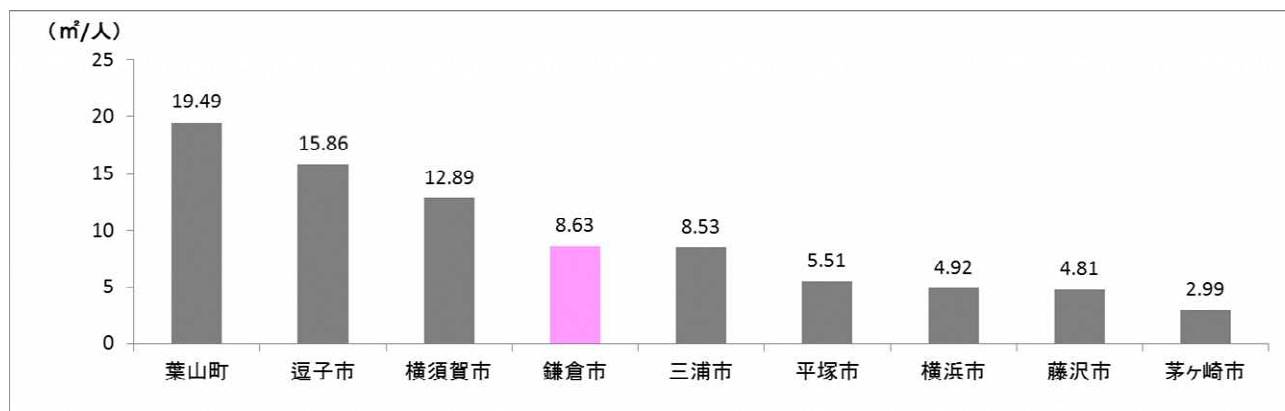
資料)「鎌倉の統計」
より作成

図表3-5 伐採、枝払い等の要望件数に対する達成率の推移



資料)鎌倉市「平成30年度
行政評価シート」より作成

図表 3-6 近隣都市の人口一人あたり都市公園面積の比較(平成27年度)



資料)神奈川県「神奈川県内市町村別都市公園整備状況(平成27年度末現在)」より作成

将来目標3 都市環境を保全・創造するまち

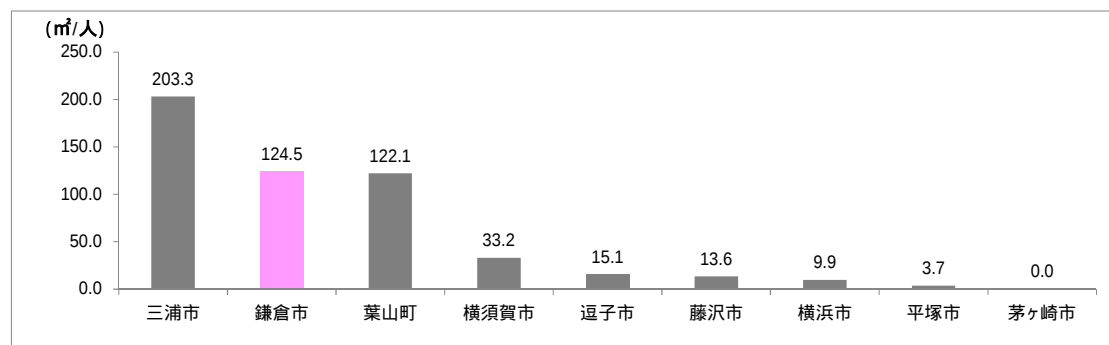
分野(2)都市景観

施策の方針 良好な都市景観形成事業の推進

鎌倉市の動向

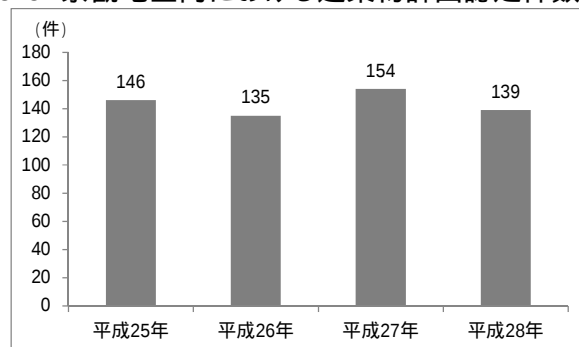
- ・風致地区指定面積は横浜市に次いで広く、市民一人あたり面積は比較対象9市の中で三浦市に次ぐ2番目の水準となっている。
- ・景観地区指定を行い、建築物計画の認定制度では毎年一定程度の認定件数が維持されている。
- ・違反屋外広告物の除去件数は、平成25年度をピークに大幅に減少している。

図表3-7 1人あたり風致地区面積の比較



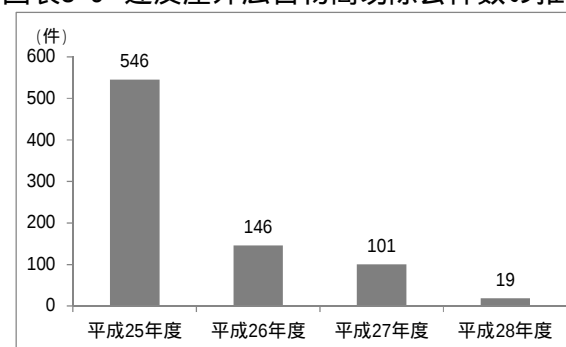
風致地区面積: 平成29年3月31日時点
資料) 国土交通省「風致地区の指定状況」より作成

図表3-8 景観地区内における建築物計画認定件数の推移



資料) 鎌倉市「鎌倉の景観」より作成

図表3-9 違反屋外広告物簡易除去件数の推移



資料) 鎌倉市「鎌倉の景観」より作成

将来目標3 都市環境を保全・創造するまち

分野(3)生活環境

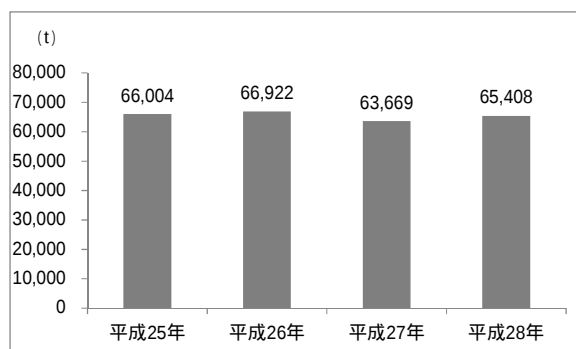
施策の方針 3Rの推進・ごみの適正処理

鎌倉市の動向

- ・リサイクル率は神奈川県内で1位、過去に類似規模の都市で全国1位 を連続記録するなど、高い水準である。リサイクル率の推移は、平成22年頃にかけて向上しているが、ここ数年は増加傾向は停滞して、横ばいとなっている。
- ・千人あたりのごみ搬入量は、比較対象9市の中で最も多くなっている。

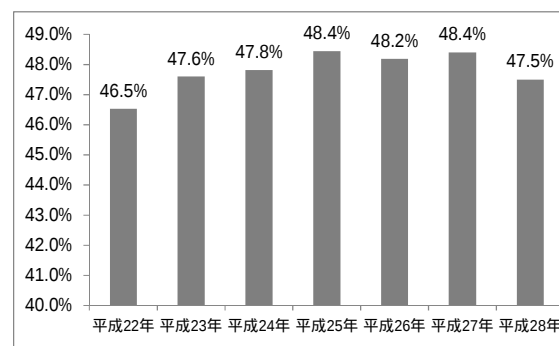
人口10万人以上50万人未満自治体中

図表3-10 ごみ搬入量の推移



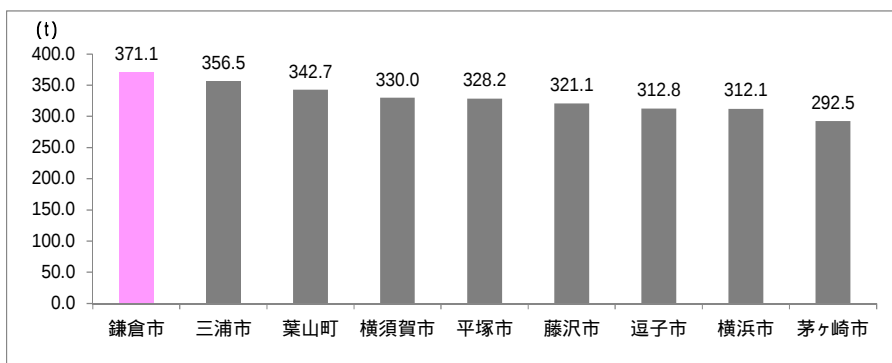
資料) 鎌倉市「鎌倉の統計」より作成

図表3-11 リサイクル率(資源化率)の推移



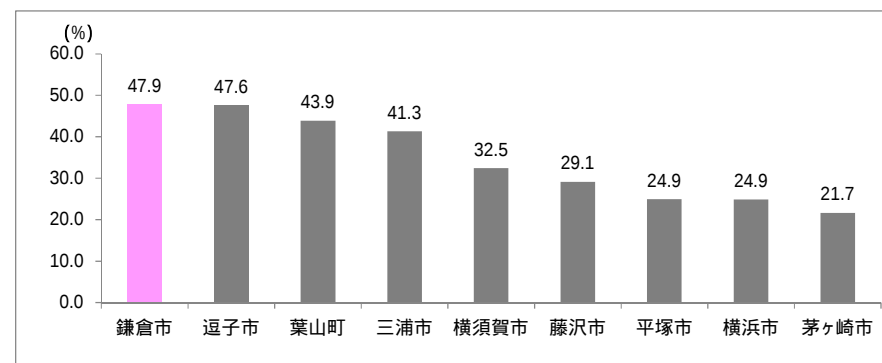
資料) 鎌倉市「鎌倉の統計」より作成

図表3-12 千人あたりごみ排出量の比較(平成28年度)



資料) 神奈川県「平成28年度神奈川県一般廃棄物処理事業の概要」より作成

図表3-13 リサイクル率の比較(平成28年度)



資料) 神奈川県「平成28年度神奈川県一般廃棄物処理事業の概要」より作成

将来目標3 都市環境を保全・創造するまち

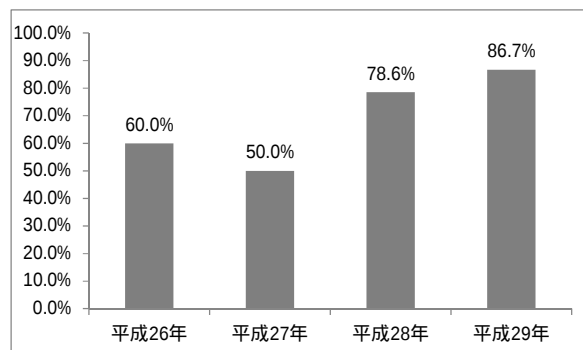
分野(3)生活環境

施策の方針 環境汚染の防止

鎌倉市の動向

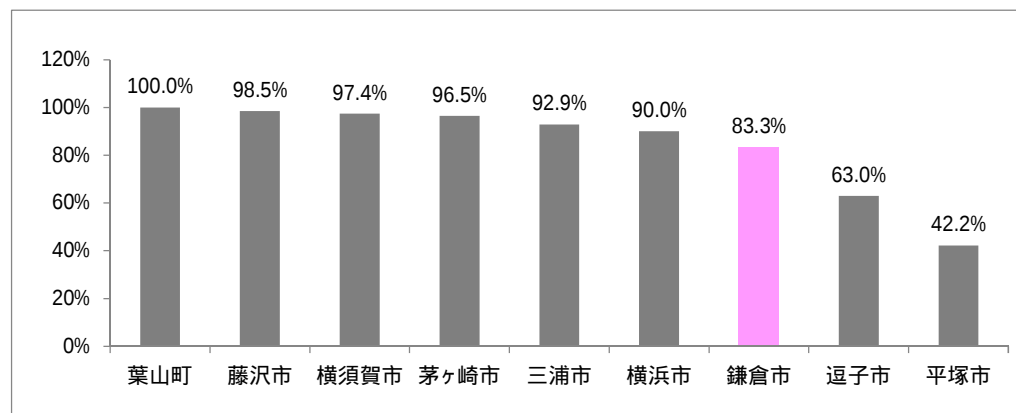
- ・環境汚染に関する苦情処理は、発生件数が近年やや増えている中で、発生件数に対する処理件数の割合が向上し、高い水準になっている。
- ・発生件数に占める処理件数の割合は、比較対象9市のうち7位と低い水準である。

図表3-14 苦情処理状況の推移



発生件数に占める解決件数の割合を示した。
資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表3-15 苦情処理状況の比較



発生件数に占める解決件数の割合を示した。
処理件数には前年度未処理からの繰り越し分を含む。
資料) 神奈川県「県勢要覧2016」より作成

将来目標3 都市環境を保全・創造するまち

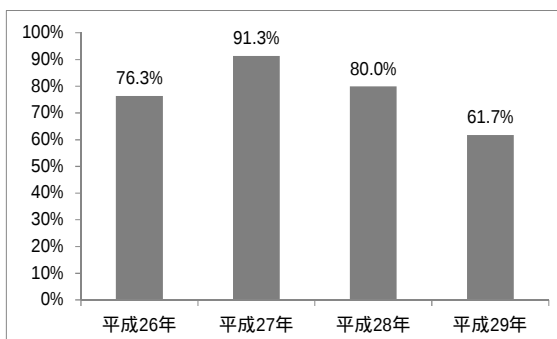
分野(3)生活環境

施策の方針 まちの美化

鎌倉市の動向

- ・街中のごみの散乱については、不法投棄対応の達成率が平成27年をピークに低下している。
- ・落書きの問題を懸念し、「鎌倉市落書きのないまちづくり行動計画」を策定し、実態把握・消去対策の結果影響は低減したが、発生件数は減っていない。
- ・大船駅・鎌倉駅両周辺地区とも、対策を推進していても路上喫煙禁止区域における路上喫煙が確認されている。

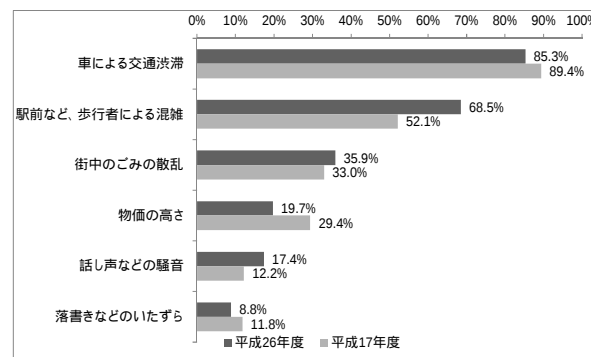
図表3-16 ごみ不法投棄対応達成率の推移



ごみ不法投棄の処理件数目標に対する実績値を達成率として算出。

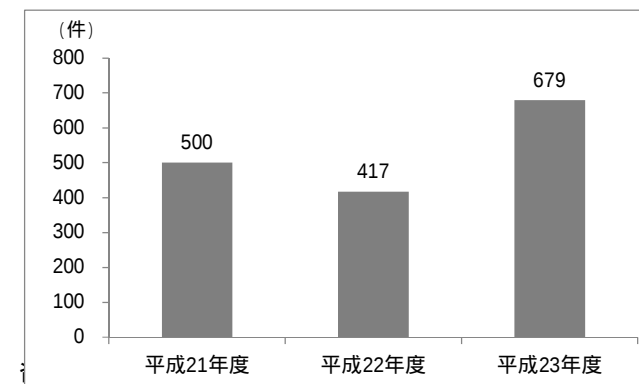
資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表3-17 観光客の行動による日常生活へのマイナス影響



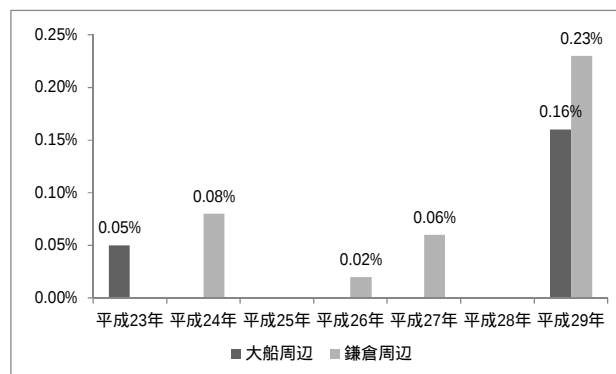
資料) 鎌倉市「観光基本計画策定調査報告書」より作成

図表3-18 落書き件数の推移



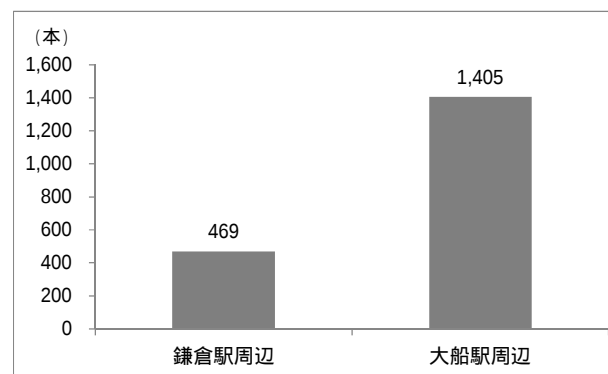
美化委員会で市民協働により最新データ把握可

図表3-19 路上喫煙率の推移



各年の調査地区を大船周辺と鎌倉周辺にわけて集計
資料) 鎌倉市「路上喫煙率調査結果」(各年度)より作成

図表3-20 路上喫煙の実態



資料) 鎌倉市「平成28年度路上喫煙禁止区域内実態調査」より作成

将来目標3 都市環境を保全・創造するまち

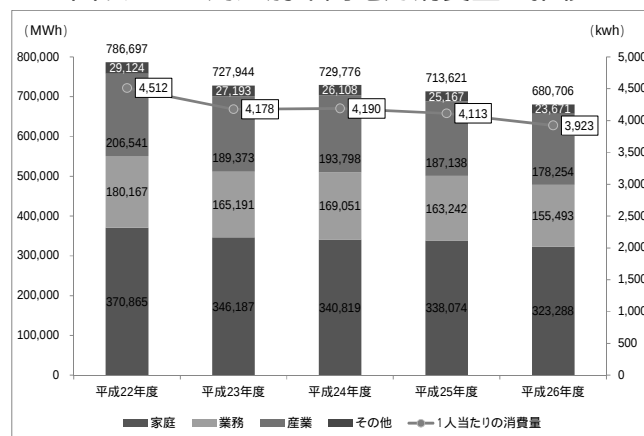
分野(3)生活環境

施策の方針 次代に向けたエネルギー・環境対策の推進

鎌倉市の動向

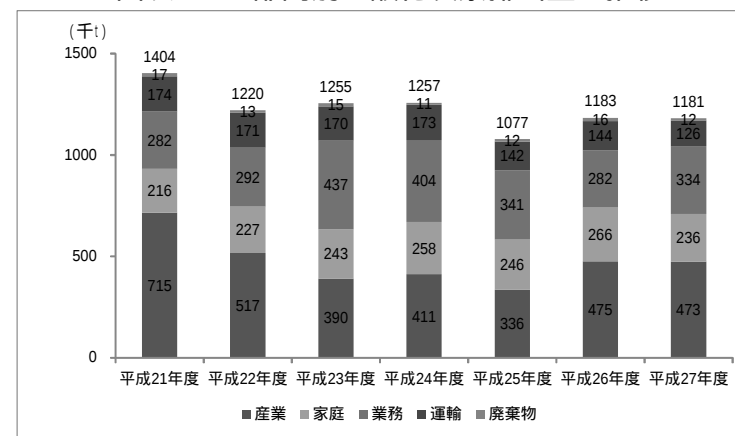
- ・用途別年間電力消費量は各部門とも減少し、1人当たり消費量も近年は減少の傾向にある。
- ・部門別二酸化炭素排出量の推移をみると、運輸・業務は減少、産業・家庭部門は横ばいとなっている。
- ・ガス消費量は各部門とも減少から横ばい、1人当たり消費量も横ばいに転じてきている。

図表3-21 用途別年間電力消費量の推移



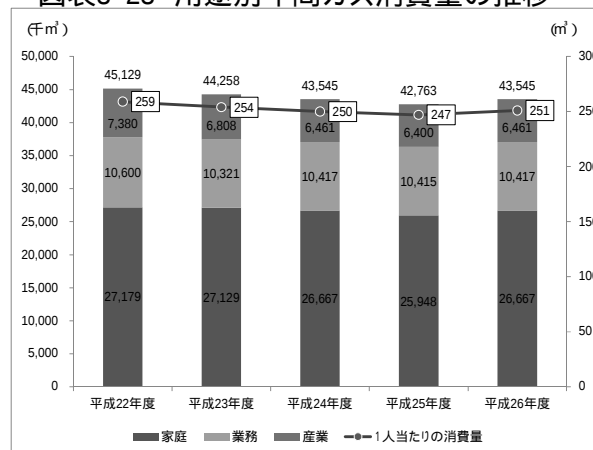
資料) 鎌倉市「平成29年度版かまくら環境白書」より作成

図表3-22 部門別二酸化炭素排出量の推移



資料) 鎌倉市「平成29年度版かまくら環境白書」より作成

図表3-23 用途別年間ガス消費量の推移



資料) 鎌倉市「平成29年度版かまくら環境白書」より作成

将来目標3 都市環境を保全・創造するまち

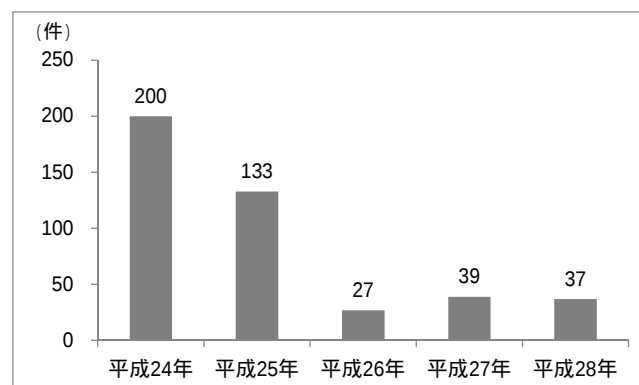
分野(3)生活環境

施策の方針 次代に向けたエネルギー・環境対策の推進

鎌倉市の動向

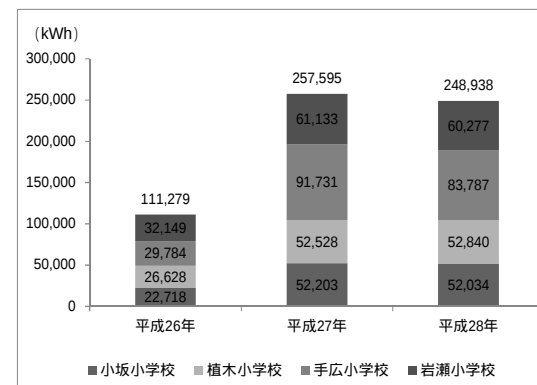
- ・住宅用太陽光発電システム設置費補助件数は平成24年をピークにして減少し、現在は横ばいとなっている。
- ・太陽光発電屋根貸事業発電量は、平成27年からキープされている。
- ・LEDも複数の公共施設において導入されて、一定程度横ばいで発電量が維持されており効率化に貢献している。

図表3-24 住宅用太陽光発電システム設置費補助件数の推移



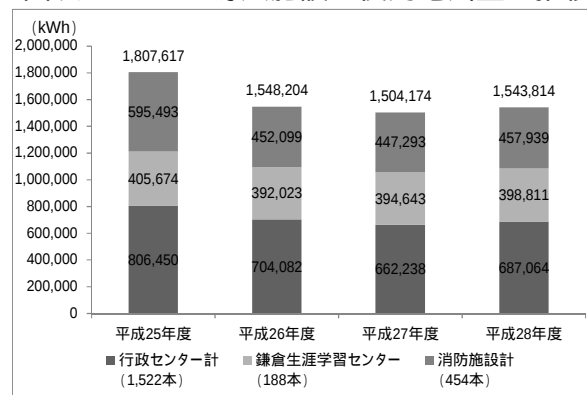
資料) 鎌倉市「平成29年度版かまくら環境白書」より作成

図表3-25 太陽光発電屋根貸事業発電量の推移



資料) 鎌倉市「平成29年度版エネルギー施策実施状況報告書」より作成 リーディングプロジェクトに該当

図表3-26 LED導入施設の使用電気の推移



資料) 鎌倉市「平成29年度版エネルギー施策実施状況報告書」より作成 リーディングプロジェクトに該当

将来目標3 都市環境を保全・創造するまち

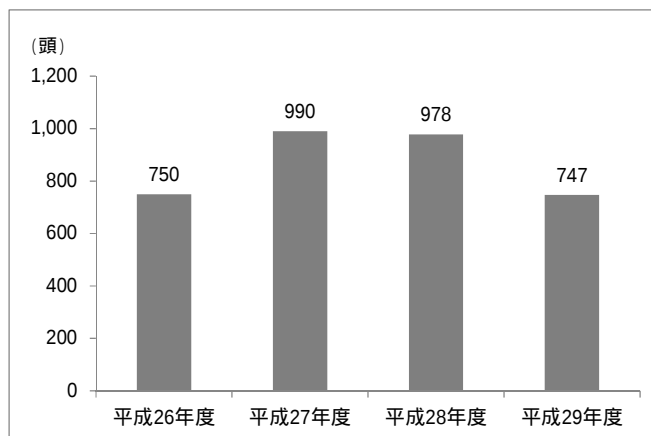
分野(3)生活環境

施策の方針 野生鳥獣等への対応

鎌倉市の動向

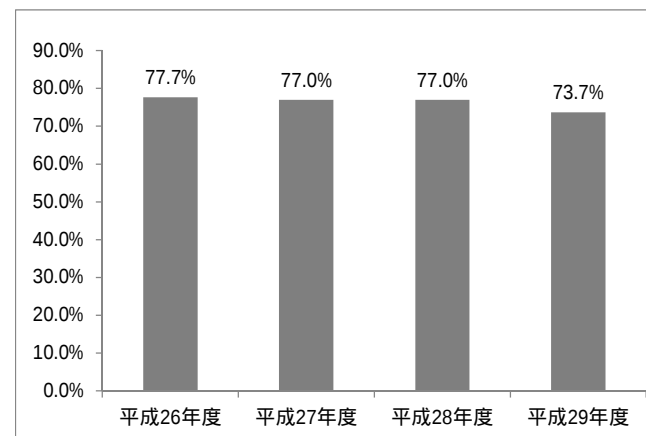
- ・「鎌倉市クリハラリス防除実施計画」にもとづく有害外来動物の捕獲は、平成29年には若干捕獲数が減少しているものの、概ね一定数を継続している。
- ・狂犬病予防注射接種率は7割程度を維持して横ばいで推移している。

図表3-27 クリハラリス(タイワンリス)捕獲数の推移



資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表3-28 狂犬病予防注射接種率の推移



資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標3 都市環境を保全・創造するまち

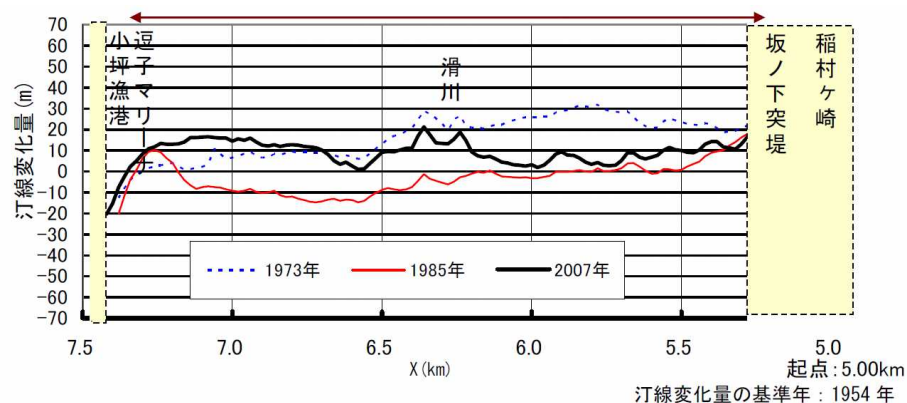
分野(3)生活環境

施策の方針 海浜の環境保全

鎌倉市の動向

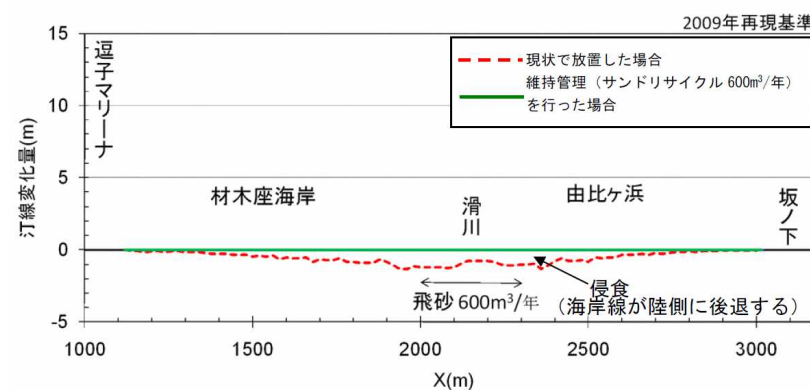
- ・県等の関係機関と連携した侵食対策・養浜などの取り組みにより、汀線浸食を緩和するなど、海浜・海岸保全が効果を上げている。
- ・「鎌倉市海水浴場のマナーの向上に関する条例」に従い、海水浴場の適正な管理が継続されている。

図表3-29 由比ヶ浜地区の海岸線の変化



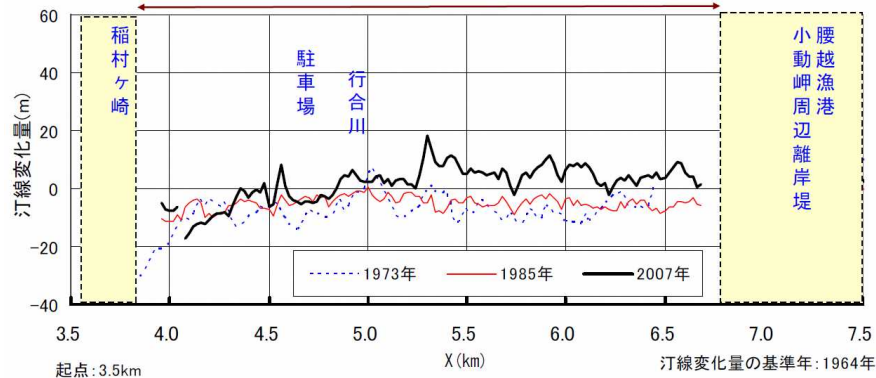
資料) 神奈川県「相模湾沿岸海岸浸食対策計画」より抜粋

図表3-30 由比ヶ浜地区の10年後の汀線変化予測



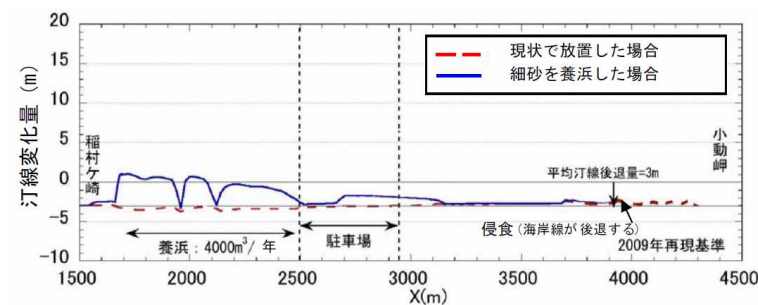
資料) 神奈川県「相模湾沿岸海岸浸食対策計画」より抜粋

図表3-31 七里ヶ浜地区の海岸線の変化



資料) 神奈川県「相模湾沿岸海岸浸食対策計画」より抜粋

図表3-32 七里ヶ浜地区の10年後の汀線変化予測



資料) 神奈川県「相模湾沿岸海岸浸食対策計画」より抜粋

将来目標に係る地域の概況

市は医療施設や歴史的文化的資源が比較的恵まれており、生活支援サービスの充実や特色ある学校協教育など、健やかで心豊かに暮らせるまちづくりは一定程度進んできているといえる。ただし、休日夜間の小児患者数や待機児童数の増加や文化施設の利用者数の横ばいなどの需要の変化が見られるほか、学校施設の老朽化対策などが課題となっている。

分野(1)健康福祉

地域における高齢者や障害者向けの生活支援サービスは比較的高い水準にある。医療施設は県内でも最も充実しており、各種健診の受診率も高い傾向にあるが、休日夜間急患診療所の小児患者数が増加している。

分野(2)子育て

少子化と核家族化の進行、価値観の多様化、共働き世帯の増加などにより、子育てを取り巻く環境は大きく変化し、育児不安等に悩む家庭や保育の需要が増加している。保育所の待機児童数は近隣市と比べても多く、放課後子ども教室の実施率も低い状況である。

分野(3)学校教育

小中一貫教育、安全で開かれた学校づくり、専門職の配置による相談体制の充実など、特色ある取組を推進している。特別支援学級については、配置が68%にとどまっている。冷暖房設備の設置・トイレ改修のほか、学校施設の老朽化対策が課題となっている。

分野(4)青少年育成

不登校や高校中退者、ひきこもりの数が高止まりしており、横浜市や横須賀市と比べても少ない水準である。「鎌倉市子ども・若者育成プラン」に基づき、青少年の居場所づくり、支援体制の充実、子ども・若者による社会参画の推進等を、関係機関と一体となって進めている。

分野(5)生涯教育

市は人材や歴史的文化的資源が豊かであり、文化施設が充実しているが、利用者数は横ばいから減少傾向にある。図書館の蔵書冊数・貸出冊数も比較的多いが、貸出冊数は横ばいから微減傾向にある。

分野(6)スポーツ・レクリエーション

体育協会、レクリエーション協会加盟人数はやや増加傾向にあり、指定管理スポーツ施設利用者率も高水準にあることから、スポーツ・レクリエーションに対する意識は高まっているといえる。一方で、市民当たりのスポーツ施設数は他紙と比べてやや少ない状況にある。

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

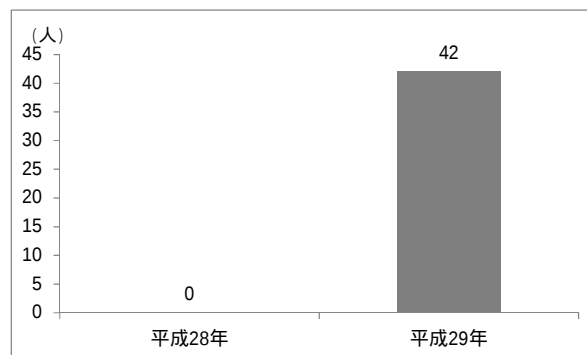
分野(1)健康福祉

施策の方針 地域の生活支援サービス 1

鎌倉市の動向

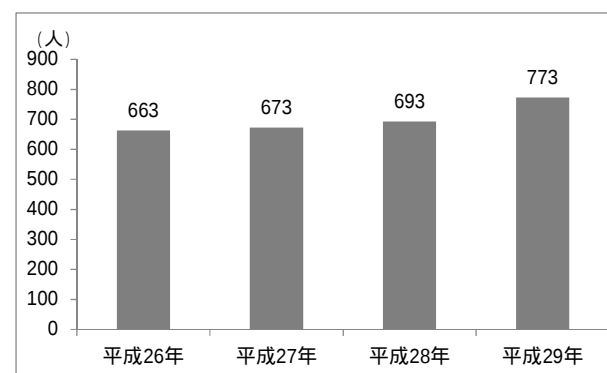
・高齢者が増加する中で、高齢者雇用促進事業就業者数、一人暮らし高齢者登録数、特定養護老人ホーム定員数は増加している。

図表4-1 高齢者雇用促進事業就業者数



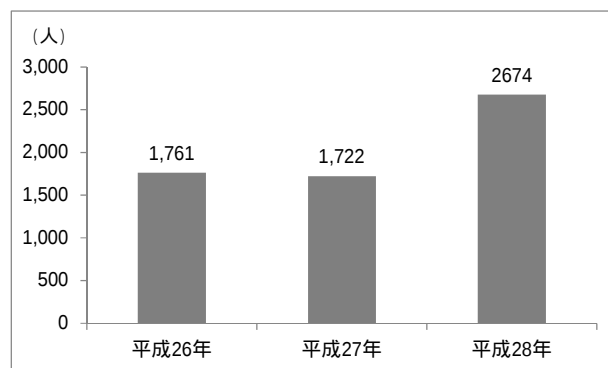
資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-2 特定養護老人ホーム定員数



資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-3 一人暮らし高齢者登録数



資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

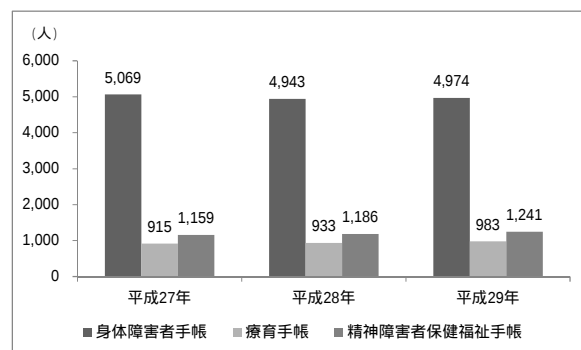
分野(1)健康福祉

施策の方針 地域の生活支援サービス 2

鎌倉市の動向

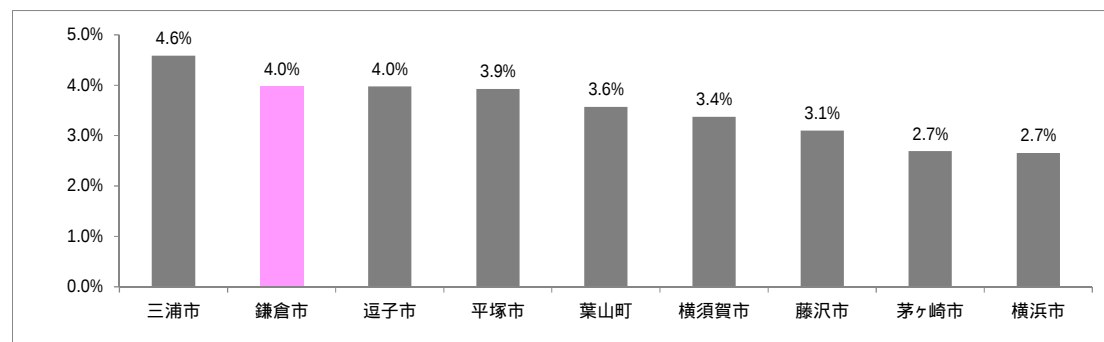
- ・障害者手帳交付数は身体障害者が横ばい、その後は増加傾向で、全人口に対する身体障害者手帳交付率は比較対象9市で2番目に高い水準である。
- ・児童の発達障害の相談・支援延人数や、聴覚障害者への手話通訳者・要約筆記者の派遣件数は横ばいとなっている。

図表4-4 障害者手帳交付者数の推移



資料) 鎌倉市「第3期鎌倉市障害者基本計画」より作成

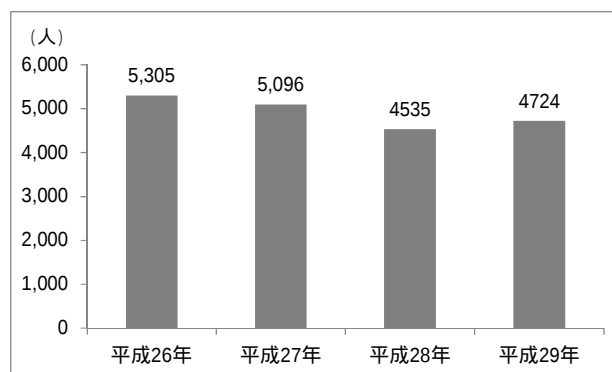
図表4-5 身体障害者手帳交付者数の比較



人口に占める交付者数の割合を示した。

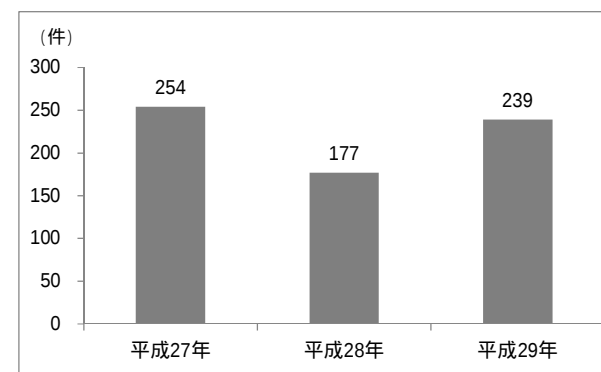
資料) 神奈川県「平成27年神奈川県福祉統計」より作成

図表4-6 相談・支援延人数



資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-7 手話通訳者・要約筆記者の派遣件数の推移



資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

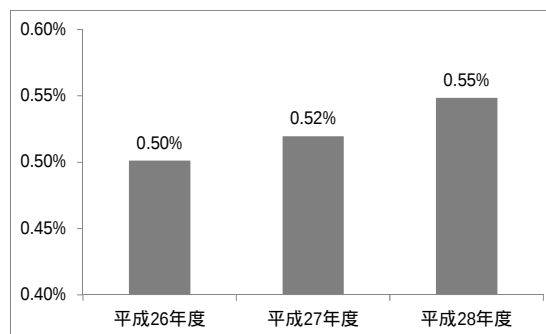
分野(1)健康福祉

施策の方針 地域の生活支援サービス 3

鎌倉市の動向

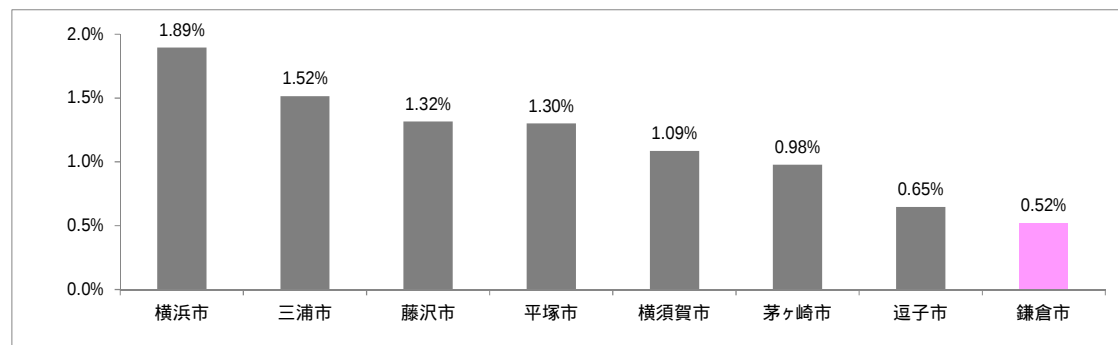
・高齢化にともなって生活保護の保護率は近年増加しているが、保護率は比較対象8市の中で最も低い水準となっている。しかしながら、今後予想される高齢化の一層の進展により、保護率の上昇が懸念される。

図表4-8 生活保護の保護率の推移



資料) 鎌倉市「鎌倉の統計」より作成

図表4-9 生活保護の保護率の比較



各市の保健福祉事務所集計。葉山町は鎌倉保健福祉事務所で集計
資料) 神奈川県「神奈川の生活保護」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

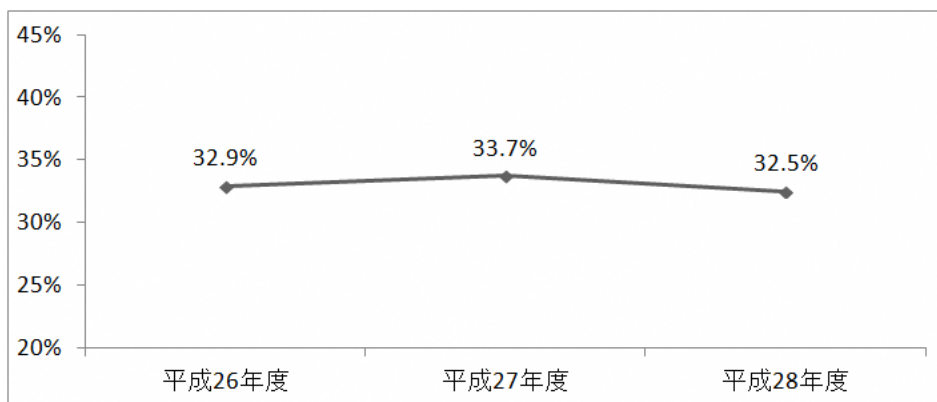
分野(1)健康福祉

施策の方針 市民の健康と安心づくりの推進 1

鎌倉市の動向

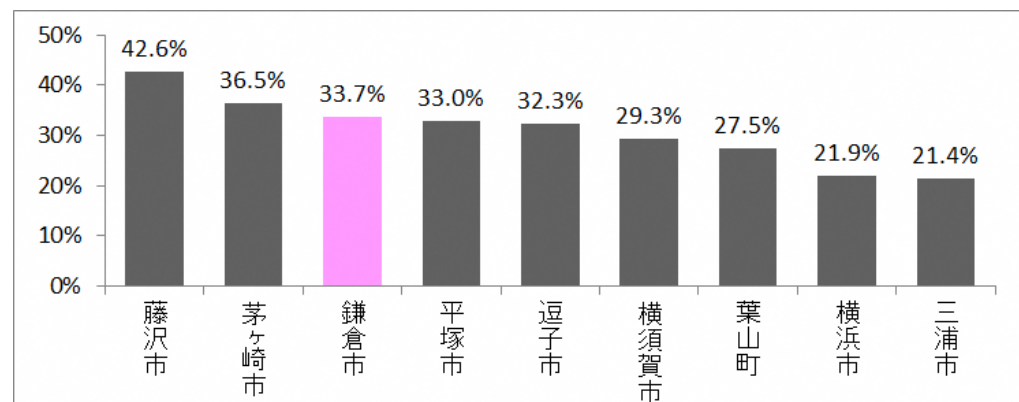
- ・生活習慣病の発症者が増えており、特定健診の受診率は他市に比べてやや高いものの、30数パーセントの低水準で横ばいから微減傾向で推移している。
- ・特定保健指導利用率については、県内でも比較的高い水準にあり、「若年層(20～39歳)の生活習慣病健診」について郵送健診を行うなど、独自の取組も行っている。

図表4-10 特定健診受診率の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-11 特定健診受診率の比較(平成27年度)



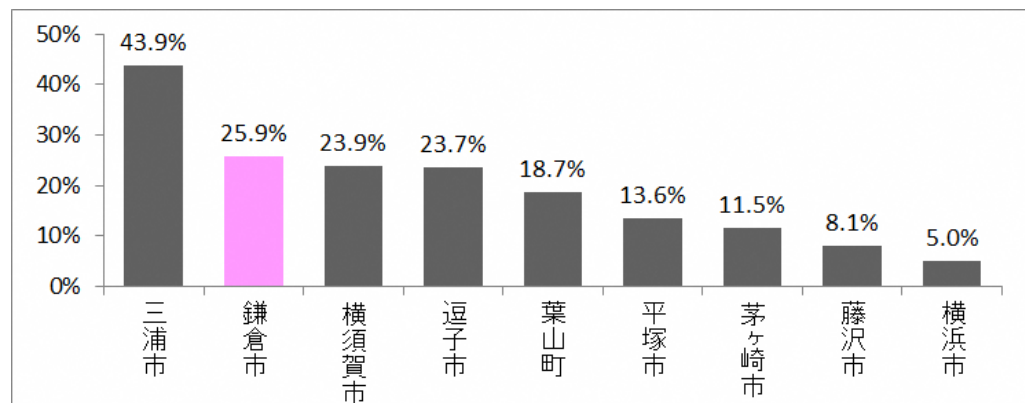
資料)「平成27年度国民健康保険事業状況」より作成

図表4-12 若年層(20～39歳)の生活習慣病健診の実施状況の比較

鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	逗子市	三浦市	綾瀬市
○ 郵送健診	×	×	×	○ 集団健診	×

資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-13 特定保健指導利用率の比較(平成27年度)



資料)「平成27年度国民健康保険事業状況」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

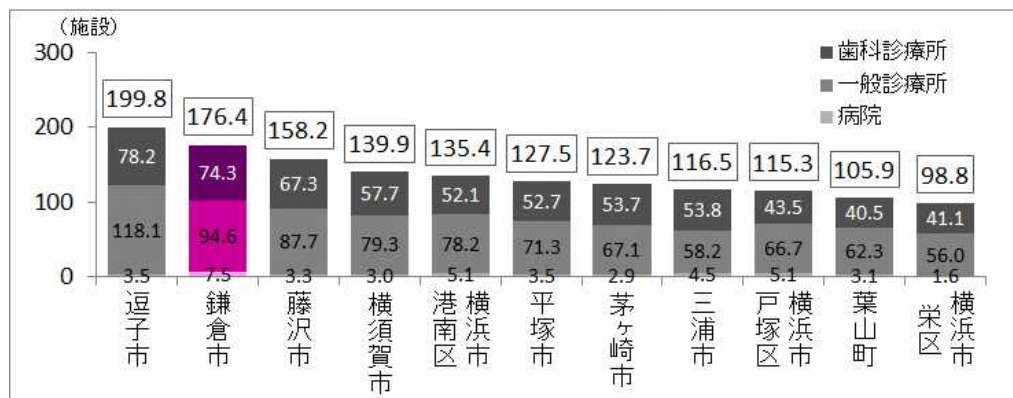
分野(1)健康福祉

施策の方針 市民の健康と安心づくりの推進 2

鎌倉市の動向

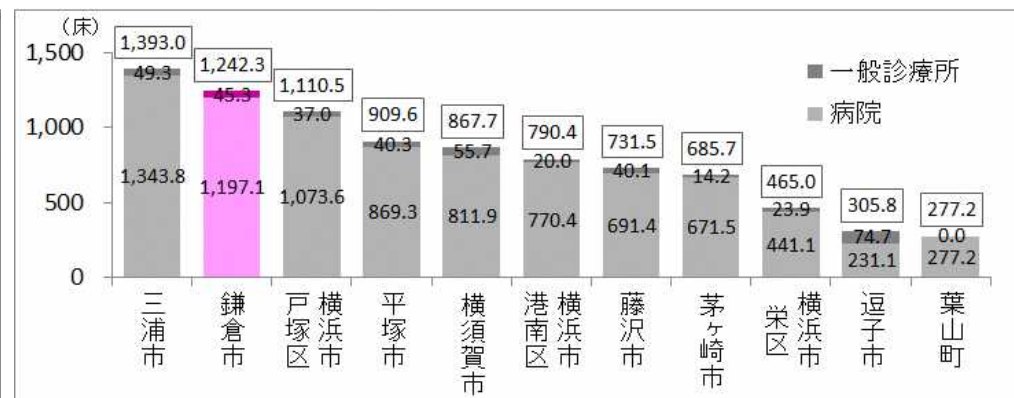
- ・人口あたりの医療施設数・病床数は、いずれも他の市町に比べて多く、県内でもトップクラスの水準である。特に病院が充実している。
- ・核家族化等により育児への不安が高まる中、市では乳児家庭全戸訪問事業を推進しており、実施率は98.7%とほぼ100%に迫る高水準を達成しており、他市と比べても高い水準である。
- ・幼児健康診査受診率も高い水準となっているが、他市と比べるとやや低い状況である。

図表4-14 医療施設数の比較(平成28年度)



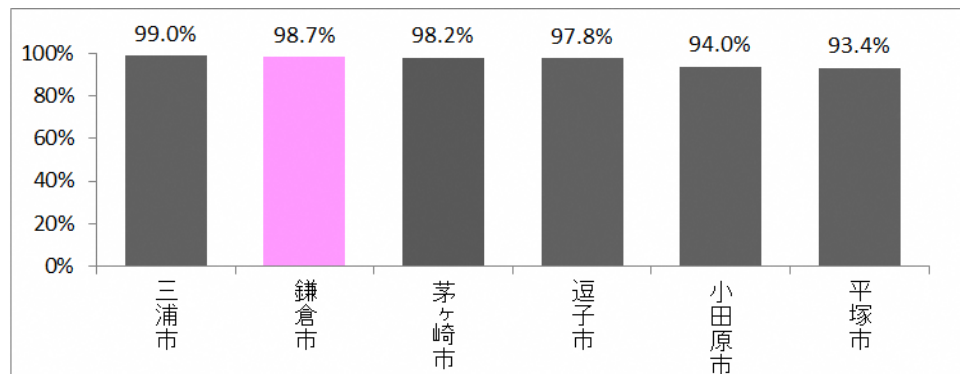
資料)「平成28年神奈川県衛生統計年報統計表」より作成

図表4-15 病床数の比較(平成28年度)



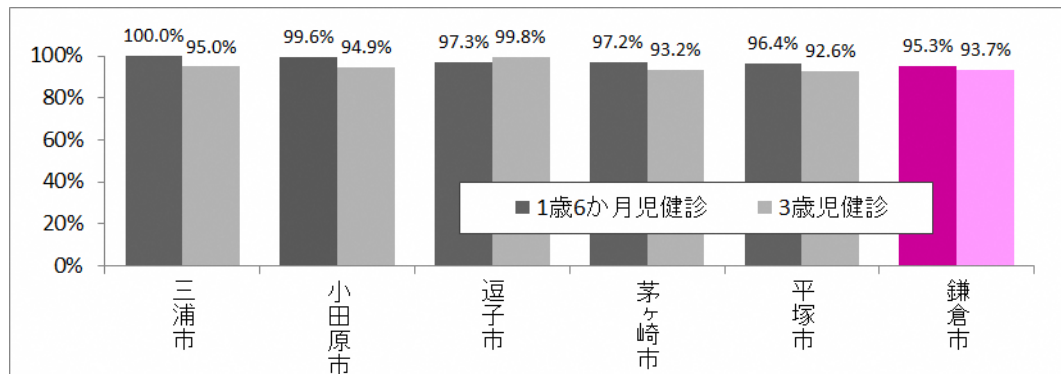
資料)「平成28年神奈川県衛生統計年報統計表」より作成

図表4-16 乳児家庭全戸訪問事業実施率の比較(平成28年度)



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-17 幼児健康診査受診率の比較(平成28年度)



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

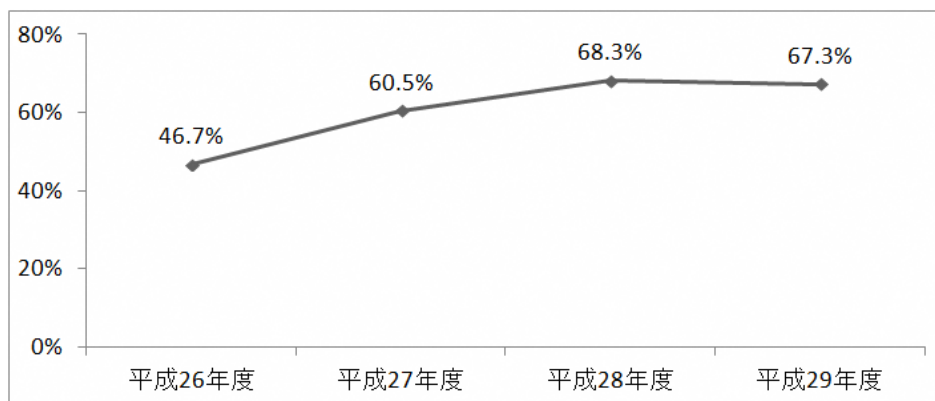
分野(1)健康福祉

施策の方針 市民の健康と安心づくりの推進 3

鎌倉市の動向

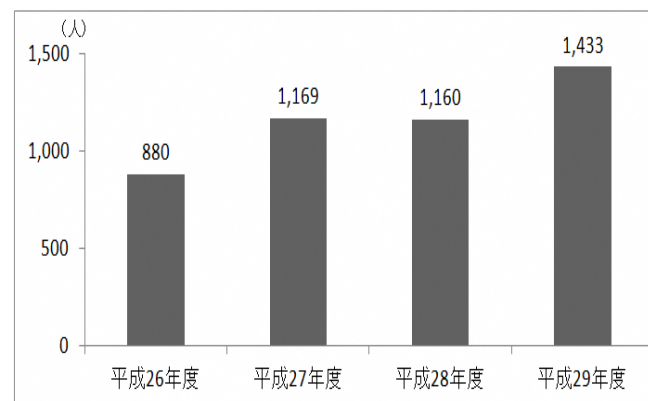
- ・休日夜間急患診療所における小児科医配置率は、平成26年度から28年度にかけて20ポイント以上上昇し、医療体制の整備が進んだが、その後横ばいに転じている。一方、休日夜間急患診療所の小児患者数は右肩上がりで増加している。
- ・自殺対策については、近隣市町や関係機関との連携による啓発活動を進めており、平成27年度から28年度にかけて自殺率(人口10万人対)が6.4ポイント減少し、県内の他市と比較しても低水準となっている。

図表4-18 休日夜間急患診療所の小児科医配置率の推移



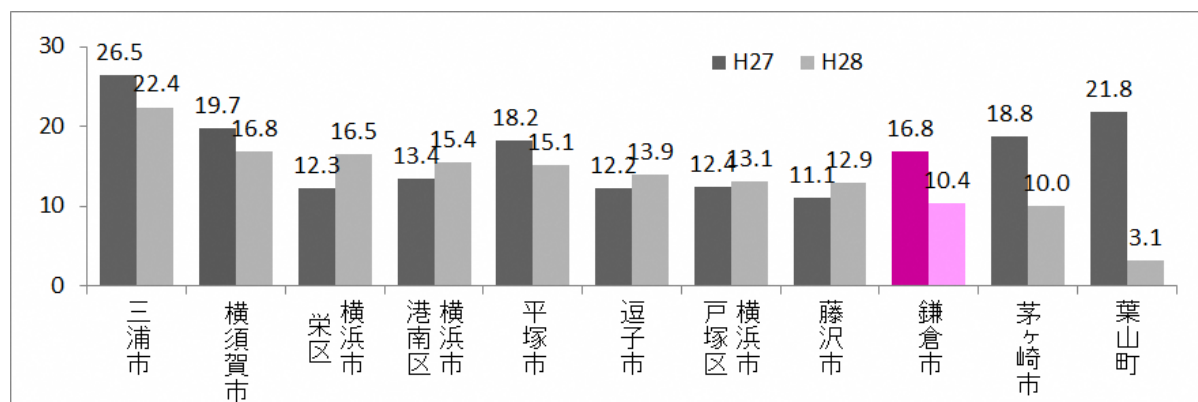
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-19 休日夜間急患診療所の小児患者数の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-20 自殺率(人口10万人対)の比較(平成27・28年度)



資料)「神奈川県衛生統計年報統計表」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

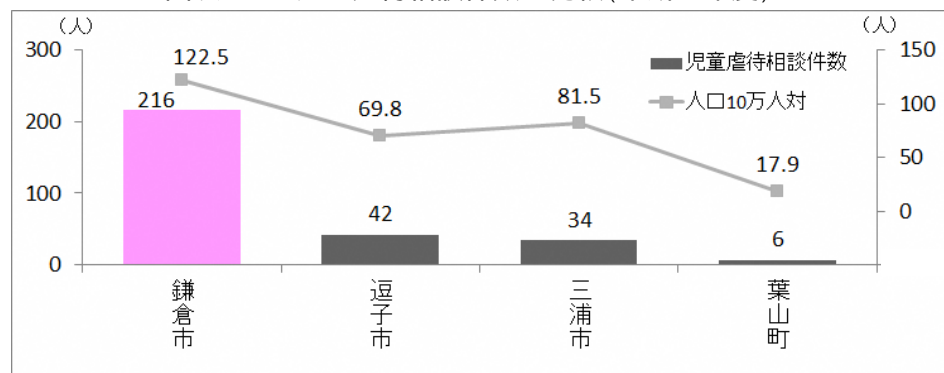
分野(2)子育て

施策の方針 すべての子育て家庭への支援 2

鎌倉市の動向

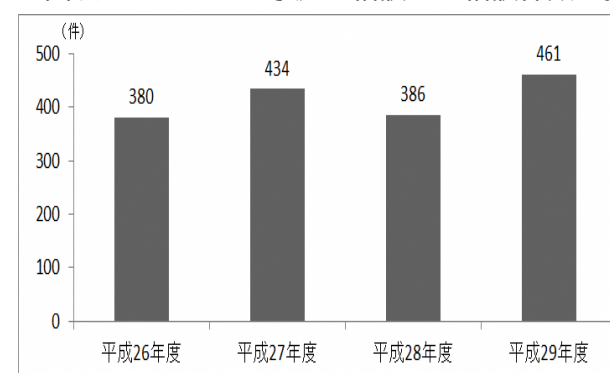
- ・児童虐待相談件数は、鎌倉三浦児童相談所所管の4市町の中で最も多く、人口あたりで比べても他の市町よりも多い状況である。
- ・こどもと家庭の相談室の相談件数は直近の1年で75件増加しており、育児不安等に悩む家庭が増加している。

図表4-25 児童虐待相談件数の比較(平成29年度)



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-26 こどもと家庭の相談室の相談件数の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

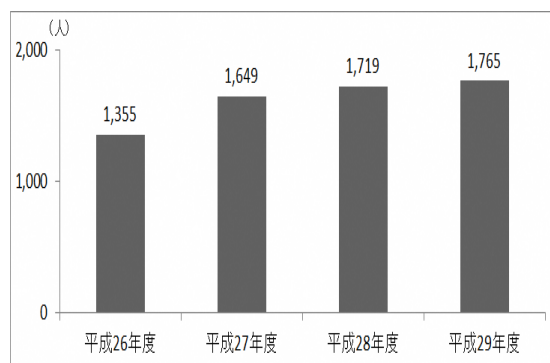
分野(2)子育て

施策の方針 子育て支援施設の整備

鎌倉市の動向

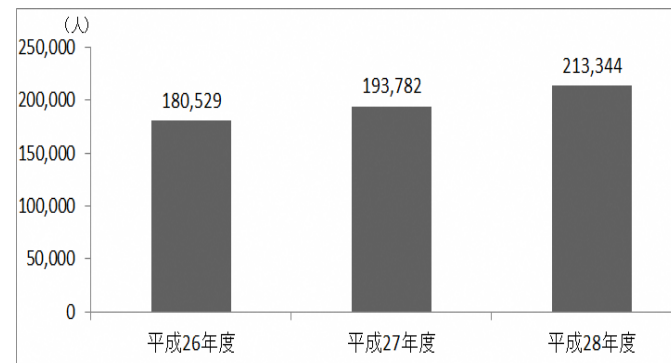
- ・現在の経済情勢や共働き世帯等の増加により、家庭での保育が困難な児童が増加しており、就学後の子どもの家(学童保育)の需要は年々増加している。入所者数はここ4年間で3割の増加となっており、利用者数も増加傾向が続いている。
- ・放課後子ども教室の実施率も25%(4校/全16校)にとどまっている。

図表4-27 子どもの家入所者数



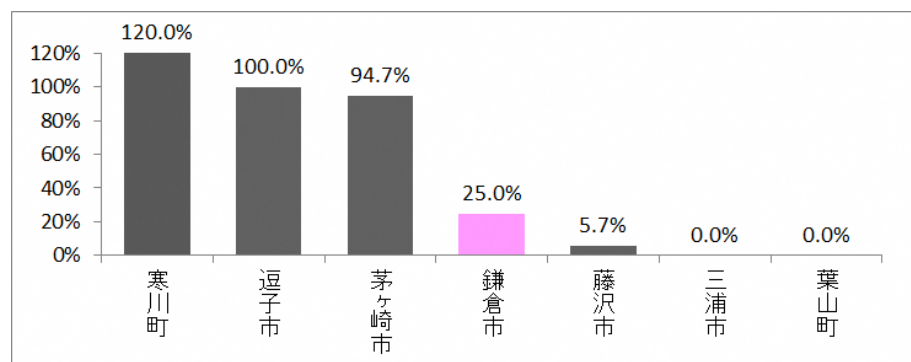
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-28 子どもの家利用者数



資料)「鎌倉の統計」より作成

図表4-29 放課後子ども教室実施率の比較(平成30年度)



実施予定教室数/小学校数で算出。寒川町は5校で6教室実施予定。
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

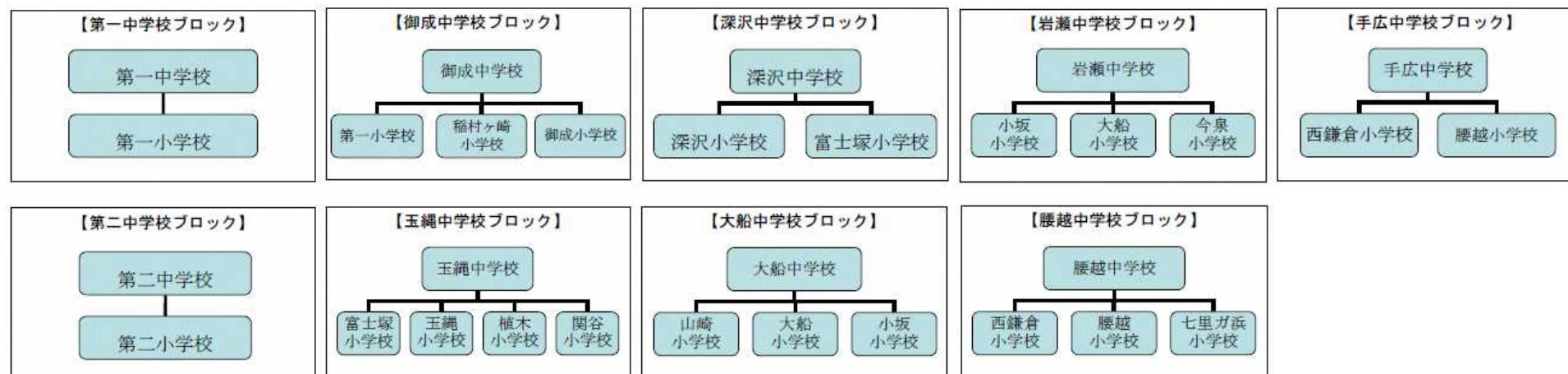
分野(3) 学校教育

施策の方針 安全・安心で開かれた学校づくり

鎌倉市の動向

- ・小中連携の取り組みを推進・充実するための基本方針を策定し、9つの中学校ブロックごとに「目指す子ども像」を共有し、9年間を見通した小中学校が連携した教育(鎌倉市における小中一貫教育)を実施していることが特長となっている。
- ・「地域に開かれた学校づくり」に向けて、全小中学校で「学校に行こう週間」を設定し、小中学校を一般公開している。
- ・児童が安全に登下校できるように、また、安心して学校での活動が行えるようにするため、平成18年7月から委託により鎌倉市立小学校全16校に各1名の警備員を常駐させ、警備業務を行っている。

図表4-30 小中一貫教育における9つの中学校ブロック



資料) 鎌倉市教育委員会資料より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

分野(3)学校教育

施策の方針 教育内容・教育環境の充実

鎌倉市の動向

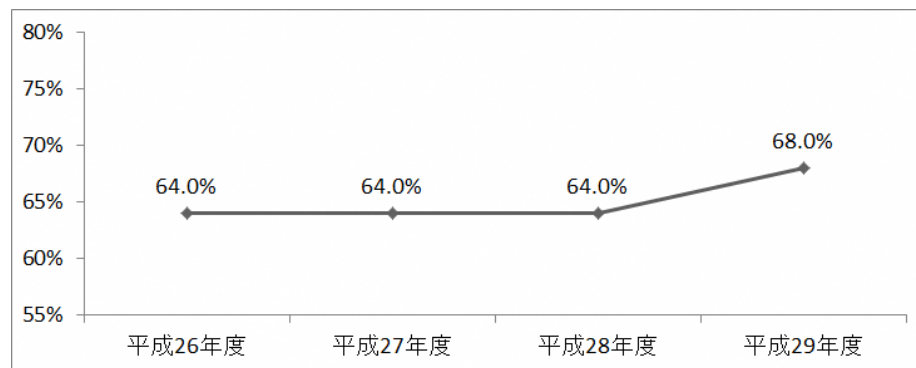
- ・学校現場における課題が多様化・低年齢化する中、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門職の派遣により、学校の教育相談体制を支援・充実させている。
- ・特別支援学級については、全校(25校)における設置を目指しているところであるが、直近4年間では1校増えたのみ(市内全25校のうち設置済みは16校→17校)。なお、平成30年度、31年度に1校ずつ設置し、設置率は76%まで上昇する予定であるが、県内の他市ではすでに100%を達成しているところも少なくない。

図表4-31 スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー配置状況の比較

	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	逗子市	平塚市
スクールソーシャルワーカーの配置	○	○	○	×	○
スクールカウンセラーの配置	○	○	×	○	○

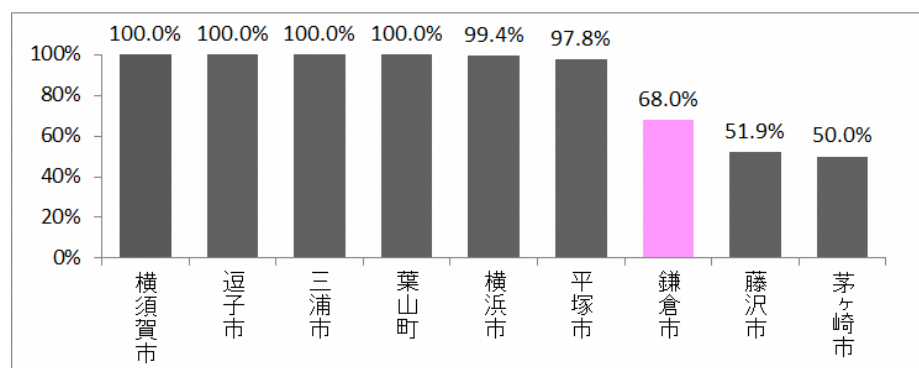
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-32 特別支援学級の設置率の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-33 特別支援学級の設置率の比較(平成29年度)



資料)「神奈川県「平成29年度神奈川の特別支援教育資料」」より作成

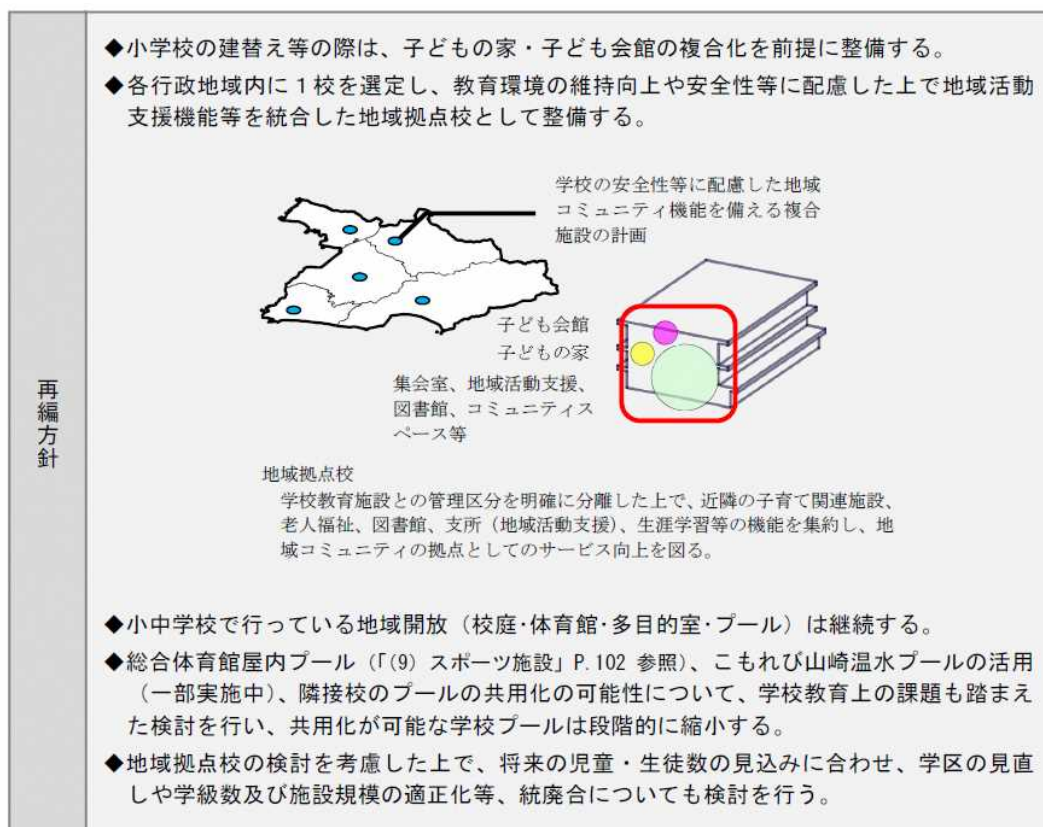
分野(3) 学校教育

施策の方針 学校施設の整備

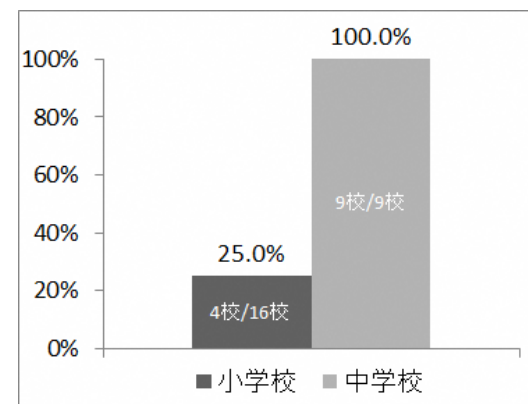
鎌倉市の動向

- ・市立小中学校全25校における対象施設の耐震化については、平成28年度に対応が完了し、耐震化率は100%となっている。学校施設の老朽化対策については、「鎌倉市公共施設再編計画」に基づき、計画的に改修や改築を実施していく予定となっている。
- ・普通教室における冷暖房設備の設置率については、平成29年度末時点で52%（小中13校/全25校）であるが、中学校9校については平成29年度までに設置が完了しており、小学校16校についても、平成31年度までにすべての学校で設置を目指す。また、トイレ改修についても平成32年度までにすべてのトイレ設備における改修を行う予定となっている。

図表4-34 学校施設における再編方針



図表4-35 普通教室への冷暖房設備設置率



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

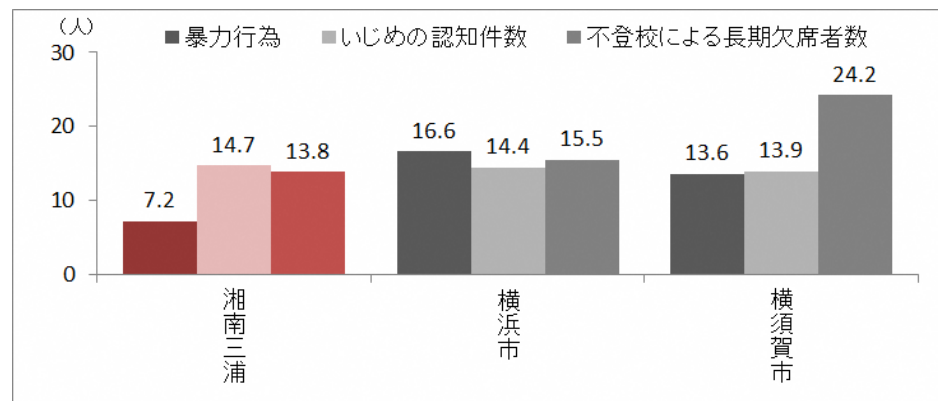
分野(4) 青少年育成

施策の方針 青少年の育成・支援

鎌倉市の動向

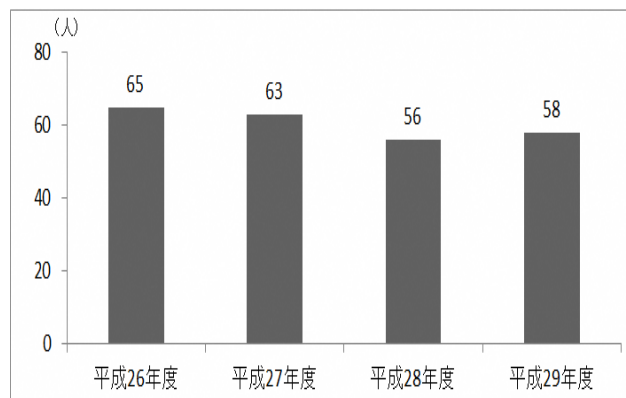
- ・公立小中学校における問題行動等の状況を湘南三浦教育事務所管内でみると、横浜市や横須賀市と比べて、暴力行為は半分程度の水準であり、不登校による長期欠席者数も比較的少ない状況である。
- ・青少年指導員の人数及び青少年会館利用者は、横ばいから微減の傾向にある。

図表4-36 暴力行為、いじめ、長期欠席の比較(平成28年度、公立小中学校1,000人あたり)



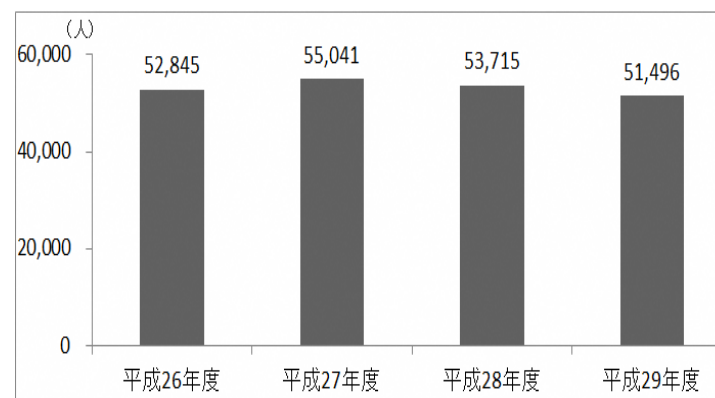
資料) 「平成28年度神奈川県児童・生徒の問題行動等調査」より作成

図表4-37 青少年指導員の人数の推移



資料) 「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-38 青少年会館利用者数の推移



資料) 「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

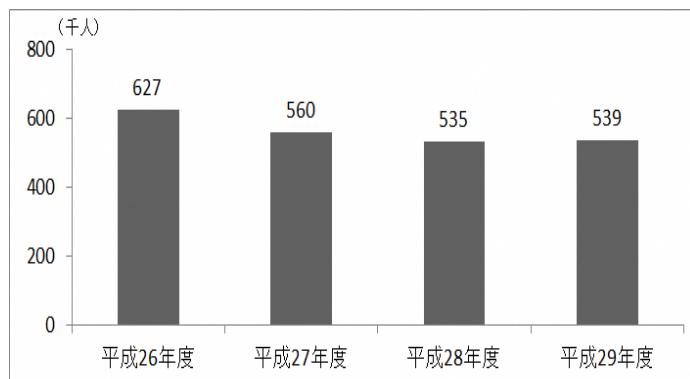
分野(5)生涯教育

施策の方針 多様な学習機会の提供と学習成果の活用

鎌倉市の動向

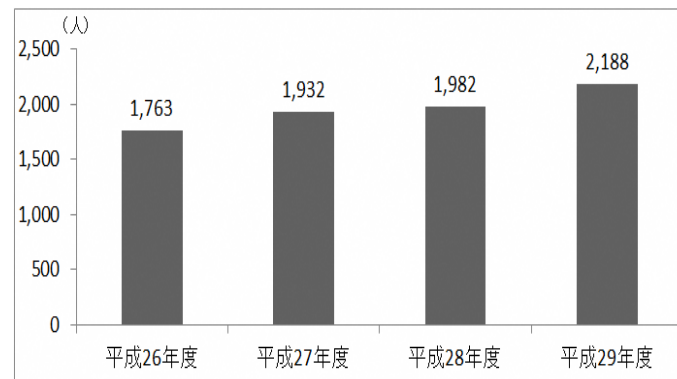
- ・学習センターの利用者数は、横ばいから微減の傾向にある。
- ・放課後子ども教室は、現在のところ稲村ヶ崎小学校及び今泉小学校の2校で実施しているが、利用者は増加傾向にあり、ニーズは拡大しているといえる。

図表4-39 学習センター利用者数の推移



鎌倉生涯学習センター、腰越学習センター、深沢学習センター、
大船学習センター、玉縄学習センター、玉縄学習センター分室の合計
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-40 放課後子ども教室参加児童数(稲村ヶ崎小・今泉小)の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

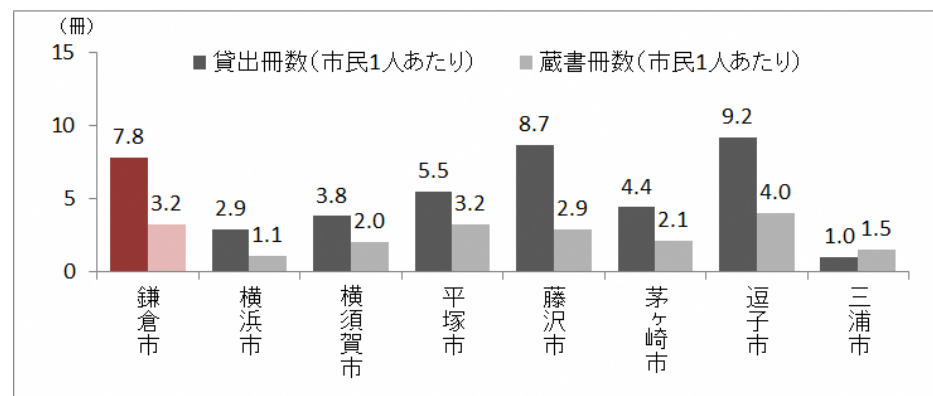
分野(5)生涯教育

施策の方針 学習環境の整備・充実1

鎌倉市の動向

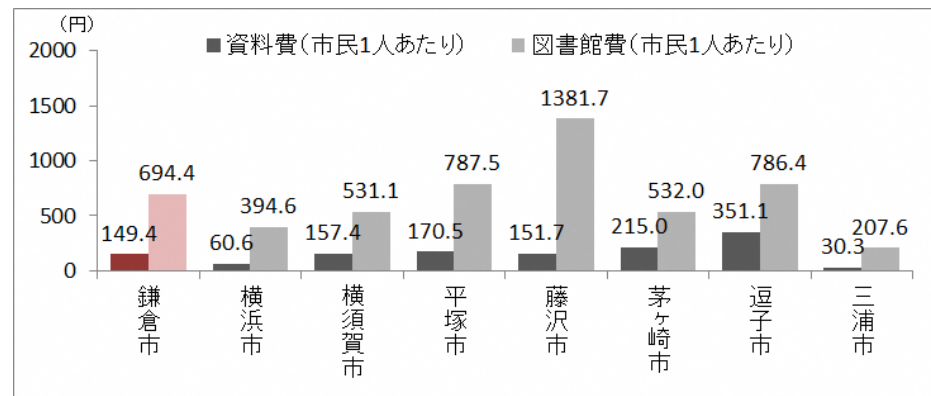
・図書館の蔵書冊数・貸出冊数は、市民1人あたりで見ると比較的多く、特に貸出冊数は7.8冊と横浜市、横須賀市、平塚市、茅ヶ崎市、三浦市などを大幅に上回っている。その分、資料費・図書館費もやや高い水準にあるが、図書館が比較的良好に使われている地域性があるといえる。ただし、貸出冊数の推移を見ると、横ばいから微減の傾向にある。

図表4-41 図書館貸出冊数・蔵書冊数の比較(平成28年度、市民1人あたり)



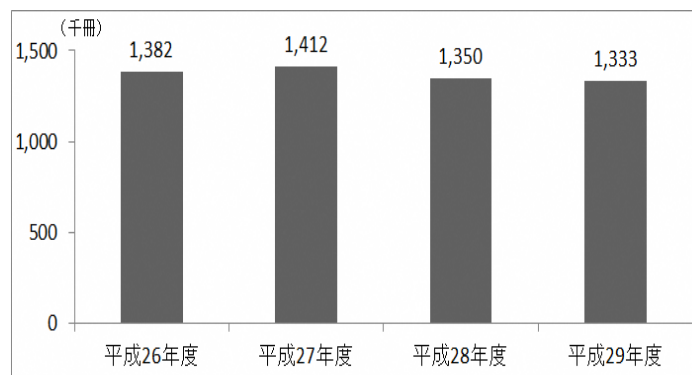
資料)「日本の図書館 2018」より作成

図表4-42 図書館資料費・図書館費の比較(平成28年度、市民1人あたり)



資料)「日本の図書館 2018」より作成

図表4-43 図書館貸出冊数の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

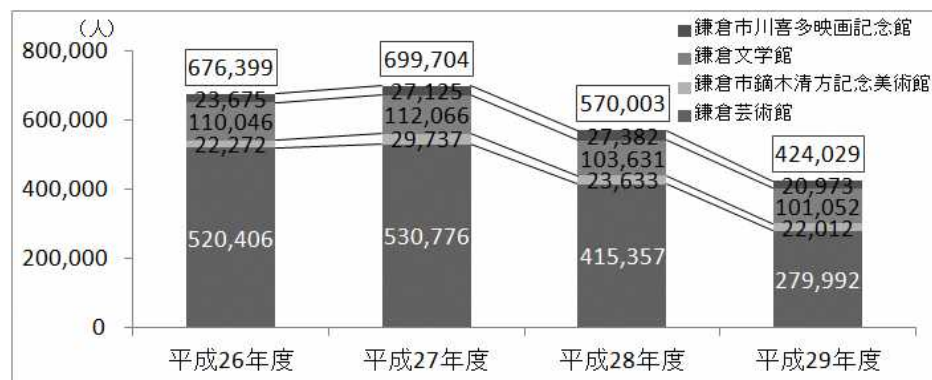
分野(5)生涯教育

施策の方針 学習環境の整備・充実2

鎌倉市の動向

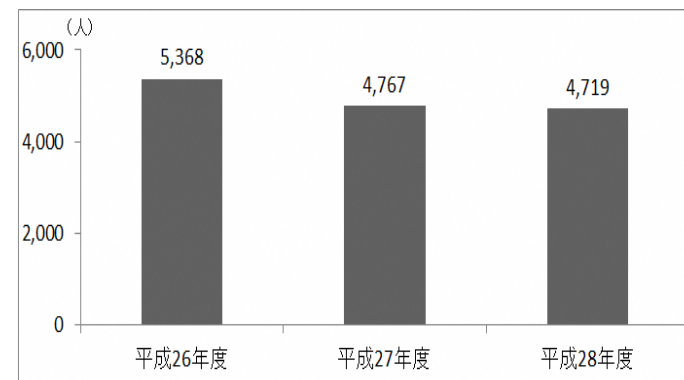
・本市は、歴史・資料等の学習資源を豊富に有しており、鎌倉文学館、鎌倉市川喜多映画記念館、鎌倉市鍋木清方記念美術館、吉屋信子記念館、鎌倉芸術館など、文化施設が充実しているが、利用者数は横ばいから減少傾向にある。特に鎌倉芸術館は利用者の減少傾向が近年拡大している。

図表4-44 文化施設における利用者数の推移



資料)「鎌倉市オープンデータ」より作成

図表4-45 吉屋信子記念館利用者数の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

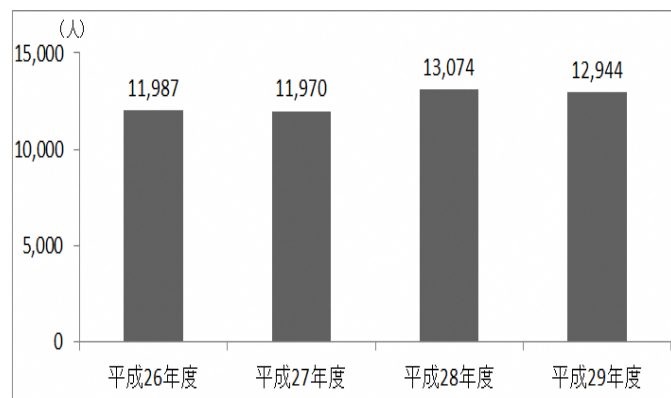
分野(6)スポーツ・レクリエーション

施策の方針 市民スポーツ・レクリエーションの推進1

鎌倉市の動向

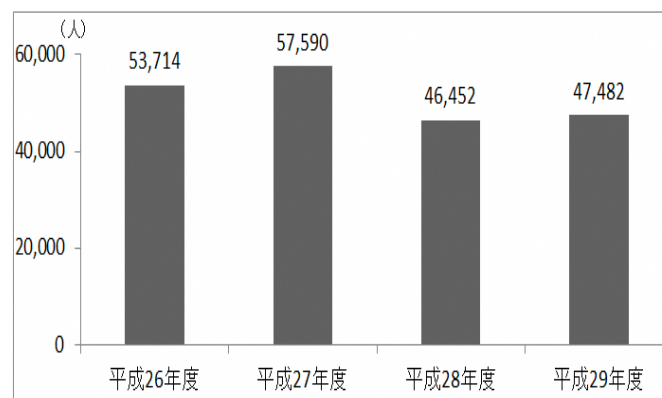
・体育協会、レクリエーション協会加盟人数はやや増加傾向にある。地区スポーツ振興会協議会スポーツ行事の参加人数はやや減少しているものの、指定管理スポーツ施設の利用者数は増加傾向にあり、利用率も約9割という高水準で推移している。スポーツ・レクリエーションに対する市民意識は高まっていると考えられる。

図表4-46 体育協会、レクリエーション協会加盟人数の推移



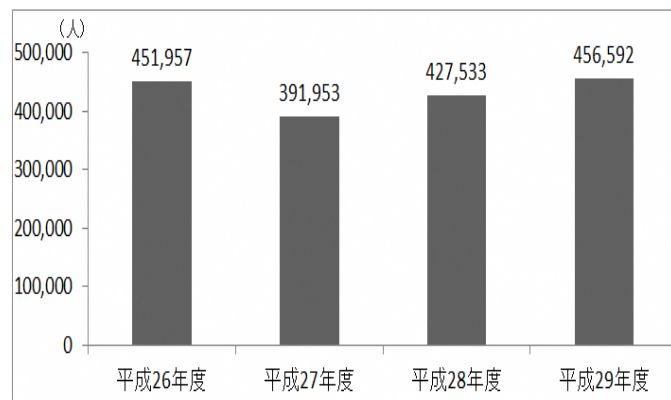
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-47 地区スポーツ振興会協議会スポーツ行事参加人数の推移



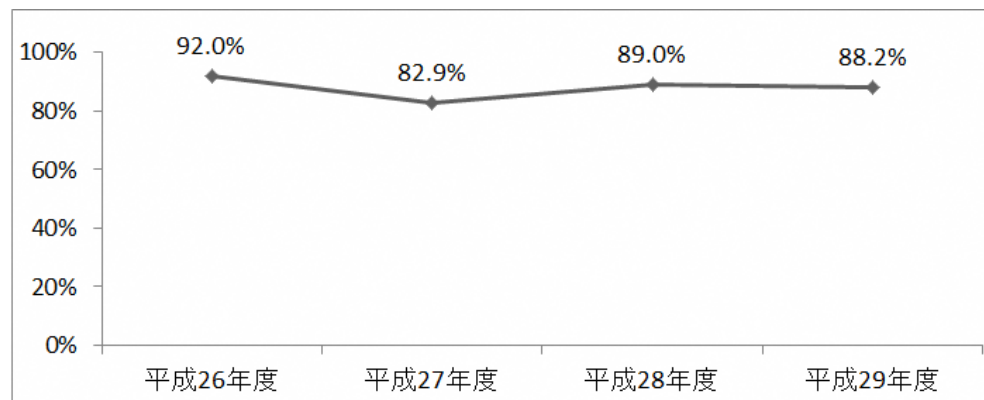
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-48 指定管理スポーツ施設利用者数の推移



37
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-49 指定管理スポーツ施設利用率の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

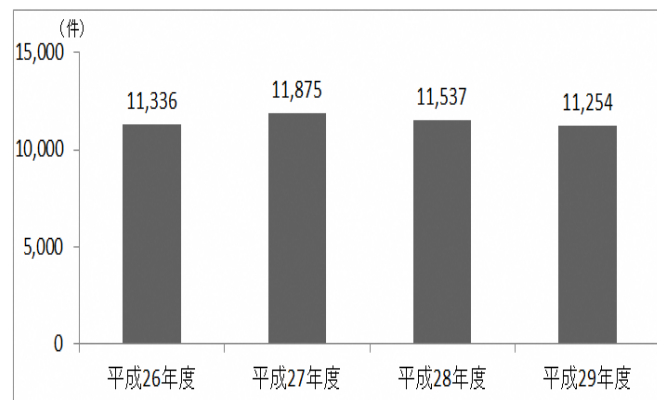
分野(6)スポーツ・レクリエーション

施策の方針 市民スポーツ・レクリエーションの推進2

鎌倉市の動向

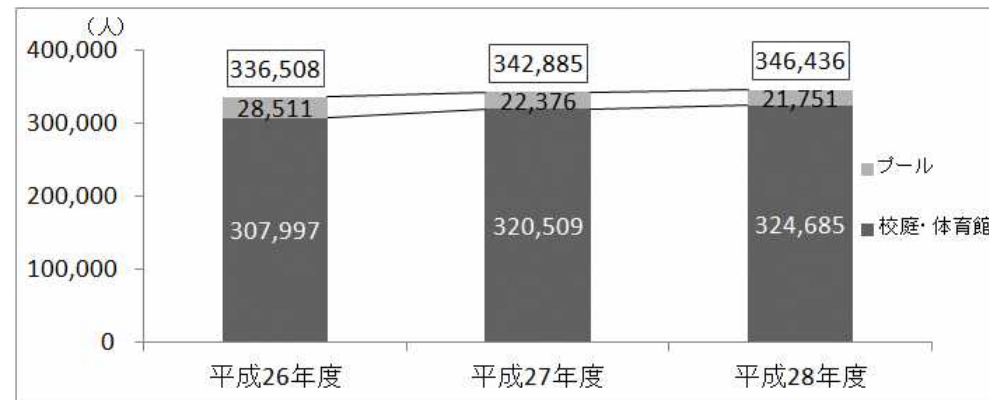
- ・学校における体育施設の開放については、多くの団体が利用しており、市民に定着しているといえる。
- ・特に校庭・体育館の利用者数は増加傾向にあり、市民利用が進んでいる。

図表4-50 学校開放団体利用数の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表4-51 学校体育施設等開放事業の利用状況の推移(市立小中学校)



資料)「鎌倉の統計 平成29年度」より作成

将来目標4 健やかで心豊かに暮らせるまち

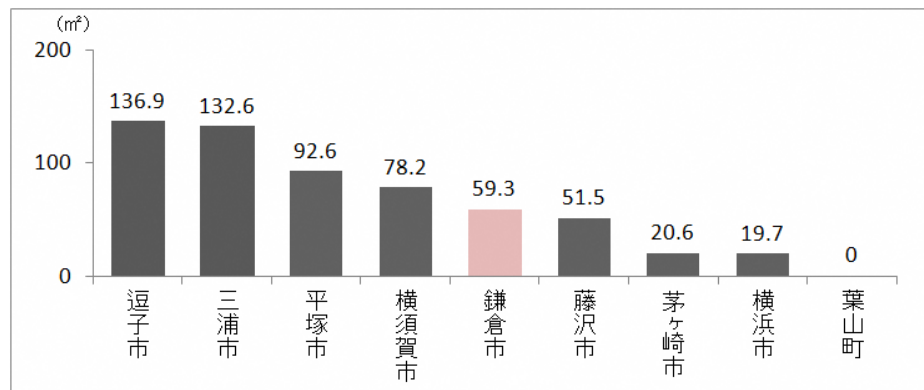
分野(6)スポーツ・レクリエーション

施策の方針 スポーツ施設の整備

鎌倉市の動向

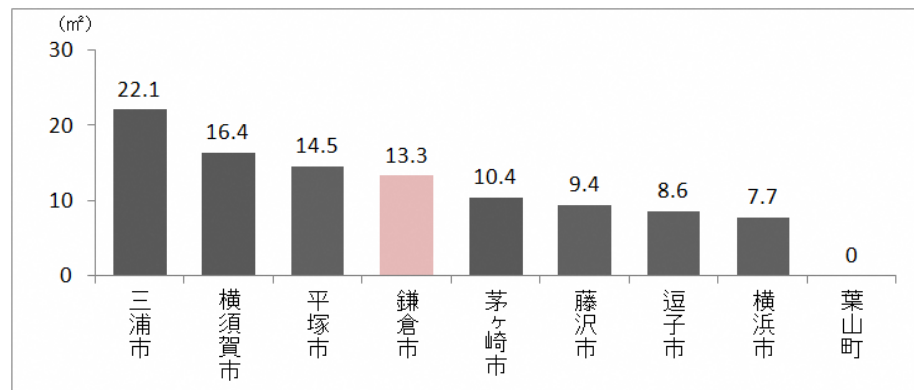
- ・本市は、市民1,000人あたりで比較すると、スポーツ施設がやや少ない状況にある。
- ・本市では、こもれび山崎温水プールの整備・運営においてPFIを導入している。また、鎌倉体育館、大船体育館、鎌倉武道館及び見田記念体育館には指定管理者制度を導入しており、民間事業者のノウハウを活用したプログラムの提供や計画的な施設修繕等により、市民サービスの向上に努めている。

図表4-52 体育館の延床面積の比較(平成28年度、市民1,000人あたり)



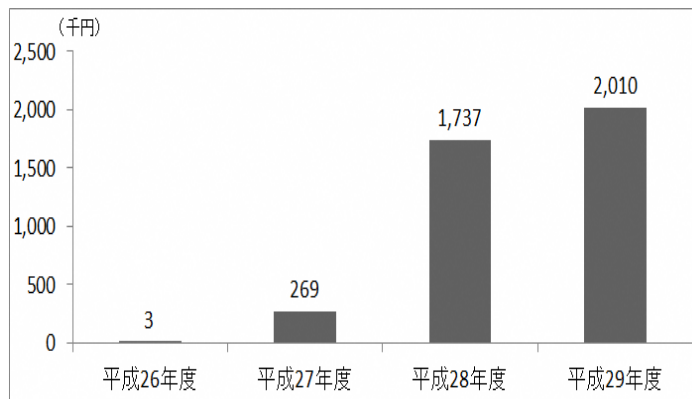
資料)「平成28年度市町村公共施設概要」より作成

図表4-53 プールの水面面積の比較(平成28年度、市民1,000人あたり)



資料)「平成28年度市町村公共施設概要」より作成

図表4-54 スポーツ施設建設基金寄附積立金の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標に係る地域の概況

市は安全・安心なまちならびに快適な都市環境の創出に向けた多くの取り組みを実施している。一方で、高齢者による交通事故や、老朽化した住宅、インフラなどが多い。

分野(1)防災・安全

大規模災害に備え、減災の考え方をもとに「自助」「共助」「公助」の視点から様々な対策を実施している。刑法犯認知件数は減少傾向にある。また、自主防犯活動組織率は一定の水準にあるが、横ばいである。

分野(2)市街地整備

市は歴史的遺産や文化資源、みどり豊かな自然環境を有している。様々な用途地域が混在している。

分野(3)総合交通

市には多くの観光客が訪れ、自動車利用が多く、交通渋滞が発生している。交通事故件数は減少傾向にあるものの、特に高齢者による交通事故が増加している。

分野(4)道路整備

市道が多く、近隣市に比べ都市計画道路の総延長が短い傾向にある。また、老朽化の進む橋りょうが多い。

分野(5)住宅・住環境

市は歴史ある都市であるとともに、高経年の住宅が多い。市営住宅については、ニーズが高いものの供給戸数は低調傾向にあり、高齢者向け住宅も低調傾向にある。

将来目標に係る地域の概況

市は安全・安心なまちならびに快適な都市環境の創出に向けた多くの取り組みを実施している。また、人口構造や社会情勢の変化に伴う役割やニーズが変化している。

分野(6)下水道・河川

マンホールの耐震化や河川、雨水調整池への浸水対策が低調傾向にある。
下水道から多くの温室効果ガスが発生している。

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

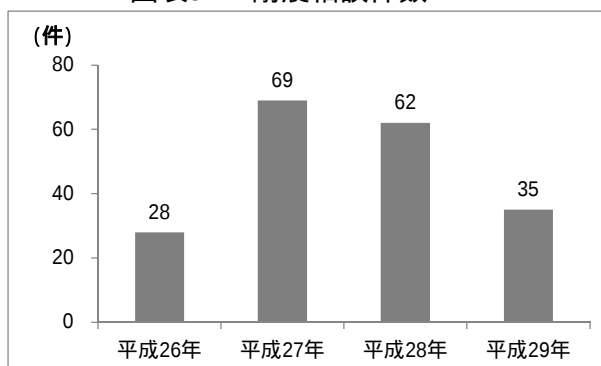
分野(1)防災・安全

施策の方針 地震対策・風水害対策の充実 1

鎌倉市の動向

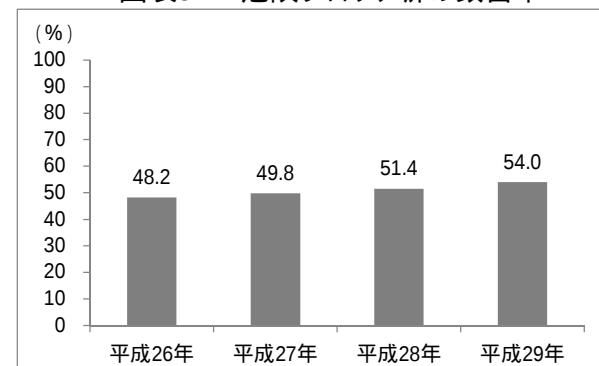
- ・耐震相談件数は近年減少しており、耐震診断実施住宅率は比較対象都市の中で5番目の水準であるが10.2%と低調傾向にある。
- ・危険ブロック塀の改善率は上昇傾向にあるものの、改善率は小さい。

図表5-1 耐震相談件数



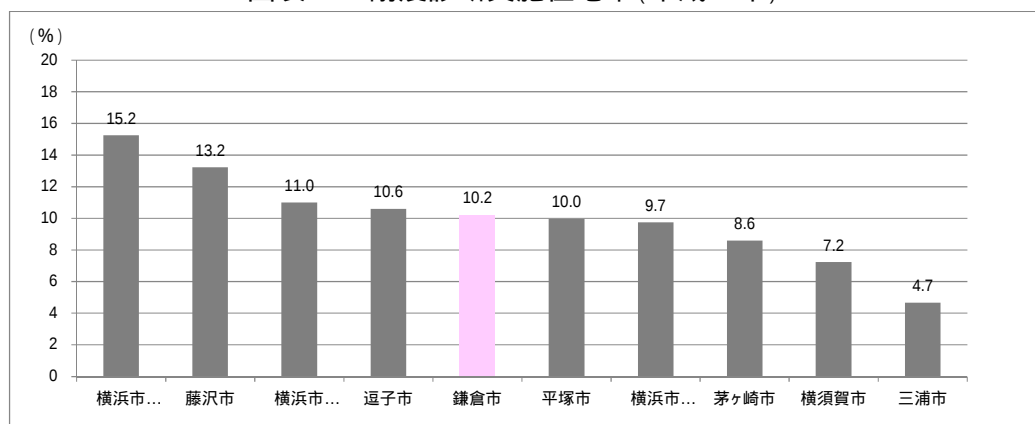
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-2 危険ブロック塀の改善率



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-3 耐震診断実施住宅率(平成25年)



資料)「住宅土地統計調査(平成25年)」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

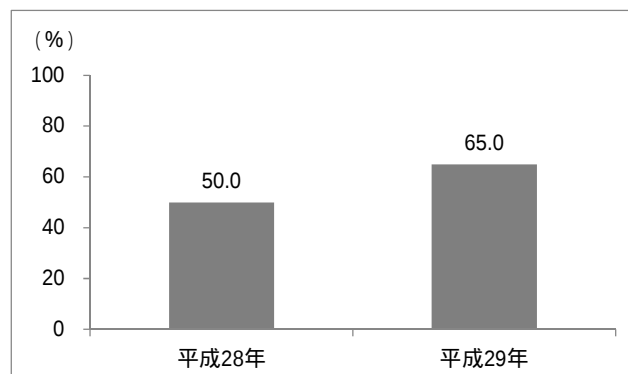
分野(1)防災・安全

施策の方針 地震対策・風水害対策の充実 2

鎌倉市の動向

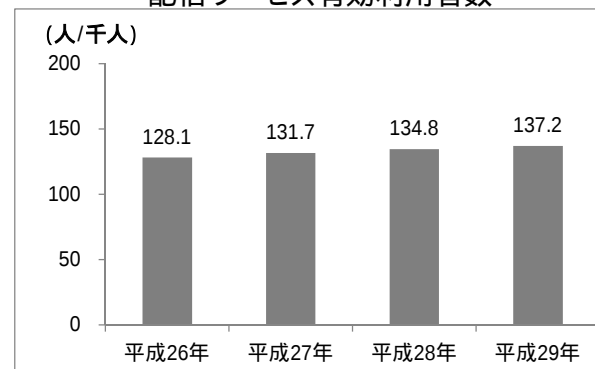
- ・平成29年における災害時避難行動要支援者名簿の自治体への提供率は65%であり、平成28年から15%増加している。
- ・防災・安全情報メール配信サービス利用者数は近年増加している。
- ・急傾斜地崩壊区域指定率は平成27年以降横ばいである。

図表5-4 災害時避難行動要支援者名簿の提供率



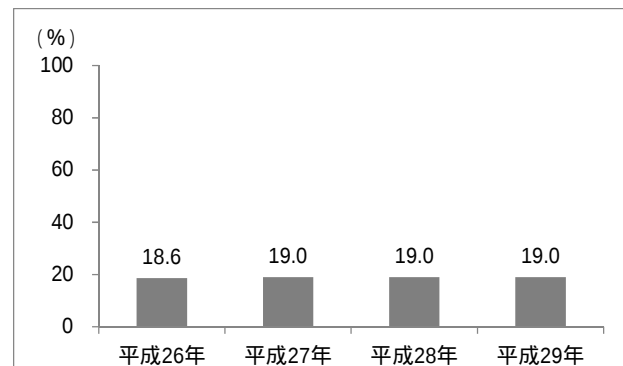
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-5 人口千人あたり防災・安全情報メール配信サービス有効利用者数



資料)「平成30年度行政評価シート」、「鎌倉の統計」より作成

図表5-6 急傾斜地崩壊危険箇所のうち急傾斜地崩壊区域指定率

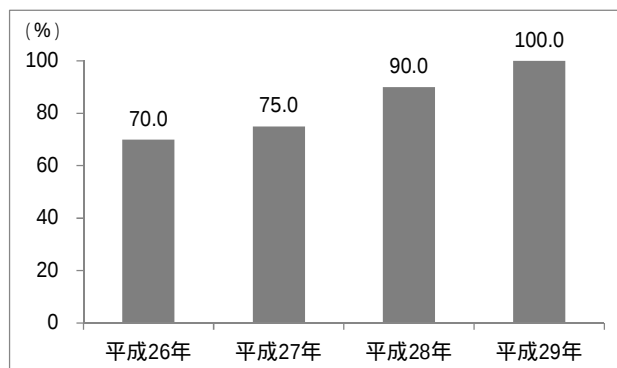


資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

鎌倉市の動向

・防災に係る職員研修は着実に実施されている。

図表5-7 予算に対する職員研修派遣達成率



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-8 鎌倉市緊急事態対策計画に位置づけられている各種職員研修

(1) 一般研修

市は、職員を対象に次表の職員研修を実施する。

表2-2 一般研修

区 分	研 修 内 容
全職員 (年1回程度)	危機管理意識を高揚させるため、全職員を対象に講座や講演会等を実施し、安全・安心なまちづくりを進めるに当たっての危機管理の重要性について研修する。
部長級職員 (随時)	緊急事態対策本部等設置時における迅速・的確な判断能力を身につけるため、部長級職員を対象に、危機管理に関する理論、情報管理及びリーダーシップについて研修する。
新規採用職員	新規採用職員を対象に、本市職員として必要な危機管理への対応能力を身につけるため、危機管理体制の概要等について研修する。

(2) 派遣研修

市は、緊急事態発生時に迅速・的確な判断ができるよう、必要に応じ、緊急事態対策本部長（市長）・同警戒本部長（副市長）や防災安全部・消防本部職員等を対象に、次表により派遣研修を実施する。

表2-3 派遣研修

区 分	研 修 内 容
市長及び副市長	緊急事態対策本部長（市長）及び同警戒本部長（副市長）を対象に、緊急事態発生時に迅速・的確な判断ができるよう、危機管理統括者として必要なトップマネジメントについて研修する。
防災安全部、消防本部職員等 (随時)	防災安全部・消防本部職員等を対象に、緊急事態発生時の初動対応及び迅速・的確な情報収集能力を高めさせるため、過去の緊急事態対応の教訓や危機管理に関する先進的な取組事例について研修する。

資料)「鎌倉市緊急事態対策計画【総論編】 第2章 第2 訓練・研修の実施」より

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

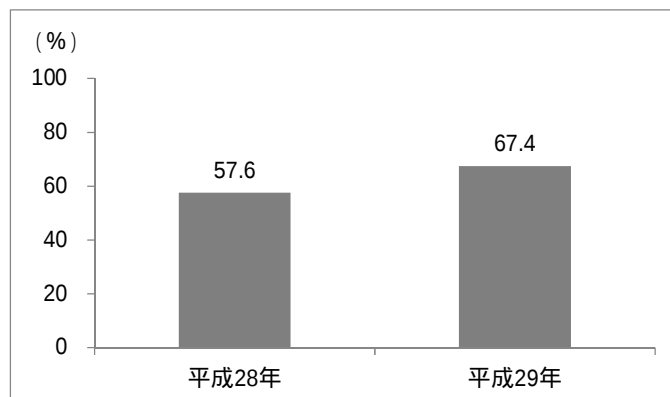
分野(1)防災・安全

施策の方針 消防機能の整備・充実 1

鎌倉市の動向

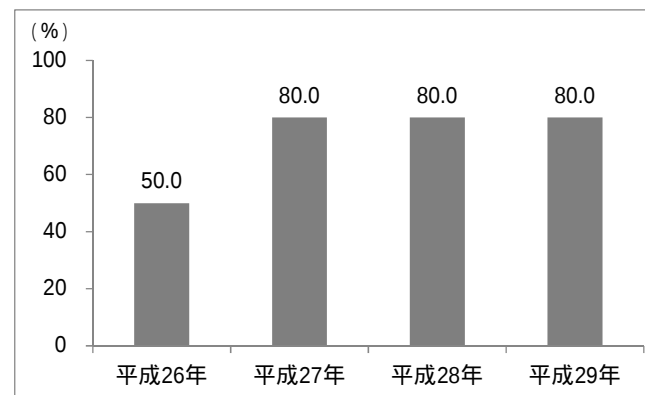
- ・自主防災組織の防火・防災訓練実施率は上昇している。
- ・消防庁舎の修繕率は80%であるが、平成27年以降横ばいである。
- ・消防団活動の実施率は97%と火災時の地域消防力は高いと思われる。一方で、住宅用火災警報器設置率は平成26年調査に比べ平成27～29年調査では低い傾向にある。

図表5-9 自主防災組織の防火・防災訓練実施率



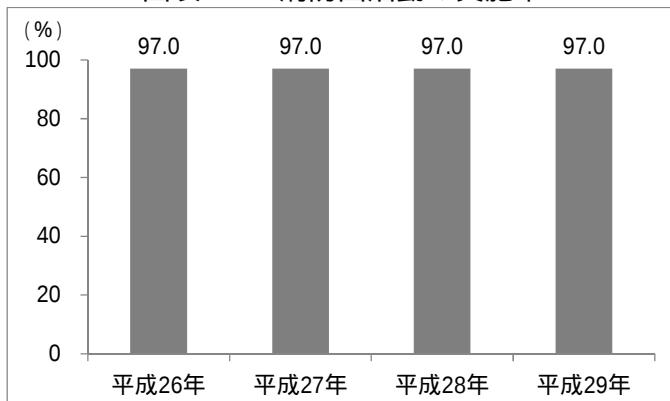
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-10 消防庁舎の修繕率



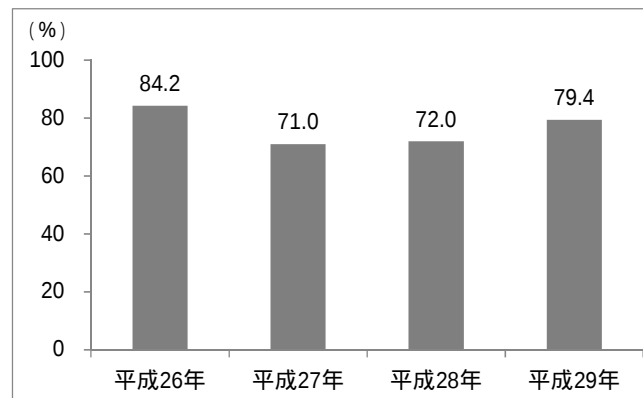
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-11 消防団活動の実施率



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-12 住宅用火災警報器設置率



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

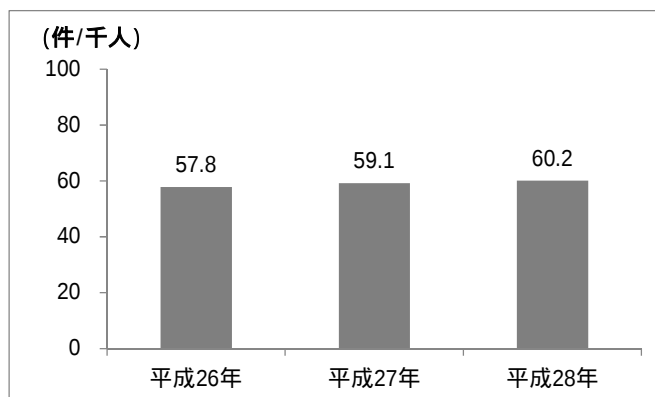
分野(1)防災・安全

施策の方針 消防機能の整備・充実 2

鎌倉市の動向

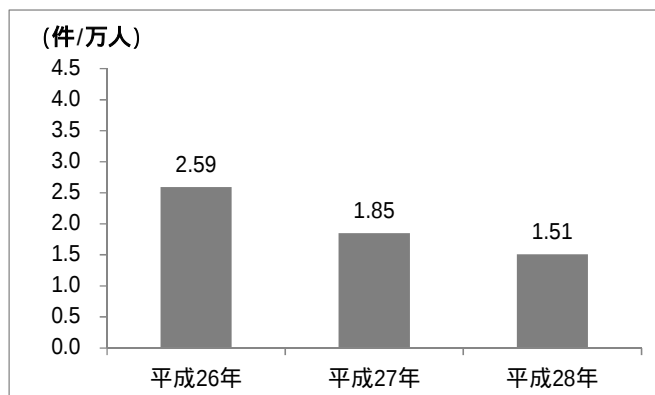
- ・人口千人あたり救急隊出動件数は増加傾向にあり、比較対象9都市の中で2番目に高い水準にある。
- ・人口1万人あたり火災による消防隊出動回数は減少傾向にあり、比較対象9都市の中で最も低い水準にある。

図表5-13 人口千人あたり救急隊出動件数



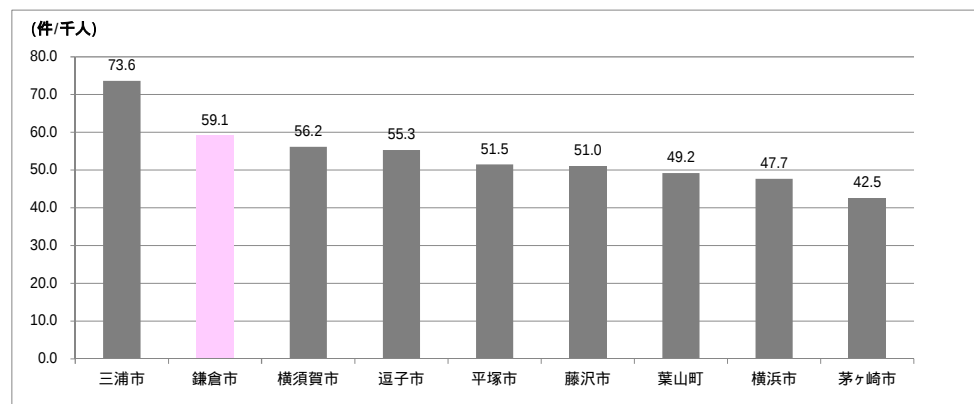
資料)「鎌倉の統計」より作成

図表5-15 人口1万人あたり火災による消防隊出動回数



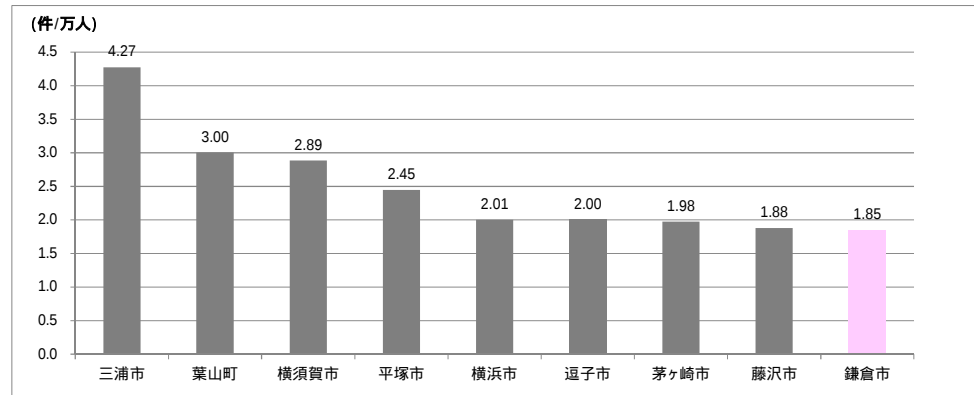
資料)「鎌倉の統計」より作成

図表5-14 人口千人あたり救急隊出動回数の比較(平成27年)



資料)「神奈川県消防統計」「住民基本台帳にもとづく住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成

図表5-16 人口1万人あたり火災による消防隊出動回数の比較(平成27年)



資料)「神奈川県消防統計」「住民基本台帳にもとづく住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

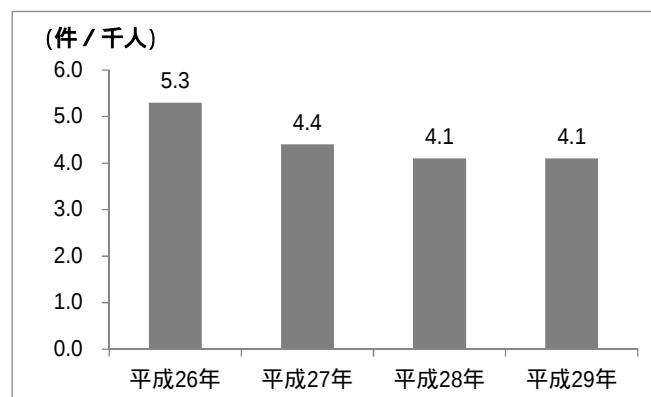
分野(1)防災・安全

施策の方針 防犯活動の充実・強化

鎌倉市の動向

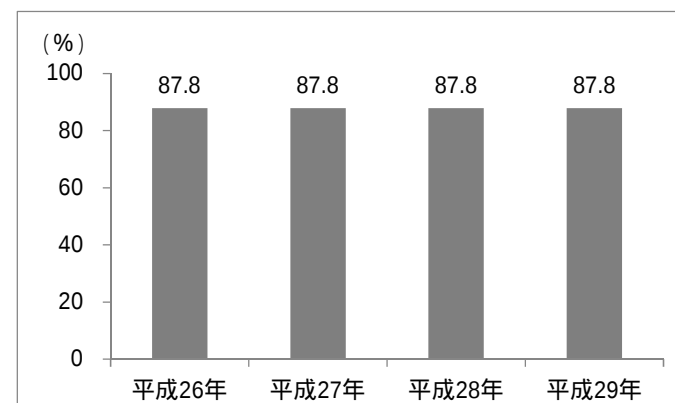
- ・人口千人あたり刑法犯認知件数は減少しており、比較対象11都市の中で9番目の水準である。
- ・自主防犯活動団体の組織率は87.8%と、地域防犯力の高さがうかがえる。

図表5-17 人口千人あたり刑法犯認知件数



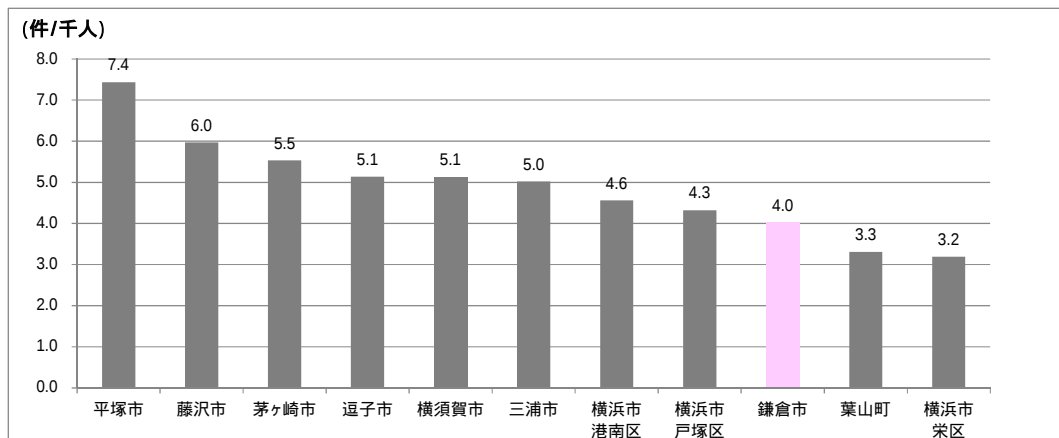
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-18 自治会・町内会数に対する自主防犯活動団体組織率



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-19 人口千人あたり刑法犯認知件数の比較(平成29年)



資料)「神奈川県警 刑法犯罪名別市区町村別認知件数」
「住民基本台帳にもとづく住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

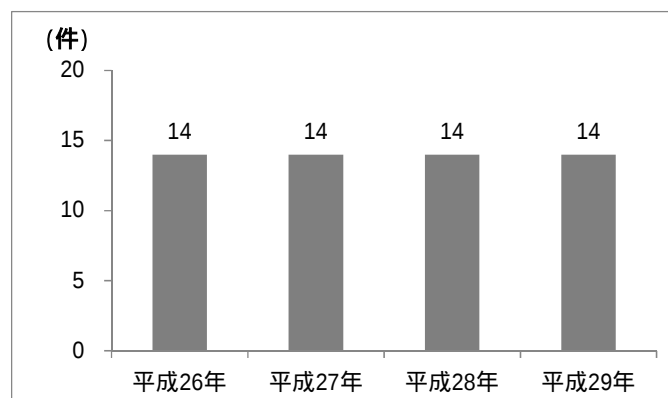
分野(2)市街地整備

施策の方針 市街地整備の推進

鎌倉市の動向

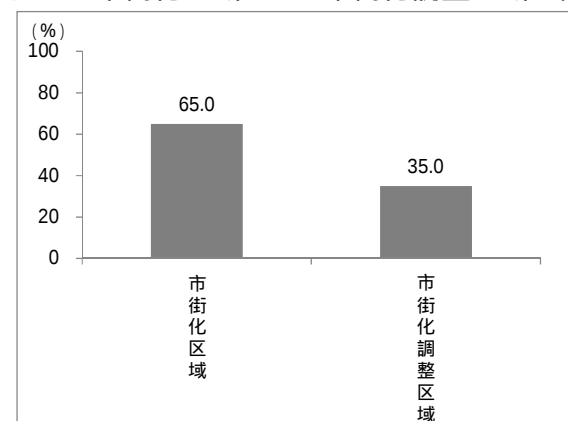
- ・まちづくり条例に基づく自主まちづくり計画提案数は平成26年以降横ばいである。
- ・市街化調整区域面積割合が35%である。また、市内には様々な用途地域が混在している。

図表5-20 まちづくり条例に基づく自主まちづくり計画提案数



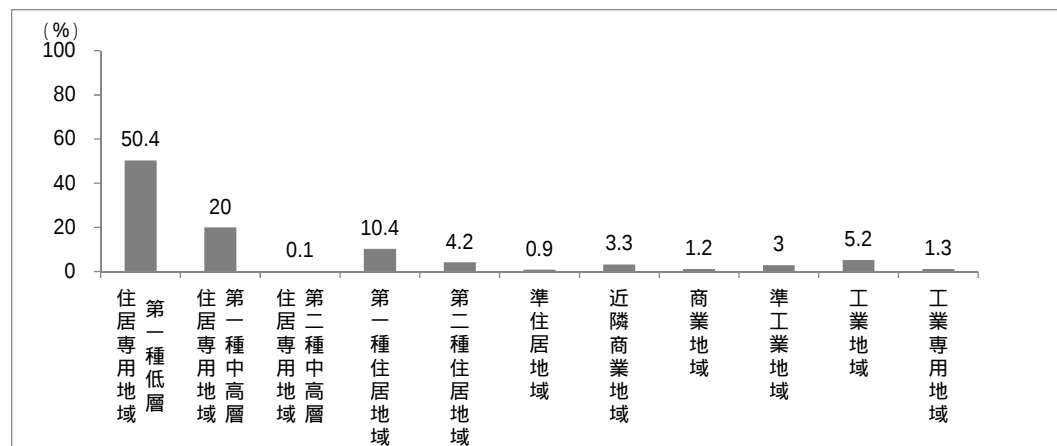
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-21 市街化区域および市街化調整区域の面積割合



資料)「鎌倉の統計」より作成

図表5-22 用途地域別面積率



資料)「鎌倉の統計」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

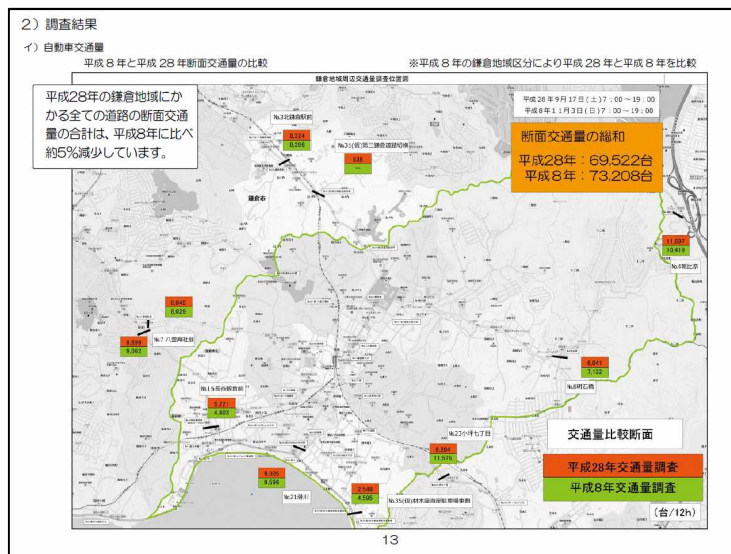
分野(3) 総合交通

施策の方針 道路・交通体系の検討 2

鎌倉市の動向

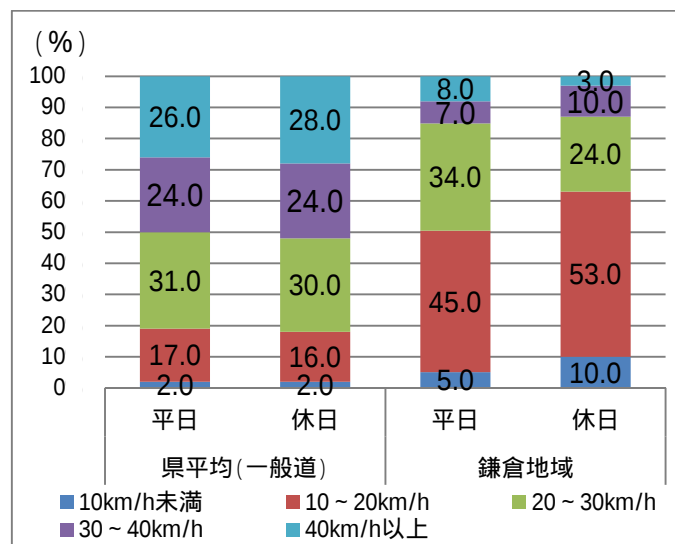
・平成28年における断面交通量は減少傾向にあるものの、市内の平均旅行速度は県平均と比べ平日は60%、休日は50%程度である。

図表5-25 自動車交通量調査結果



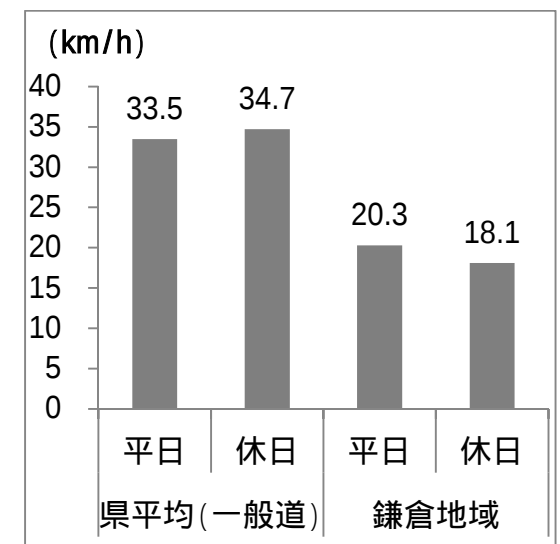
資料)「鎌倉市交通計画検討委員会(第12回)」資料より

図表5-26 平均旅行速度別の道路延長構成比



資料)「国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所 鎌倉エリア観光渋滞対策実験協議会(第2回)」資料より作成
注)ETC2.0プローブ情報(2017.4~2018.3)7:00~19:00の12時間平均旅行速度
注)一般道は道路交通センサス対象路線、鎌倉地域は国道134号、(主)横浜鎌倉線、(主)藤沢鎌倉線、(一)金沢鎌倉線、(一)鎌倉葉山線

図表5-27 平均旅行速度



資料)「国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所 鎌倉エリア観光渋滞対策実験協議会(第2回)」資料より作成
注)ETC2.0プローブ情報(2017.4~2018.3)7:00~19:00の12時間平均旅行速度
注)一般道は道路交通センサス対象路線、鎌倉地域は国道134号、(主)横浜鎌倉線、(主)藤沢鎌倉線、(一)金沢鎌倉線、(一)鎌倉葉山線

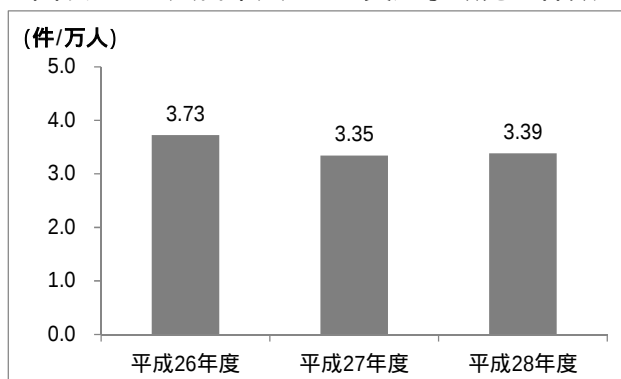
分野(3) 総合交通

施策の方針 交通安全意識の高揚 1

鎌倉市の動向

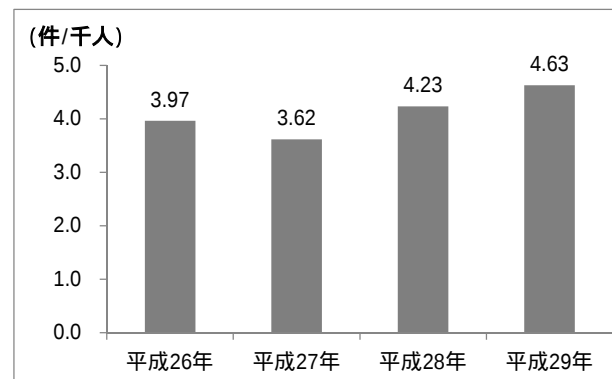
- ・人口千人あたり交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、比較対象11都市の中で最も高い水準にある。
- ・高齢者ならびに二輪車の交通事故が増加傾向にある。

図表5-28 人口千人あたり交通事故発生件数



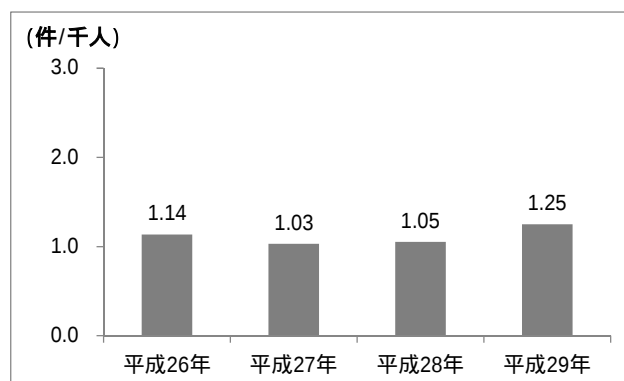
資料)「鎌倉の統計」「住民基本台帳にもとづく住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成

図表5-29 高齢者千人あたり高齢者による交通事故発生件数



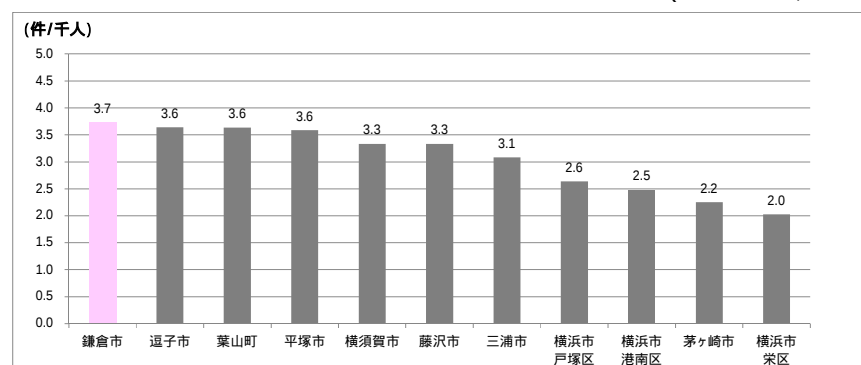
資料)「平成30年度行政評価シート」「住民基本台帳にもとづく住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成

図表5-30 人口千人あたり二輪車の交通事故発生件数



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-31 人口千人あたり交通事故発生件数の比較(平成29年)



資料)「かながわの交通事故 平成29年統計」「住民基本台帳にもとづく住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

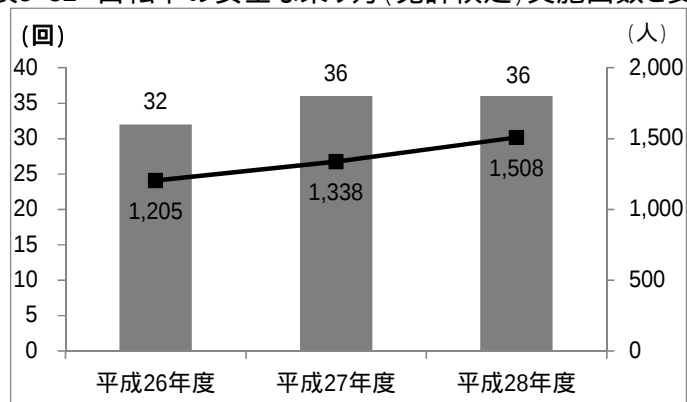
分野(3)総合交通

施策の方針 交通安全意識の高揚 2

鎌倉市の動向

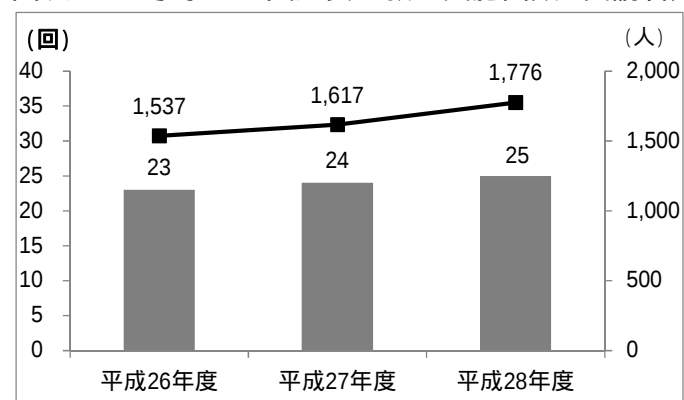
- ・自転車の安全な乗り方教室、小学生向けならびに園児向け交通安全教室の実施回数ならびに受講者数は増加傾向にある。
- ・一方で、高齢者の交通安全教室の実施回数並びに受講者数は減少傾向にある。

図表5-32 自転車の安全な乗り方(免許検定)実施回数と受講者



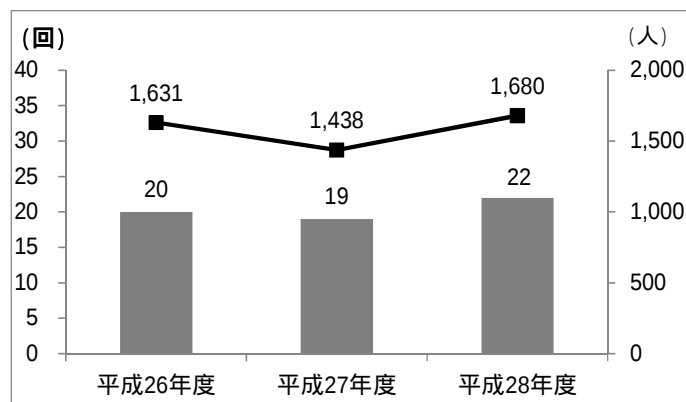
資料)「鎌倉の統計」より作成

図表5-33 小学生の交通安全教室実施回数と受講者数



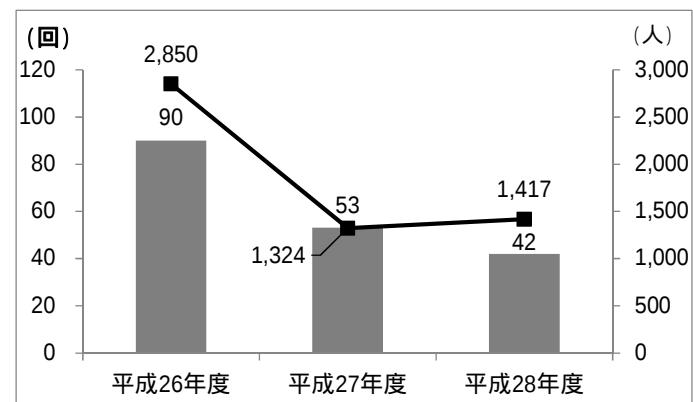
資料)「鎌倉の統計」より作成

図表5-34 園児の交通安全教室実施回数と受講者数



資料)「鎌倉の統計」より作成

図表5-35 高齢者の交通安全教室の実施回数と受講者数



資料)「鎌倉の統計」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

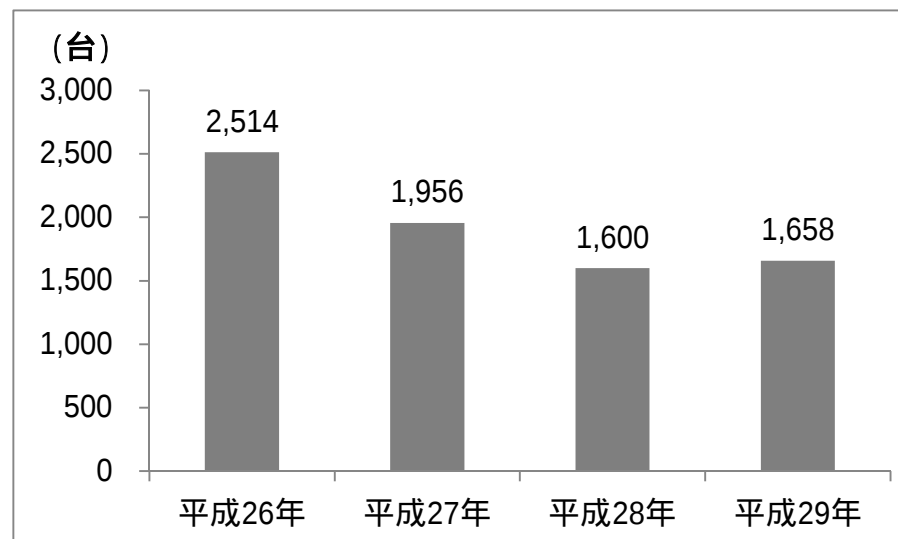
分野(3) 総合交通

施策の方針 駐輪対策の推進

鎌倉市の動向

・放置自転車等の年間総数は平成26年以降減少傾向にあるが、平成28年から平成29年にかけて増加の傾向にある。

図表5-36 放置自転車等保管場所に持ち込まれた放置自転車等の年間総数



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

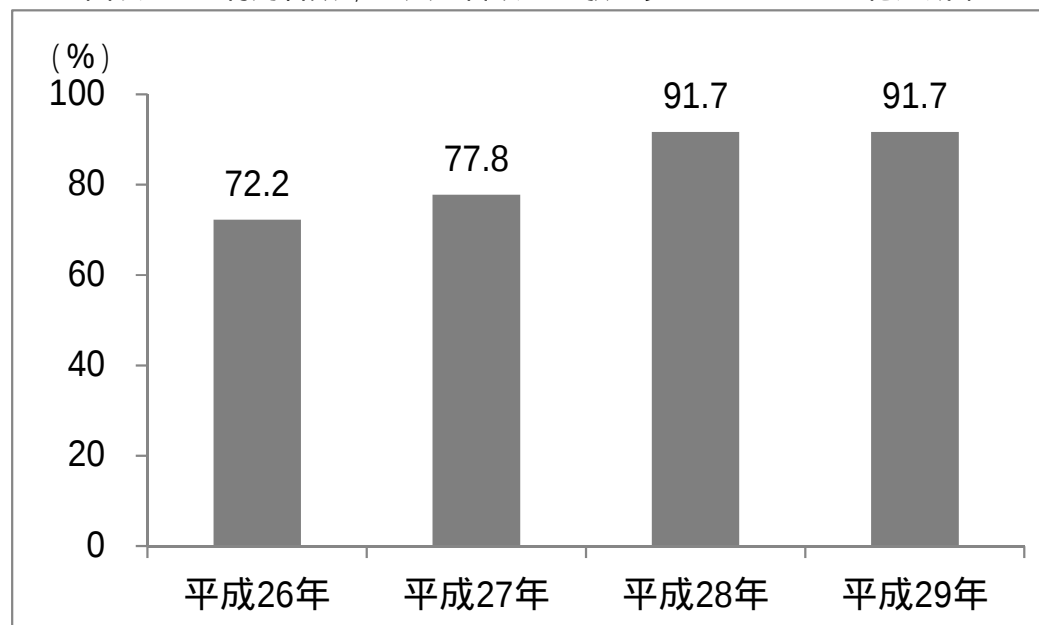
分野(3) 総合交通

施策の方針 公共交通機関の輸送力の向上と利用の促進

鎌倉市の動向

・駅のバリアフリー化は着実に進んでおり、主要駅では9割以上の達成率となっている。

図表5-37 利用者数3,000人／日以上駅のうちのバリアフリー化達成率



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

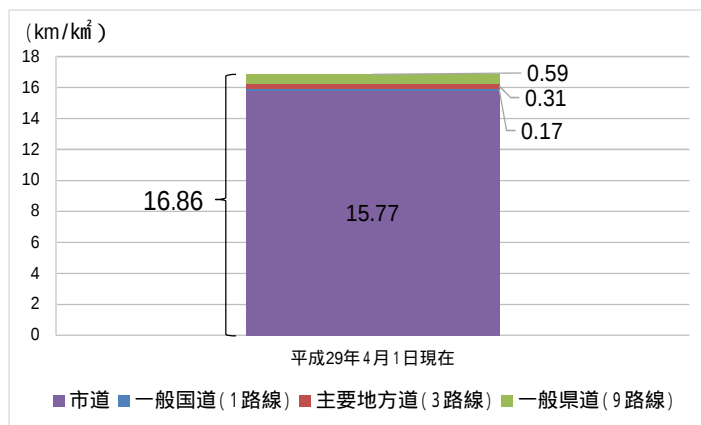
分野(4)道路整備

施策の方針 道路・橋りょうの整備・維持管理

鎌倉市の動向

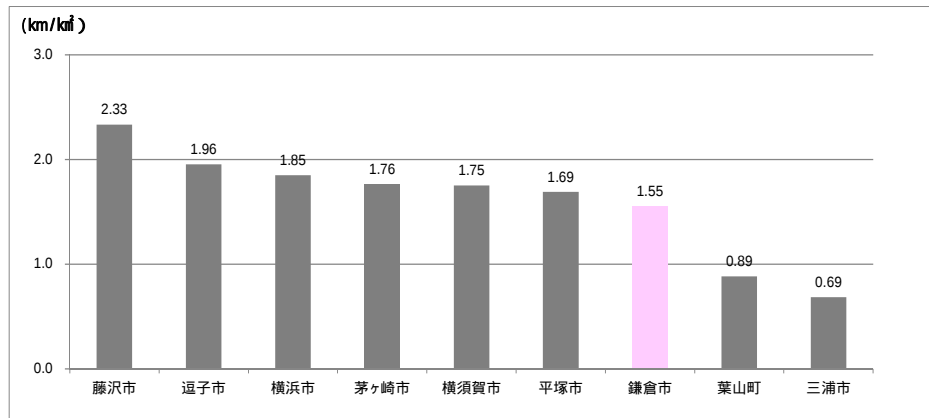
・道路種別の面積あたり道路総延長は市道が最も多く、また、都市計画区域面積あたり都市計画道路総延長は比較対象9都市の中で7番目の水準である。
・橋りょうの供用年数は、不明を除くと、50年以上の割合が最も多く、老朽化が進んでいるものと思われる。また、供用年数不明が多い。

図表5-38 面積あたり道路総延長



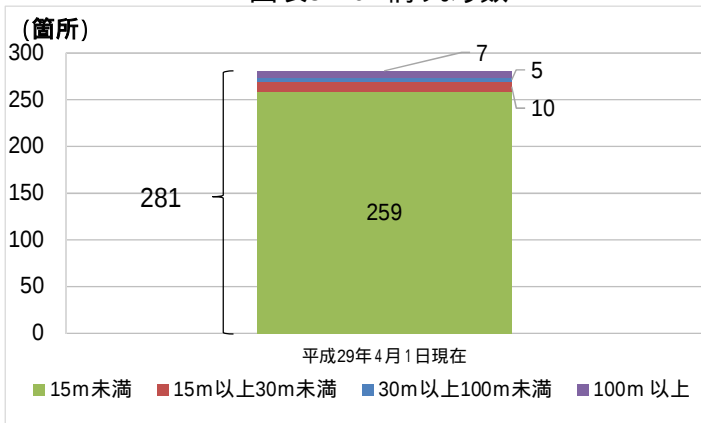
資料)「鎌倉の統計」より作成

図表5-39 都市計画区域面積あたり都市計画道路総延長(平成28年)



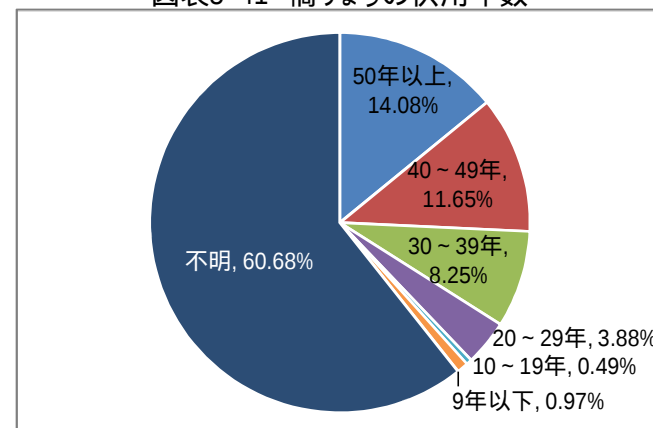
資料)「県勢要覧平成29年度版」より作成

図表5-40 橋りょう数



資料)「鎌倉の統計」より作成

図表5-41 橋りょうの供用年数



資料)「鎌倉市社会基盤白書(平成27年3月)」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

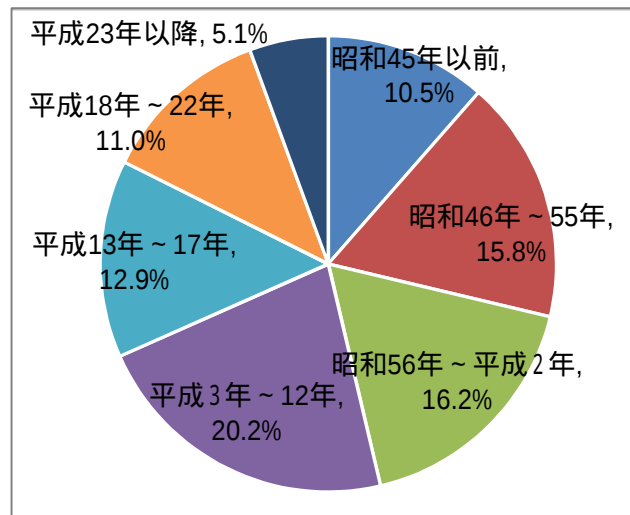
分野(5)住宅・住環境

施策の方針 鎌倉らしい住まいづくり 1

鎌倉市の動向

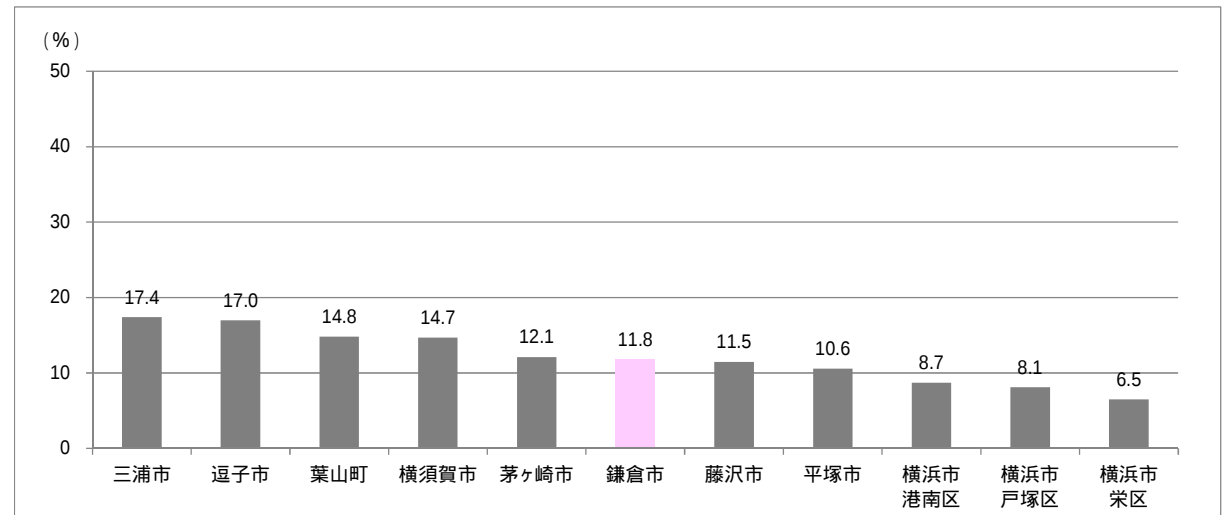
- ・住宅の建築年数を見ると、昭和55年以前の旧耐震基準の住宅が26.3%ある。
- ・空き家率は比較対象11都市の中で6番目の水準である。

図表5-42 住宅の建築年



資料)「鎌倉の統計」より作成

図表5-43 空き家率の比較(平成29年)



資料)「かながわの住宅(平成29年)」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

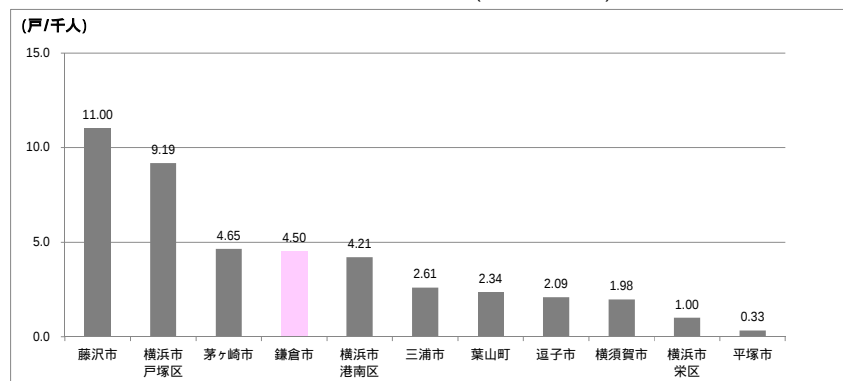
分野(5)住宅・住環境

施策の方針 鎌倉らしい住まいづくり 2

鎌倉市の動向

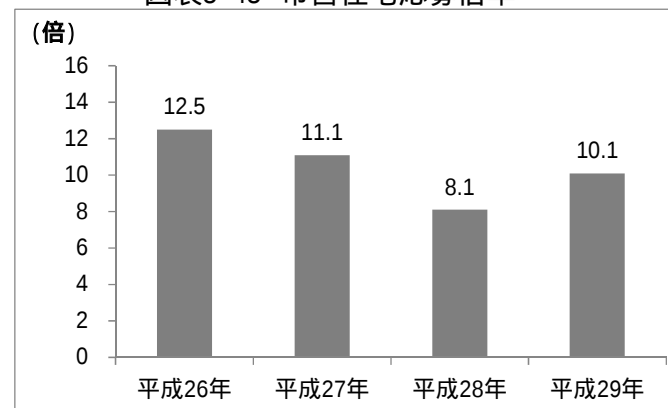
- ・比較対象都市の中で、高齢者千人あたりサービス付き高齢者向け住宅登録戸数は4番目の水準であるが、最も水準の高い藤沢市の半分以上である。
- ・市営住宅応募倍率は平成28年から平成29年にかけて増加しており、平成26年～平成29年の平均倍率は10倍である。また、比較対象都市の中で、人口千人あたり市町営賃貸住宅管理戸数は7番目の水準である。

図表5-44 高齢者千人あたりサービス付き高齢者向け住宅登録戸数の比較(平成29年)



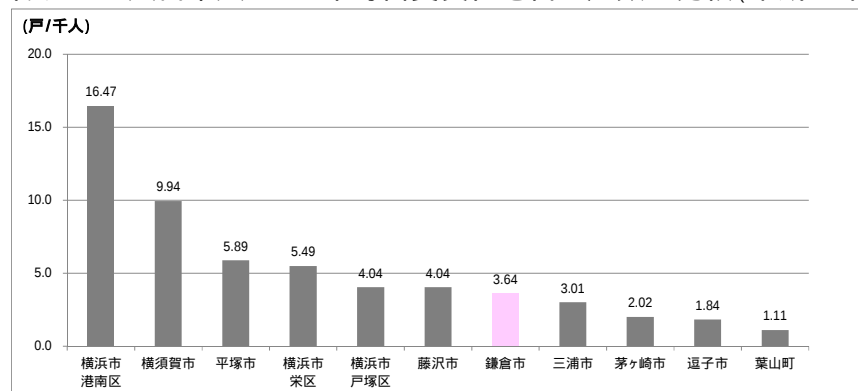
資料)「かながわの住宅(平成29年)」「住民基本台帳にもとづく住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成

図表5-45 市営住宅応募倍率



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-46 人口千人あたり市町営賃貸住宅管理戸数の比較(平成29年)



資料)「かながわの住宅(平成29年)」「住民基本台帳にもとづく住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

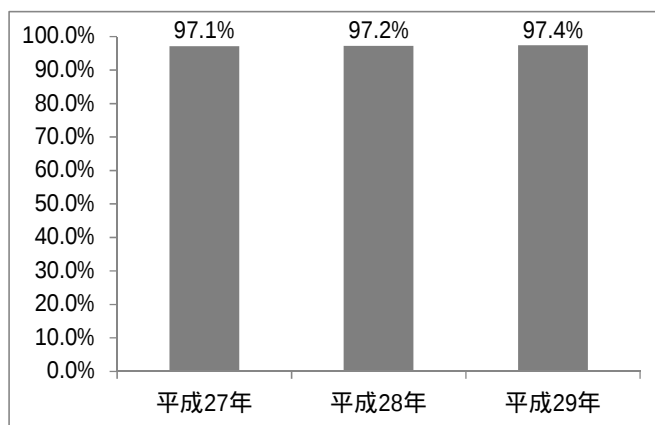
分野(6)下水道・河川

施策の方針 下水道の整備・管理

鎌倉市の動向

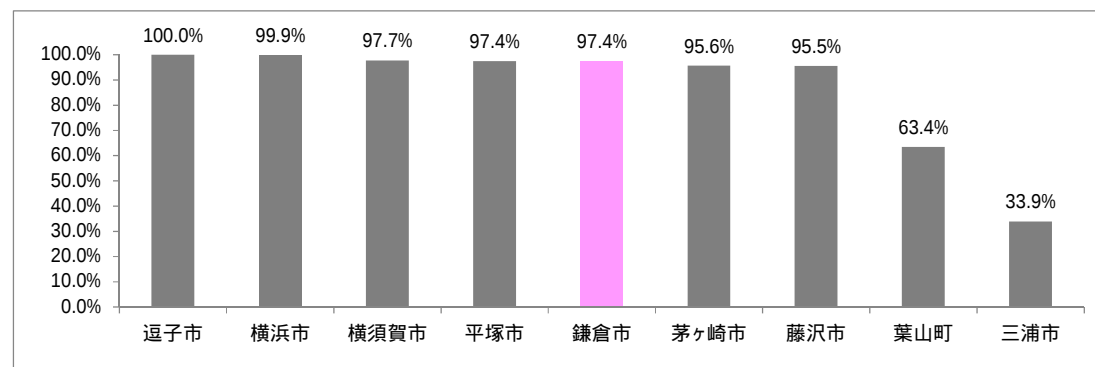
- ・下水道処理人口普及率は概ね100%に近く、比較対象都市の中で5番目の水準となっている。
- ・長寿命化計画によるマンホール蓋更新の推移、鎌倉市下水道地震対策事業計画・下水道防災事業計画に基づきBCP等に位置づけられるマンホールの耐震化、浸水対策としての雨水整備率などの取り組みに関する推移をみると、横ばいもしくは減少している。

図表5-47 下水道処理人口普及率の推移



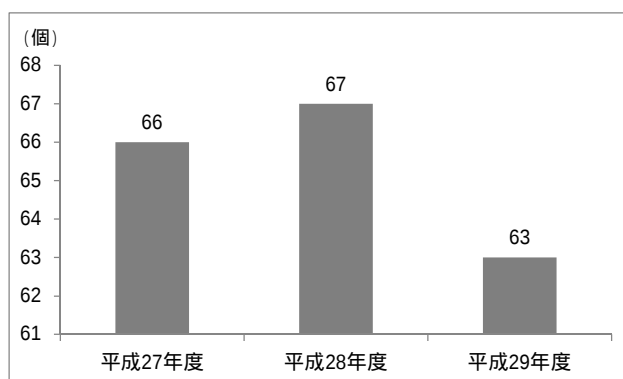
資料) 神奈川県ホームページ資料より作成

図表5-48 下水道処理人口普及率の比較



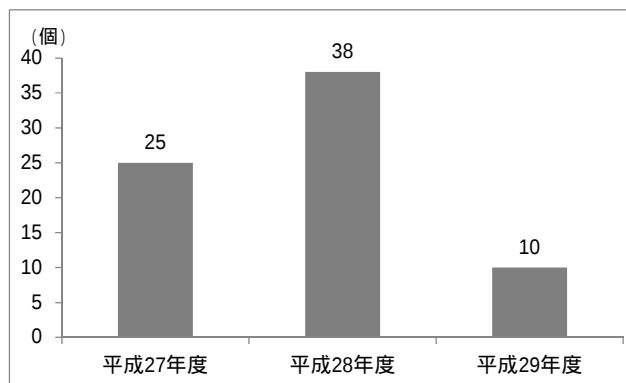
資料) 神奈川県ホームページ資料より作成

図表5-49 長寿命化計画によるマンホール蓋更新の推移



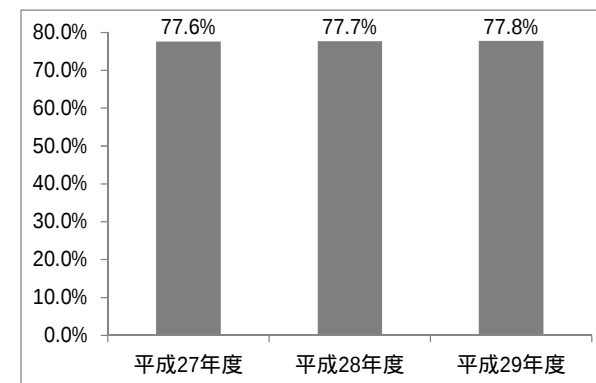
資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-50 マンホールの耐震化の推移



資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-51 雨水整備率の推移

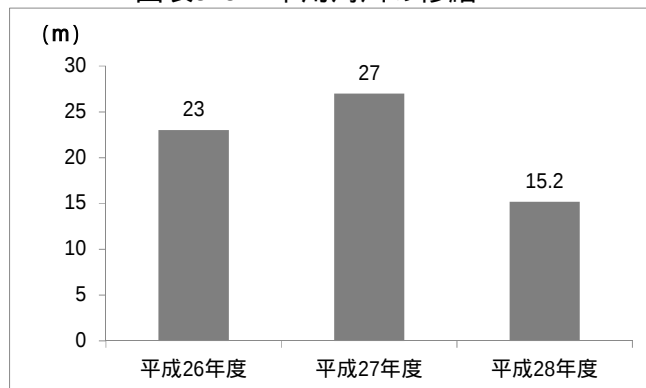


資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

鎌倉市の動向

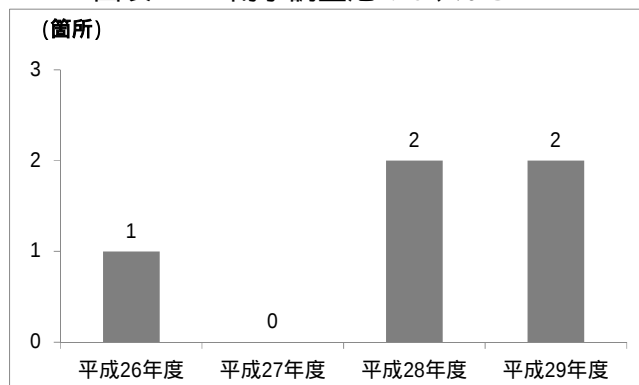
- ・準用河川の修繕状況は、平成28年度は15.2メートルとやや低調となっており、各年の目標値が35メートルに届いていない。
- ・浸水対策のためのゲート類の点検については、確実に目標値である58カ所の点検が遂行されている。
- ・雨水調整池のしゅんせつの目標値は毎年2箇所となっており、直近2年は目標通り実施されているものの、河川しゅんせつ状況に関しては年度によってしゅんせつ土量にバラつきがある。

図表5-52 準用河川の修繕



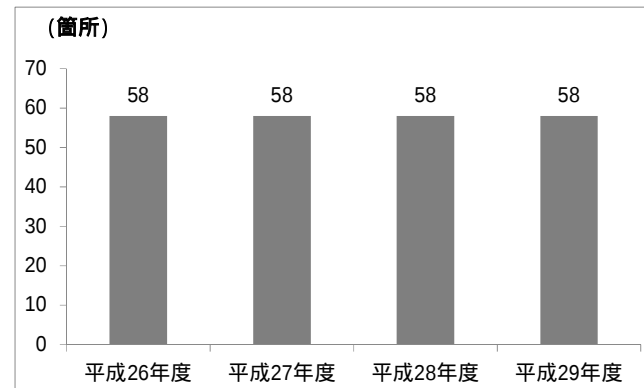
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-54 雨水調整池のしゅんせつ



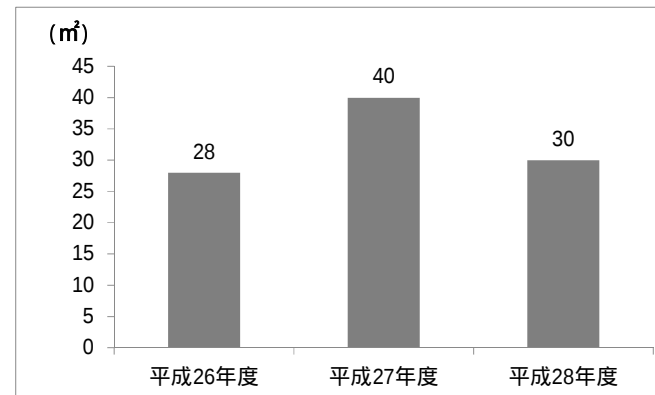
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-53 ゲート類の点検



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表5-55 河川しゅんせつ状況(しゅんせつ土量)



資料)「鎌倉の統計」より作成

将来目標5 安全で快適な生活が送れるまち

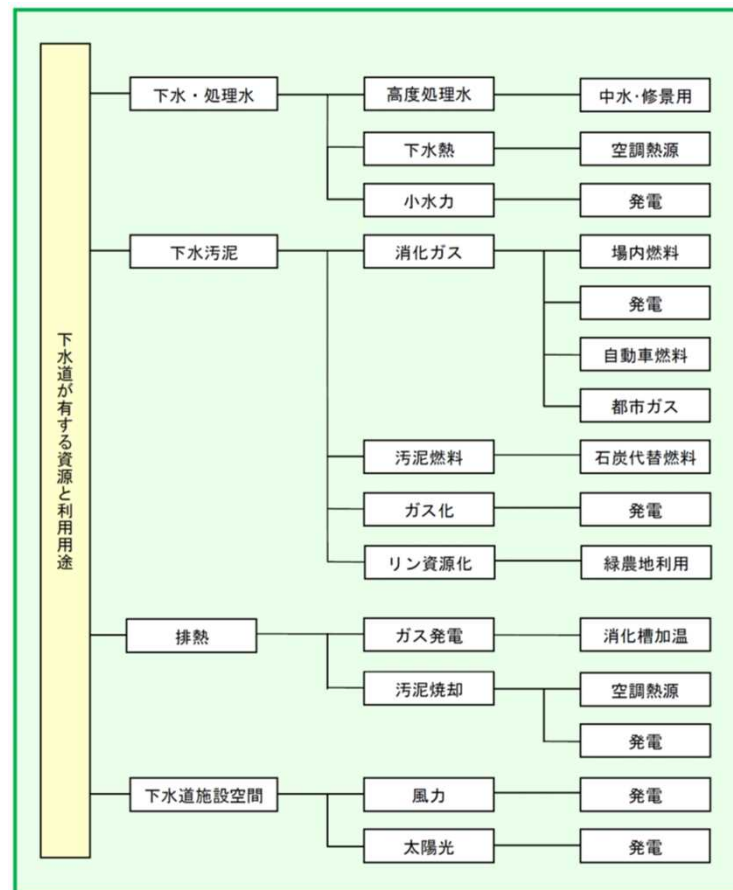
分野(6) 下水道・河川

施策の方針 下水道資源の有効活用

鎌倉市の動向

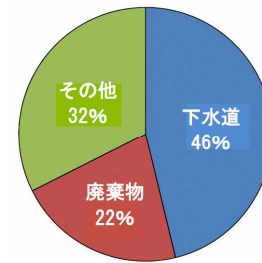
・温室効果ガス発生減の半分程度が下水道である。

図表5-56 下水道が有する資源と利用用途



資料) 鎌倉市「鎌倉市下水道中期ビジョン2012」より抜粋

図表5-57 温室効果ガスの発生状況

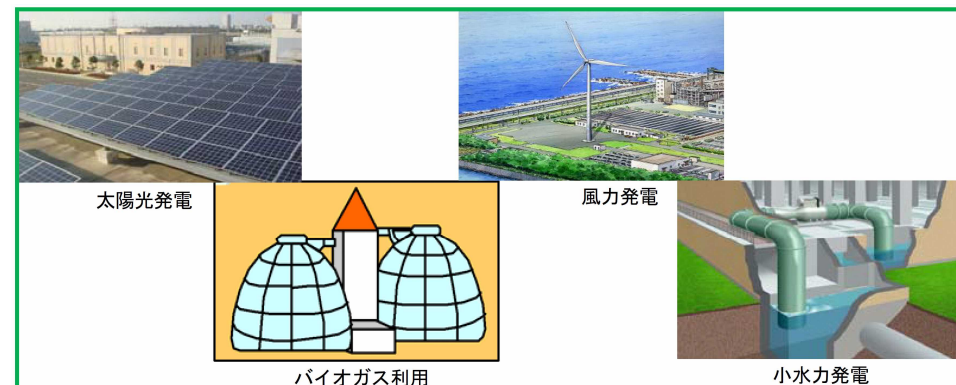


	下水道	廃棄物	その他	計
CO ₂ 発生量(t-CO ₂)	6,880	3,190	4,820	14,890
発生割合(%)	46	22	32	100

※下水処理場で消費される電力等から温室効果ガス発生量に換算した数値
H23.3 鎌倉市実績

資料) 鎌倉市「鎌倉市下水道中期ビジョン2012」より抜粋

図表5-57 下水道に係る未利用資源の利活用例



資料) 鎌倉市「鎌倉市下水道中期ビジョン2012」より抜粋

将来目標に係る地域の概況

市は豊富な観光資源に恵まれている一方で、農業・商工業・製造業における付加価値の向上や後継者確保は十分とはいえない状況にある。また、勤労者や消費者問題は大きく顕在化していないものの、近年関連するサービス利用者がやや減少する傾向にある。

分野(1)産業振興

市には農林水産業、商工業、製造業などの産業が存在するが、人口あたりの農業産出額や卸・小売業販売額、製造品出荷額は高い水準とはいえない。また、特に伝統工芸においては近年出荷額の減少が続いている。

分野(2)観光

市は豊富な観光資源を有しており、入込観光客数・観光消費額ともに県内でも非常に高い水準を有している一方、海水浴客数や観光消費額のうちの飲食費は減少傾向にある。また、観光予算額は近年増加傾向となっている。

分野(3)勤労者福祉

就業率や、高年齢就業率、若年無業者率、女性就業率は県内他都市と比較してそれほど大きな水準の差は無い。ただし生活保護率が近年やや上昇の傾向があるほか、勤労者生活資金融資の利用件数は大きく減少している。

分野(4)消費者対策

市では毎年度一定の消費生活相談件数がある一方、近年消費者啓発事業への参加者は減少している。

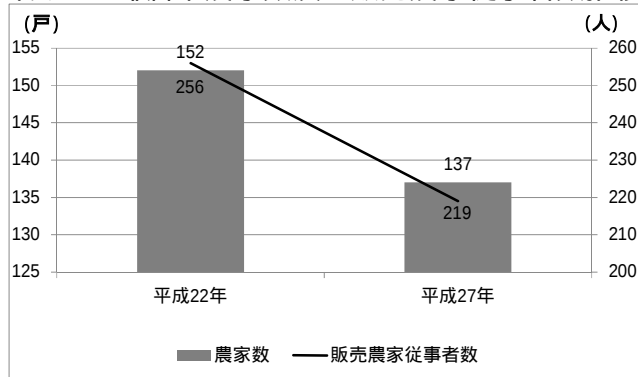
分野(1)産業振興

施策の方針 農業・漁業の振興 1

鎌倉市の動向

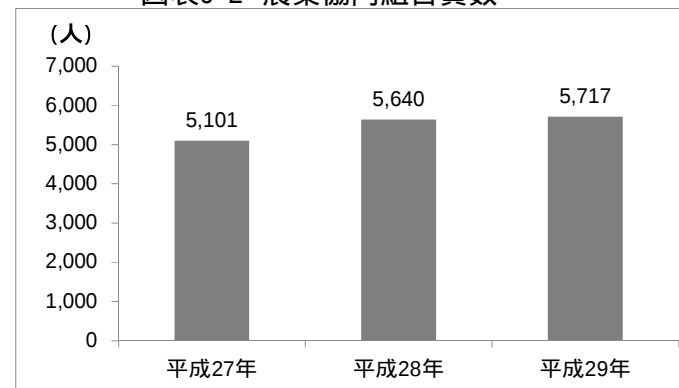
- ・農業協同組合員数は増加傾向にあるものの、鎌倉市の農家数と販売農家従事者数はいずれも減少傾向にある。
- ・遊休農地面積は減少傾向にある。

図表6-1 鎌倉市農家数及び販売農家従事者数推移



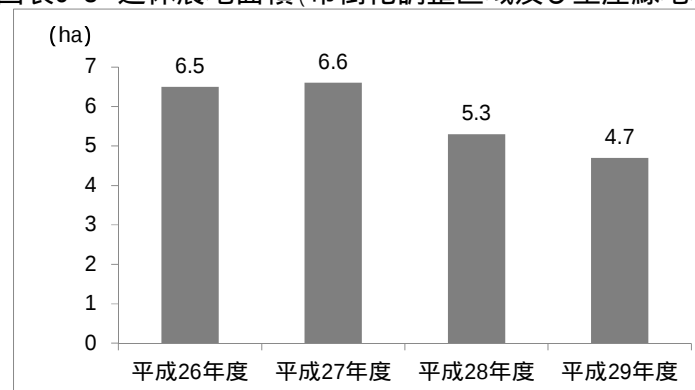
資料) 農林業センサスより作成

図表6-2 農業協同組合員数



資料) 「鎌倉の統計」より作成

図表6-3 遊休農地面積(市街化調整区域及び生産緑地地区)



資料) 「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

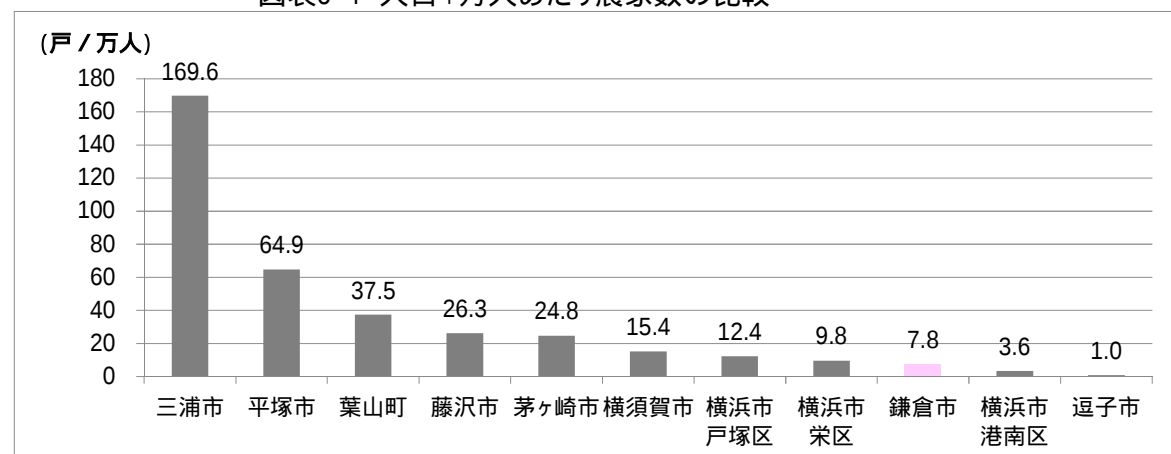
分野(1)産業振興

施策の方針 農業・漁業の振興 2

鎌倉市の動向

・人口1万人あたり農家数、農業産出額ともに、比較対象都市の中でも下位の水準に留まっている。特に人口あたり農業産出額に関しては、上位の都市との水準の開きが大きい。

図表6-4 人口1万人あたり農家数の比較

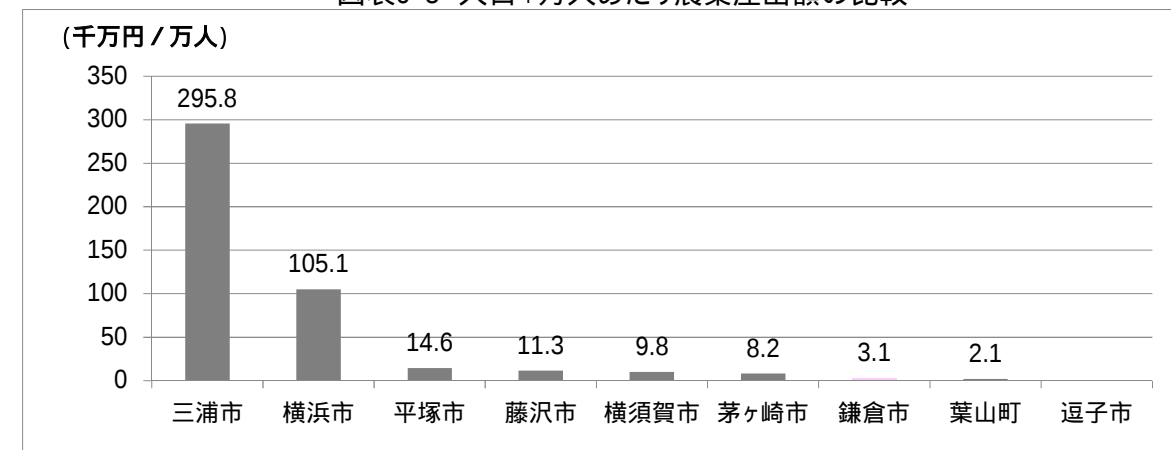


農家数:平成27年2月1日時点

人口:平成30年1月1日時点

資料)農林業センサス、住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

図表6-5 人口1万人あたり農業産出額の比較



農業産出額:平成26年中

人口:平成30年1月1日時点

資料)農林業センサス、住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

分野(1)産業振興

施策の方針 農業・漁業の振興 3

鎌倉市の動向

- ・比較対象都市と比べ、人口1万人あたりの販売農家従事者数は多くない。
- ・一方で、販売農家従事者に占める65歳以上の割合は他都市と比較すると低い水準となっている。

図表6-6 人口1万人あたり販売農家従事者数の比較

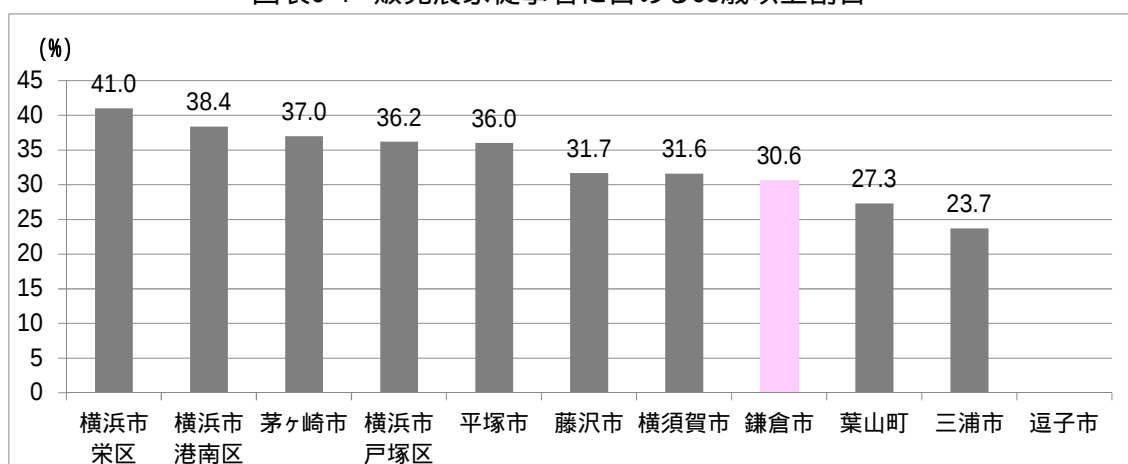


販売農家従事者数：平成27年2月1日時点

人口：平成30年1月1日時点

資料) 農林業センサス、住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

図表6-7 販売農家従事者に占める65歳以上割合



資料) 農林業センサス、住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

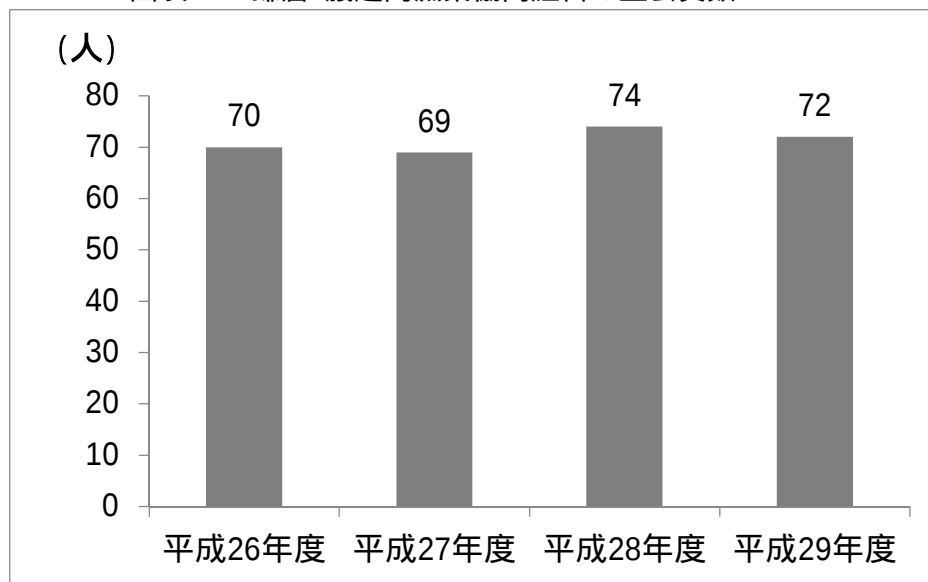
分野(1)産業振興

施策の方針 農業・漁業の振興 4

鎌倉市の動向

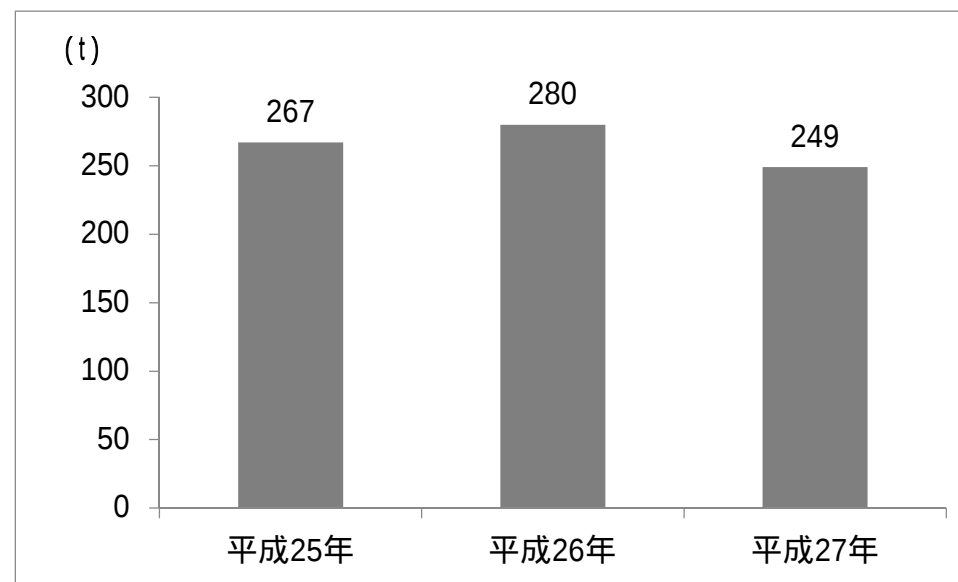
・漁業協同組合の正会員数、漁獲高は近年いずれも安定して推移しており、大きな増加・減少の傾向はみられない。

図表6-8 鎌倉・腰越両漁業協同組合の正会員数



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表6-9 漁獲高



資料)「鎌倉の統計」より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

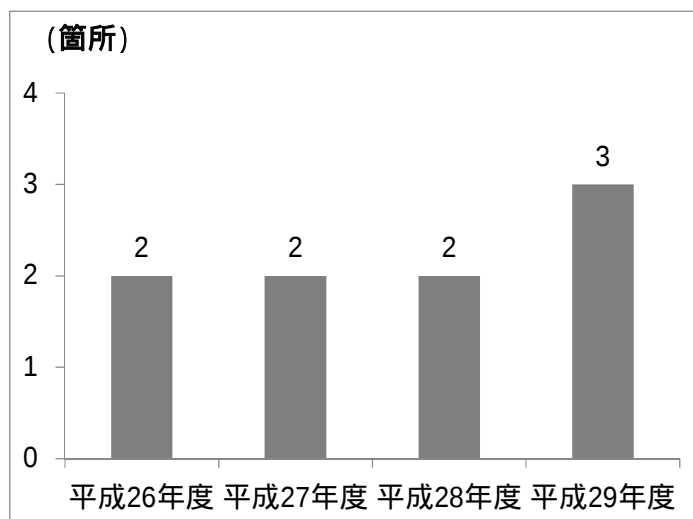
分野(1)産業振興

施策の方針 農業・漁業の振興 5

鎌倉市の動向

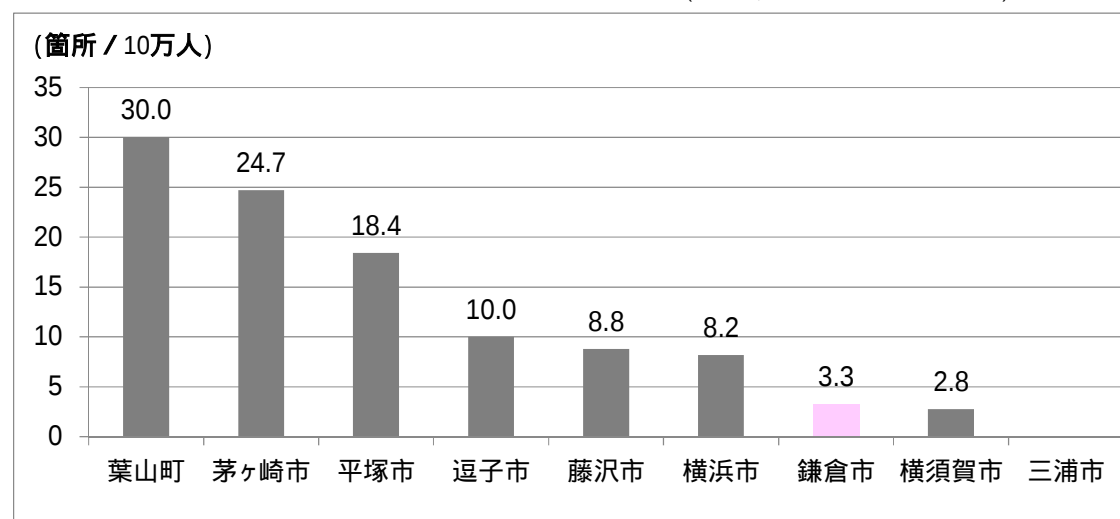
- ・例年2～3の市民農園が開設されており、平成29年度には目標値の「3」を達成することができている。
- ・その一方で、人口10万人あたり市民農園開設数は、比較対象都市の中で7番目の低い水準である。

図表6-10 市民農園開設数



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表6-11 人口10万人あたり市民農園開設数(累計、平成29年3月時点)



人口:平成30年1月1日時点

資料)神奈川県「市民農園開設状況」、住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

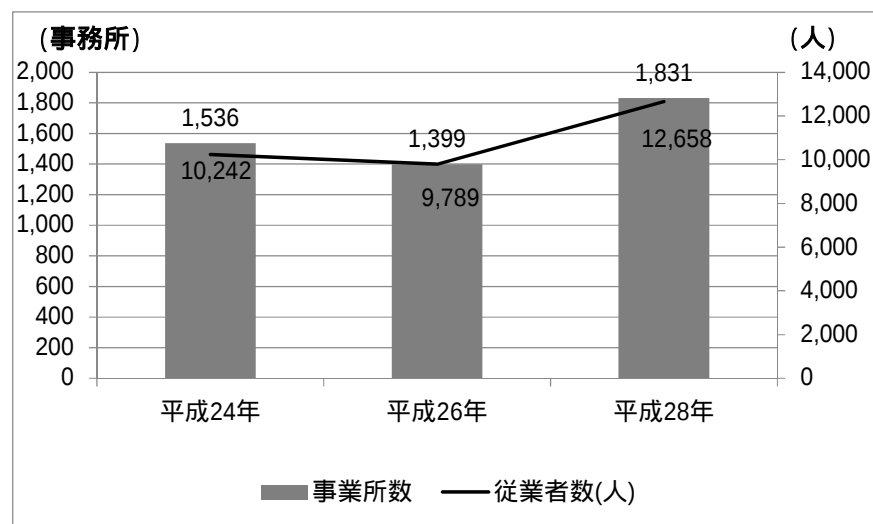
分野(1)産業振興

施策の方針 商工業振興の充実 1

鎌倉市の動向

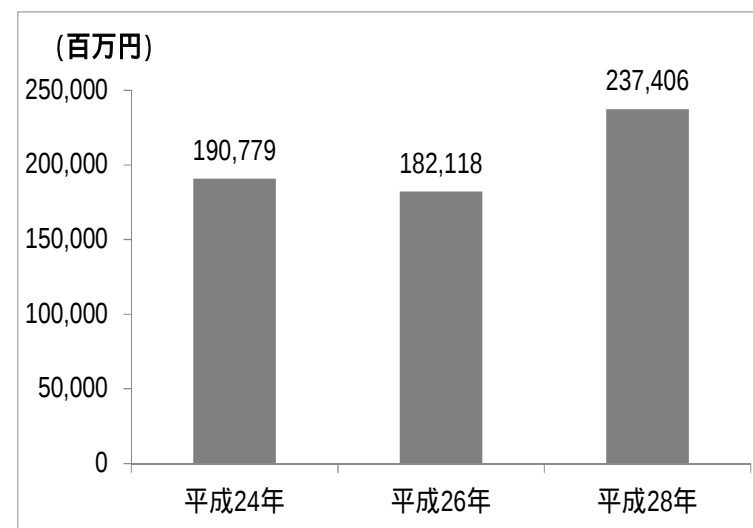
・商業(卸売業・小売業)の事業所数・従業者数・売上金額いずれも、平成28年調査では増加に転じている(ただし、平成24年・28年は経済センサスデータ、平成26年は商業統計調査データであり、完全に接続しているわけではない。)。

図表6-12 商業(卸売業・小売業)の事業所数等推移



資料) 経済センサス・商業統計調査より作成

図表6-13 商業(卸売業・小売業)売上金額の推移



資料) 経済センサス・商業統計調査より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

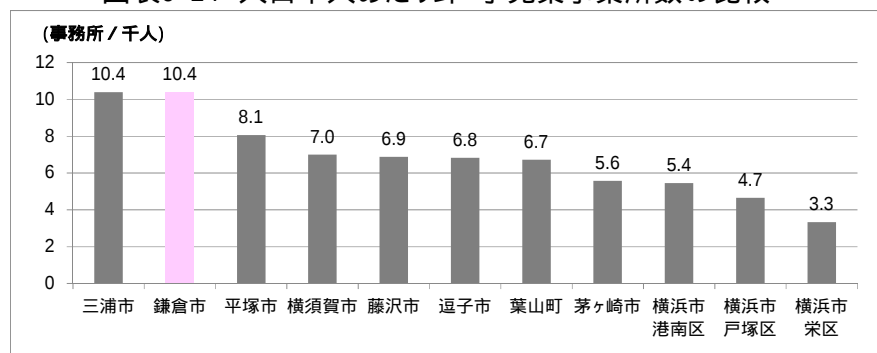
分野(1)産業振興

施策の方針 商工業振興の充実 2

鎌倉市の動向

- ・人口千人あたり卸・小売業事業所数・従業員数は比較対象都市の中で2番目の高い水準となっており、事業所数は比較的充実しているといえる。
- ・一方で、人口千人あたり年間販売額は比較対象都市の中で7番目であり、高い水準とは言い難い状況である。

図表6-14 人口千人あたり卸・小売業事業所数の比較

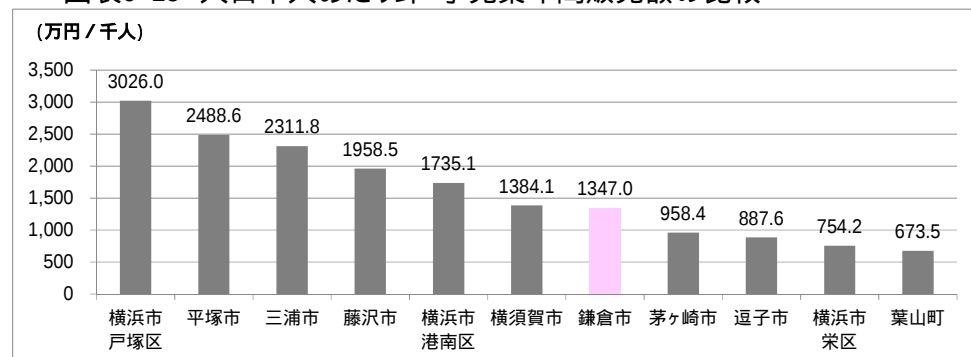


従業員数:平成28年6月1日時点

人口:平成30年1月1日時点

資料)経済センサス・住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

図表6-15 人口千人あたり卸・小売業年間販売額の比較

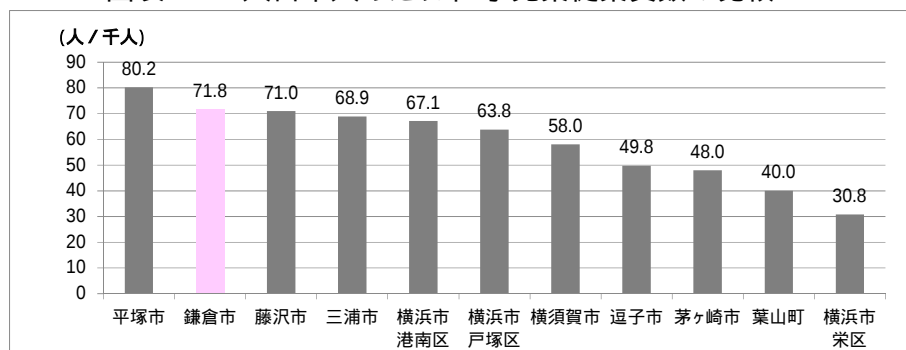


事業所数:平成28年6月1日時点

人口:平成30年1月1日時点

資料)経済センサス・住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

図表6-16 人口千人あたり卸・小売業従業員数の比較



年間販売額:平成27年中

人口:平成30年1月1日時点

資料)経済センサス・住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

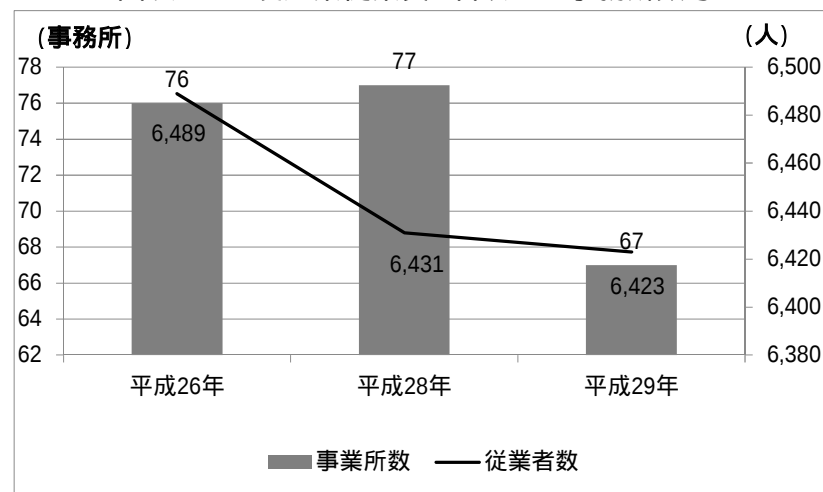
分野(1)産業振興

施策の方針 商工業振興の充実 3

鎌倉市の動向

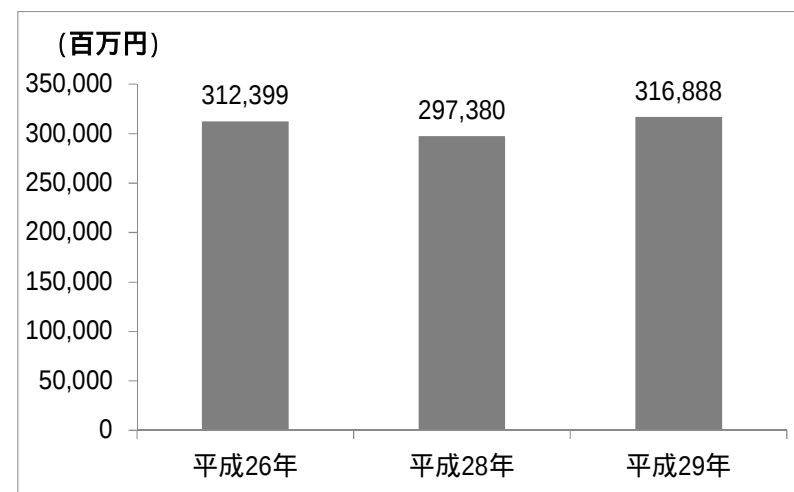
・従業員4名以上の製造業の事業所数・従業者数はともに減少傾向にあるものの、製造品出荷額等は横ばいの推移となっており、一事業所当たりの製造品出荷額が増加している。

図表6-17 製造業従業員4名以上の事務所数等



資料) 経済センサス・工業統計調査より作成

図表6-18 製造業従業員4名以上の事務所における製造品出荷額等



資料) 経済センサス・工業統計調査より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

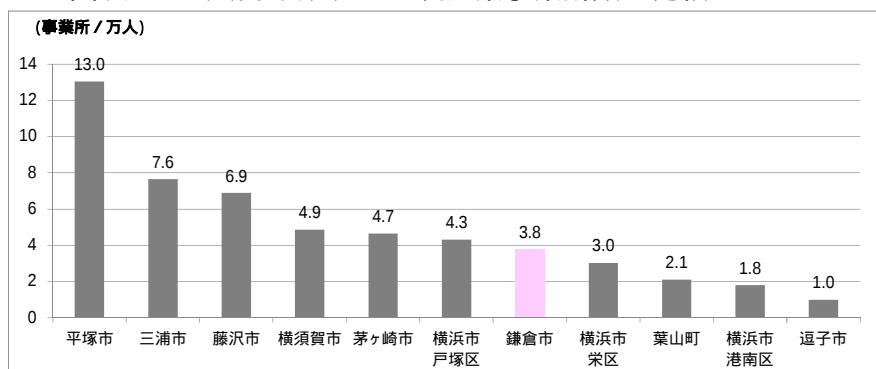
分野(1)産業振興

施策の方針 商工業振興の充実 4

鎌倉市の動向

- ・人口1万人あたり事業所数は比較対象都市の中で7番目の水準となっている。
- ・また人口1万人あたり従業員数に対し、人口1万人あたり製造品出荷額は高い水準とはいえない状況である。

図表6-19 人口1万人あたり製造業事業所数の比較

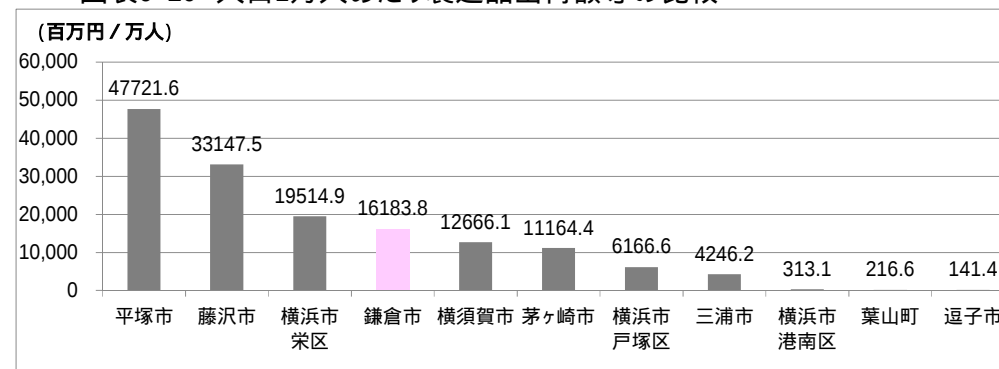


事業所数:平成28年6月1日時点

人口:平成30年1月1日時点

資料)経済センサス・住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

図表6-20 人口1万人あたり製造品出荷額等の比較

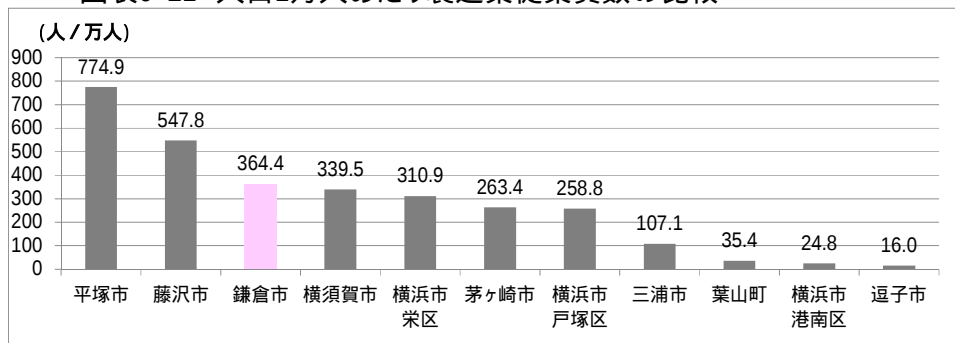


製造品出荷額等:平成27年中

人口:平成30年1月1日時点

資料)経済センサス・住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

図表6-21 人口1万人あたり製造業従業員数の比較



従業員数:平成28年6月1日時点

人口:平成30年1月1日時点

70 資料)経済センサス・住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

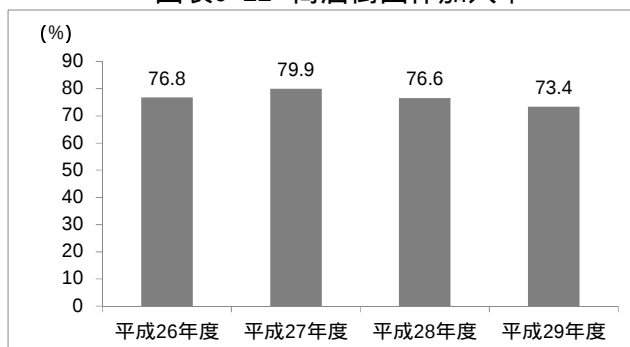
分野(1)産業振興

施策の方針 商工業振興の充実 5

鎌倉市の動向

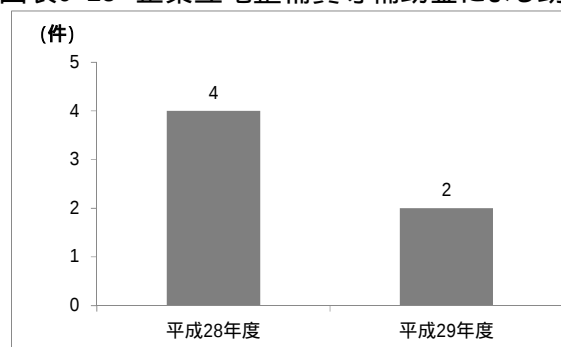
- ・商店街団体加入率は若干の減少傾向はあるものの、おおむね同程度で推移している。
- ・企業立地整備費等補助金による助成件数は減少しており、目標の「5」も達成できていない。
- ・鎌倉彫の出荷額は近年顕著に減少傾向となっている。

図表6-22 商店街団体加入率



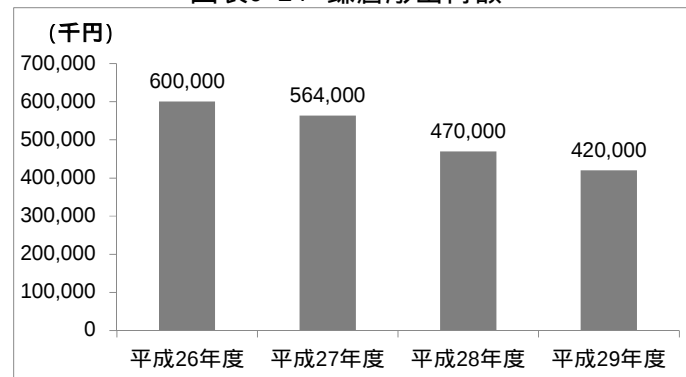
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表6-23 企業立地整備費等補助金による助成件数



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表6-24 鎌倉彫出荷額



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

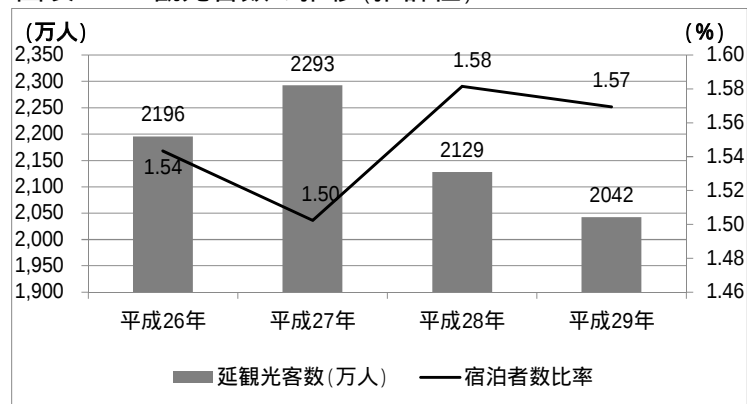
分野(2)観光

施策の方針 観光都市としての質の向上 1

鎌倉市の動向

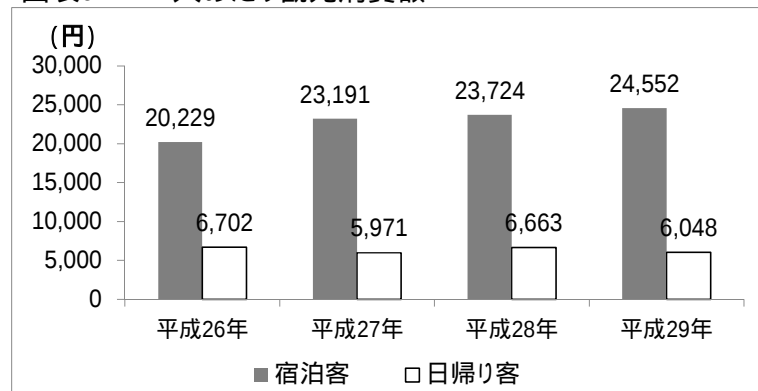
- ・観光客数はやや減少傾向となっているが、そのうちの宿泊者数比率は1.5～1.8の間で推移している。
- ・観光消費額に関しては、宿泊費は増加傾向にあるものの、飲食費は減少傾向であり、全体としてもやや減少している。
- ・観光消費額を一人あたりでみると、日帰り客の観光消費額は横ばいで推移している一方、宿泊客の観光消費額は近年やや増加している。

図表6-25 観光客数の推移(推計値)



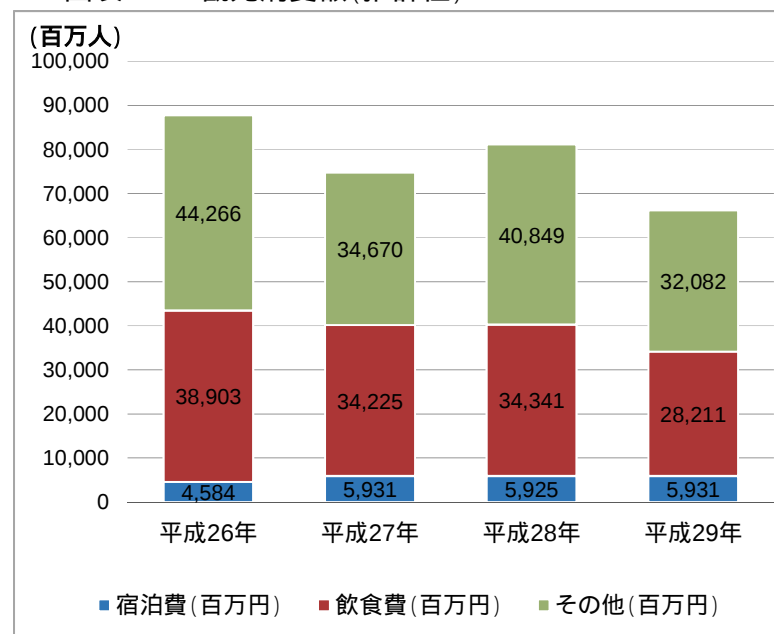
資料)「神奈川県入込観光客調査」より作成

図表6-27 1人あたり観光消費額



資料)「鎌倉市の観光事情(平成30年度版)」より作成

図表6-26 観光消費額(推計値)



資料)「鎌倉市の観光事情(平成30年度版)」より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

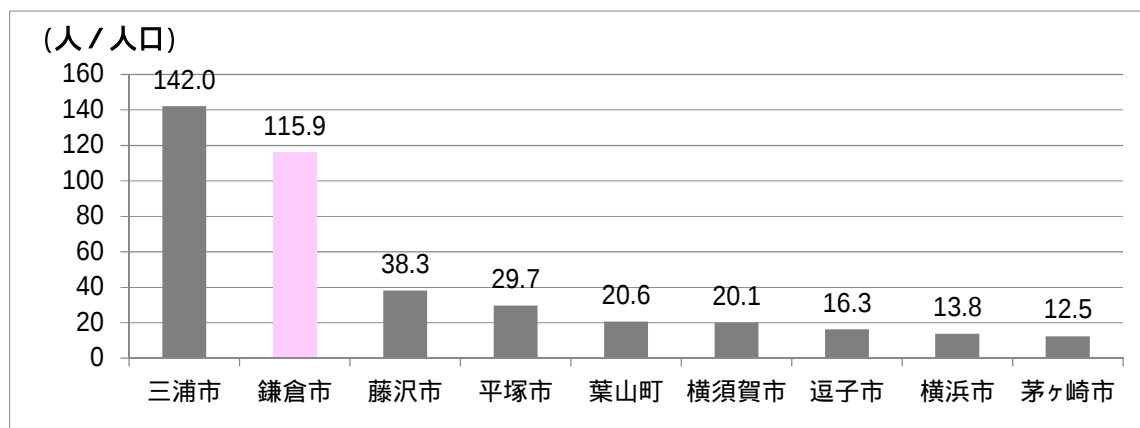
分野(2)観光

施策の方針 観光都市としての質の向上 2

鎌倉市の動向

・鎌倉市は、観光資源に恵まれているが、人口1人あたりの観光客数は三浦市に次いで2番目、人口1人あたりの観光消費額は1番目と、比較対象都市の中では非常に高い水準を保っている。

図表6-28 1人あたり述べ観光客数の比較

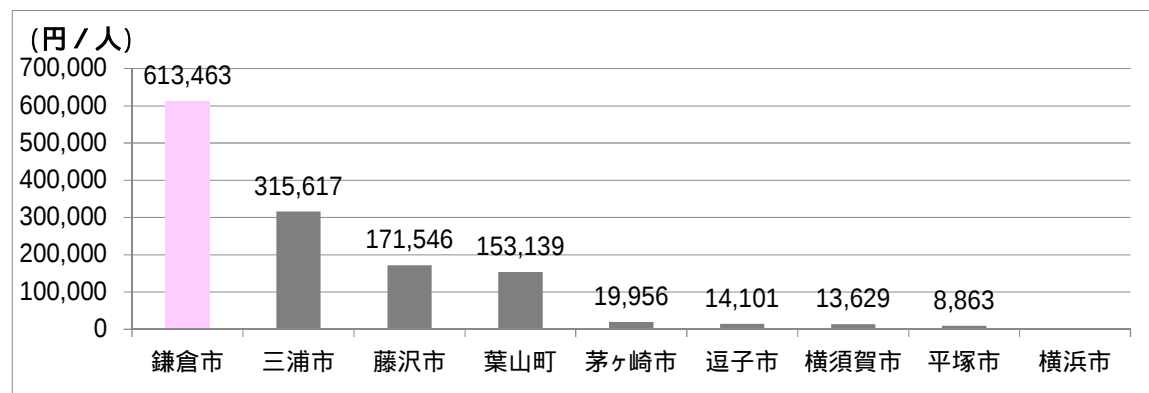


観光客数:平成28年中

人口:平成30年1月1日時点

資料)「神奈川県入込観光客調査」、住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

図表6-29 1人あたり観光消費額の比較



観光消費額:平成28年中

人口:平成30年1月1日時点

資料)「神奈川県入込観光客調査」、住民基本台帳にもとづく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

各自治体の観光消費額を、住民1人あたりに標準化した数値、横浜市はデータなし

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

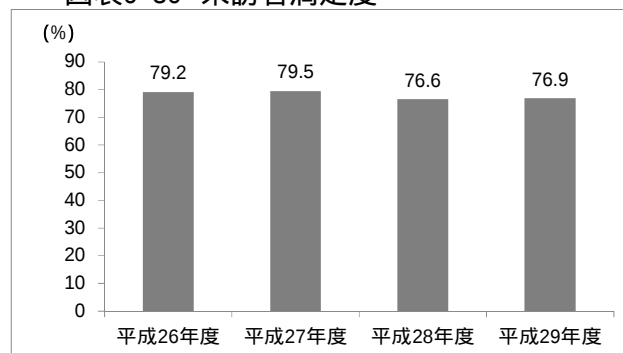
分野(2)観光

施策の方針 観光都市としての質の向上 3

鎌倉市の動向

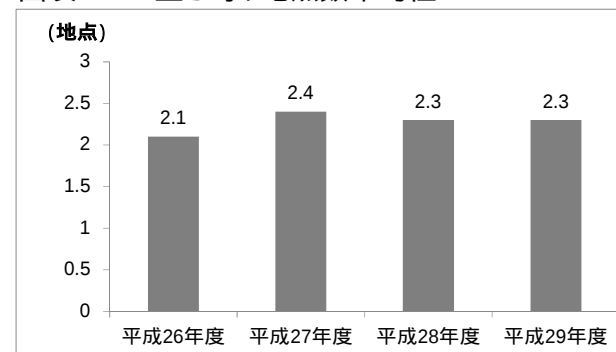
- ・来訪者の満足度はおおむね70%後半で推移しているものの、目標値である85%には届いていない。
- ・また立ち寄り地点数は2地点～2.4地点程度に留まっているが、目標値は「4地点」であり、十分な水準とは言いがたい状況である。
- ・月別観光客数については、1月の観光客数が突出しているが、これは鶴岡八幡宮への初詣客と考えられる。

図表6-30 来訪者満足度



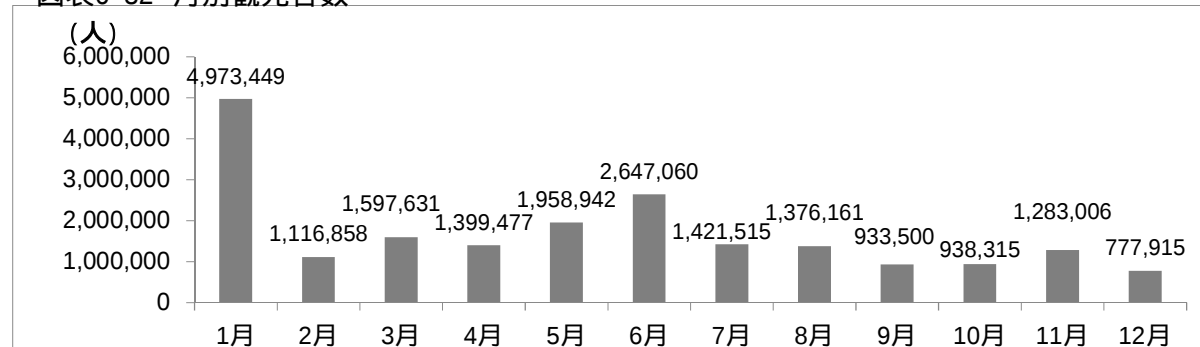
資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表6-31 立ち寄り地点数平均値



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表6-32 月別観光客数



資料)「鎌倉の統計」より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

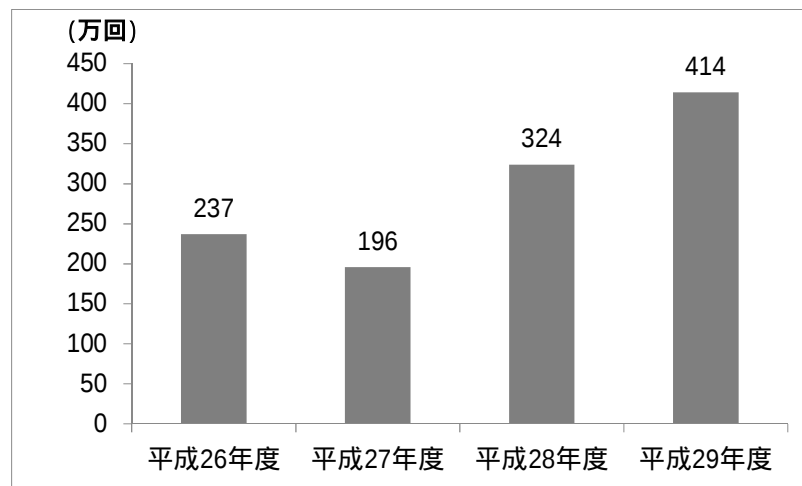
分野(2)観光

施策の方針 観光都市としての質の向上 4

鎌倉市の動向

- ・市の公式ホームページアクセス数は近年大きく増加傾向にある。
- ・また来訪者が事前に情報を調べた方法としては回答者の61%が市役所商工課のHPを選択しており、他の手段と大きな較差がある。

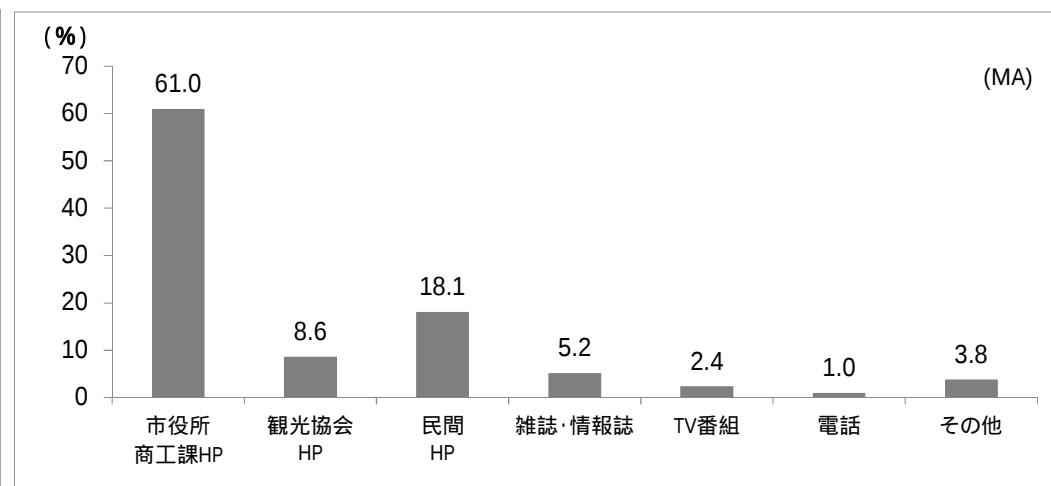
図表6-33 ホームページのアクセス数



(鎌倉市観光商工課ホームページ「かまくら観光」と鎌倉市観光協会ホームページ「鎌倉info」へのアクセス数。なお平成26年度は観光課ホームページのアクセス数のため参考数値。)

資料)「鎌倉市の観光事情(平成30年度版)」より作成

図表6-34 来訪者が事前に情報を調べた方法



資料)「鎌倉市の観光事情(平成30年度版)」より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

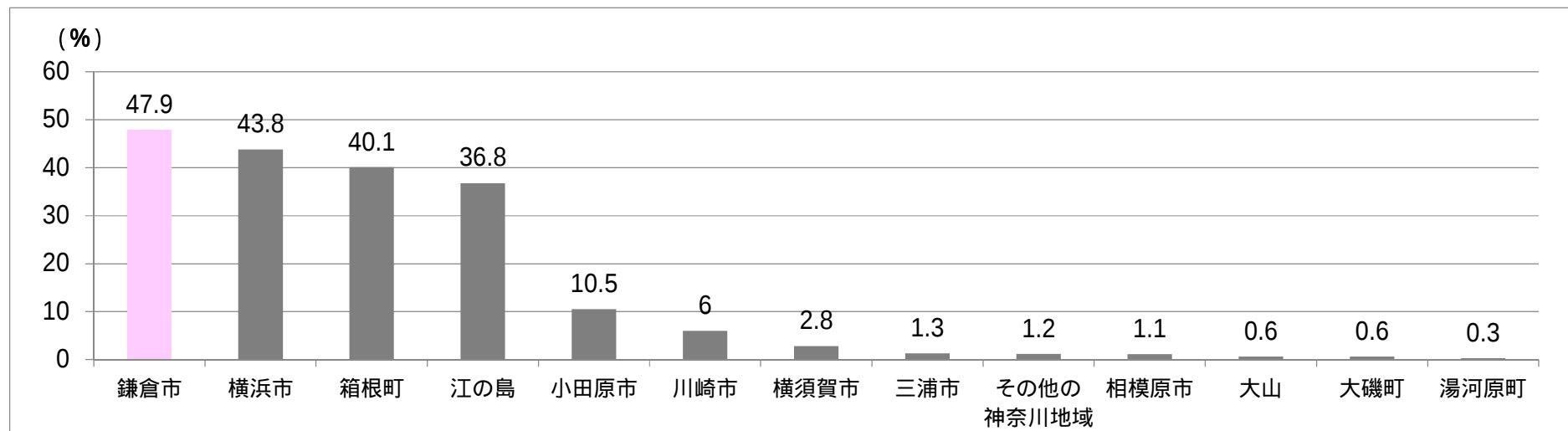
分野(2)観光

施策の方針 観光都市としての質の向上 5

鎌倉市の動向

・神奈川県に訪れた外国人観光客が鎌倉市を訪問する割合は50%弱と、比較対象都市の中で1位の高い水準となっている。

【参考】図表6-35 外国人観光客訪問地



資料)「神奈川県外国人観光客実態調査(平成29年)」より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

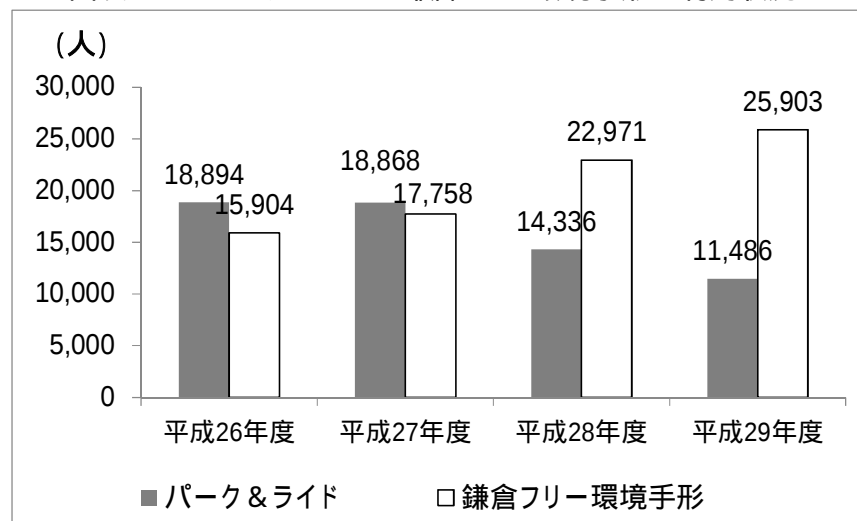
分野(2)観光

施策の方針 安全で快適な観光空間の整備

鎌倉市の動向

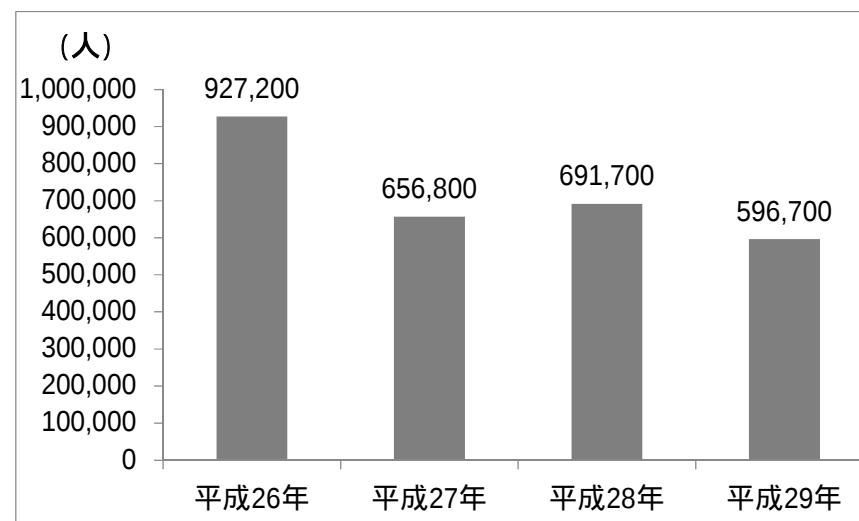
- ・パーク＆ライドの利用は減少傾向であるが、鎌倉フリー環境手形の利用は増加傾向となっている。
- ・近年海水浴客数は減少傾向であり、平成29年度の海水浴客数は平成26年度の65%程度に留まっている。

図表6-36 パーク＆ライド・鎌倉フリー環境手形の利用状況



資料)「鎌倉市の観光事情(平成30年度版)」より作成

図表6-37 海水浴客数



資料)「鎌倉市の観光事情(平成30年度版)」より作成

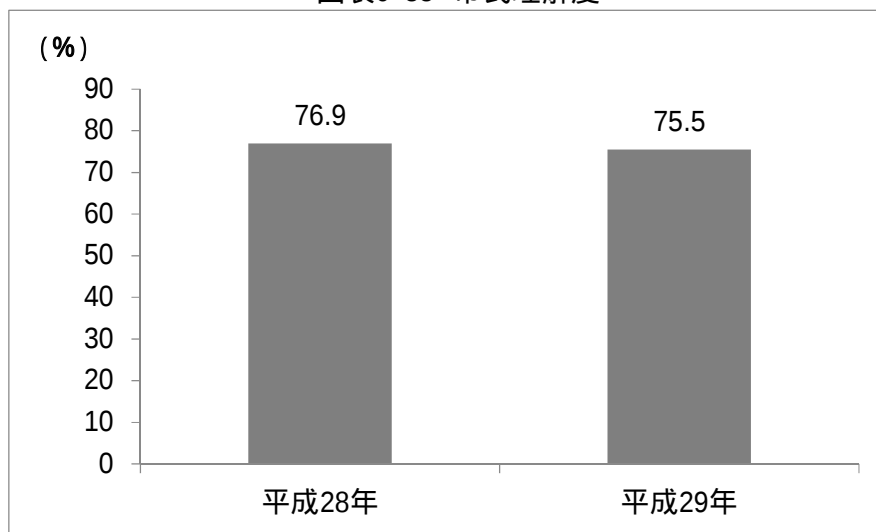
分野(2)観光

施策の方針 地域が一体となった観光振興の推進

鎌倉市の動向

- ・観光振興に対する市民の理解度(「よく理解できる」「少し理解できる」の合計)は75%程度で推移している。
- ・市では様々な観光振興施策に取り組んでいるが、それに伴い観光予算額および一般会計予算額に占める観光費の割合も年々増加する傾向にある。

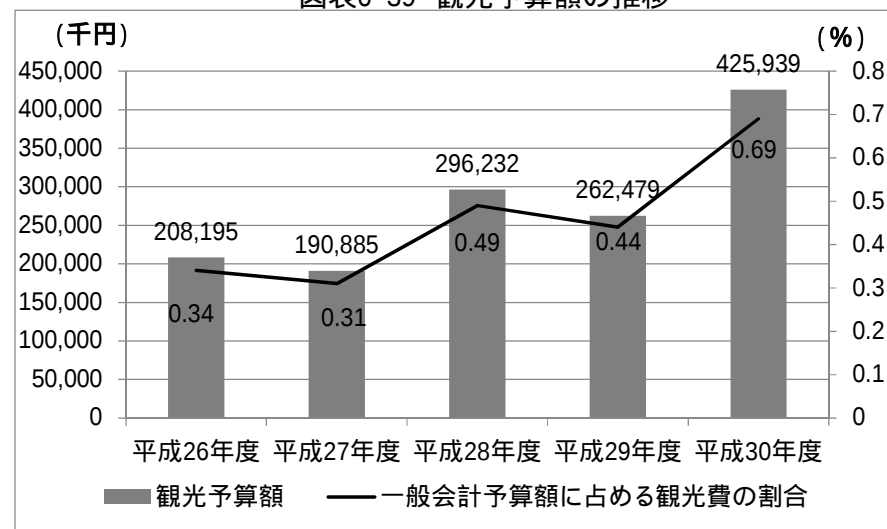
図表6-38 市民理解度



市民意識調査における「観光振興を目的として各種の取り組みに力を入れていくこと」に対して、市民として理解ができますか」の問いに対する「よく理解できる」「少し理解できる」の回答割合。

資料)「鎌倉市の観光事情(平成30年度版)」より作成

図表6-39 観光予算額の推移



資料)「鎌倉市の観光事情(平成30年度版)」より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

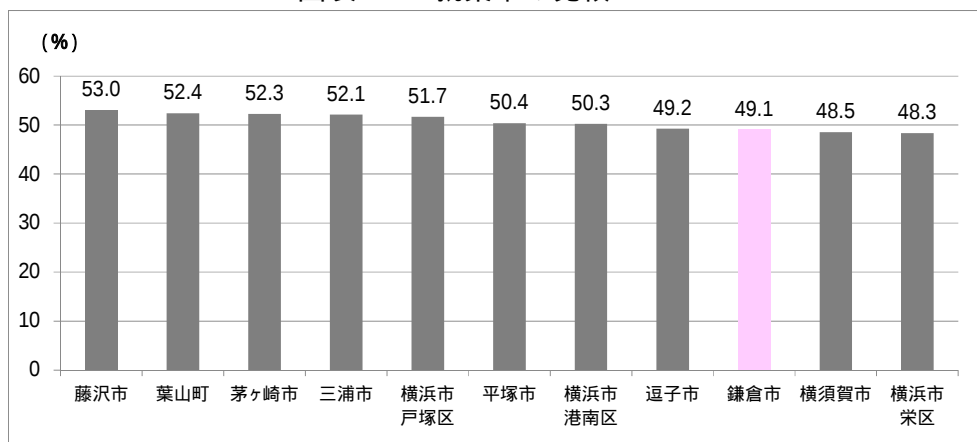
分野(3) 勤労者福祉

施策の方針 雇用支援の充実 1

鎌倉市の動向

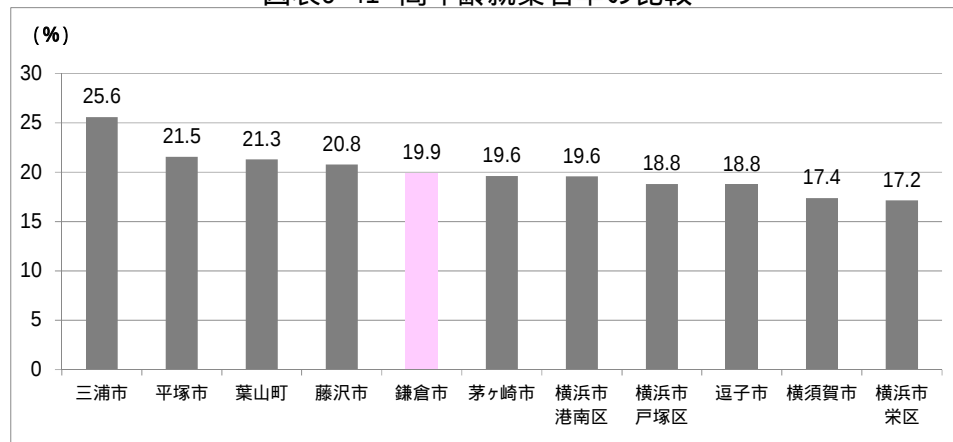
- ・鎌倉市の就業率は、比較対象都市の中では下位から3番目の水準でそれほど高くはないものの、他都市と比較して水準に大きな差があるわけではない。
- ・一方で高年齢就業率をみると、全体の就業率に比べると比較対象都市の中ではやや高い水準となっている。

図表6-40 就業率の比較



就業率: 就業者数 / 15歳以上人口
資料) 平成27年国勢調査より作成

図表6-41 高年齢就業者率の比較



高年齢就業者率: 65歳以上就業者数 / 65歳以上人口
資料) 平成27年国勢調査より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

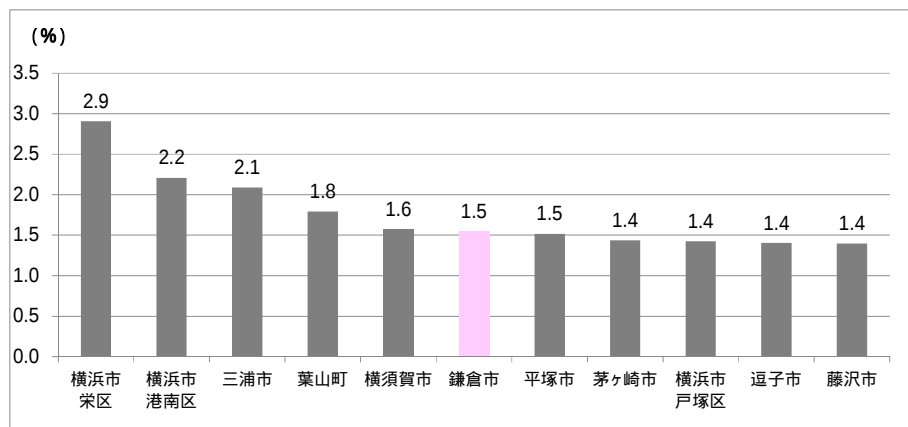
分野(3) 勤労者福祉

施策の方針 雇用支援の充実 2

鎌倉市の動向

- ・若年無業者(ニート)率をみると、鎌倉市は比較対象都市の中で中央の順位ではあるが、その比率をみると限りなく低水準都市に近い数値になっている。
- ・また女性就業率に関しては比較対象都市の中では下から2番目の水準であり、就業率は高くないが、こちらは高水準及び低水準の他都市と比較して大きな比率の開きがあるわけではない。

図表6-42 若年無業者率の比較

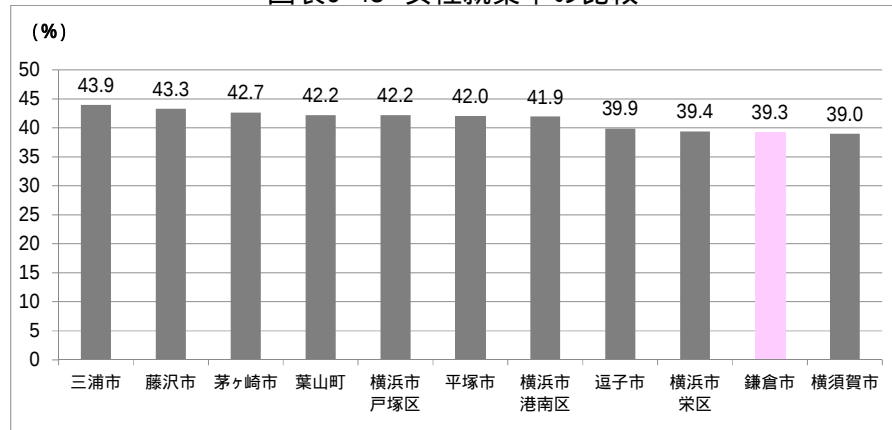


若年無業者: 年齢15歳～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者

若年無業者率: 若年無業者数 / 15歳～34歳人口

資料) 平成27年国勢調査より作成

図表6-43 女性就業率の比較



女性就業率: 女性就業者数 / 15歳以上の女性人口

資料) 平成27年国勢調査より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

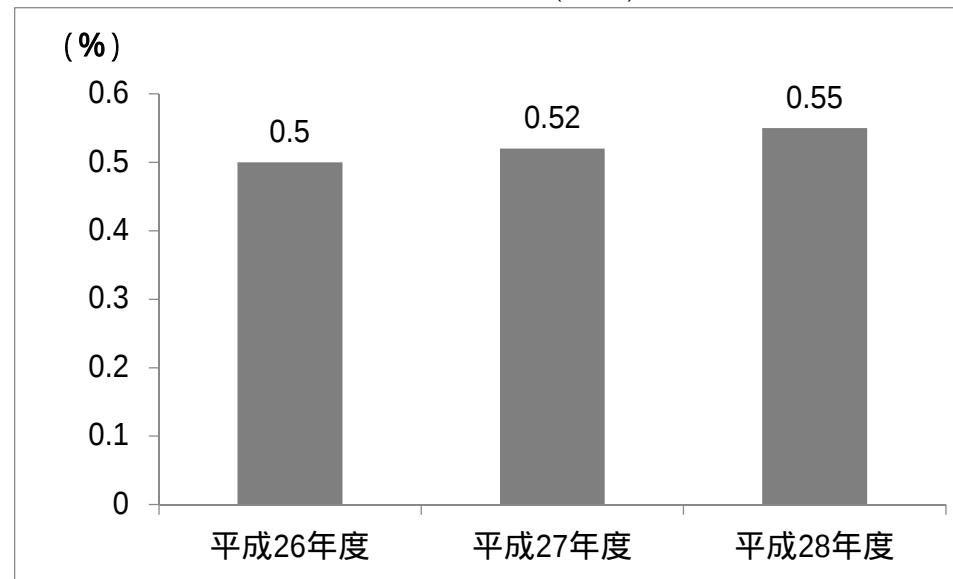
分野(3)勤労者福祉

施策の方針 雇用支援の充実 3

鎌倉市の動向

・生活保護率の推移をみると、近年は若干ではあるものの上昇傾向にある。

図表6-44 生活保護率(再掲)



資料)「鎌倉の統計」より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

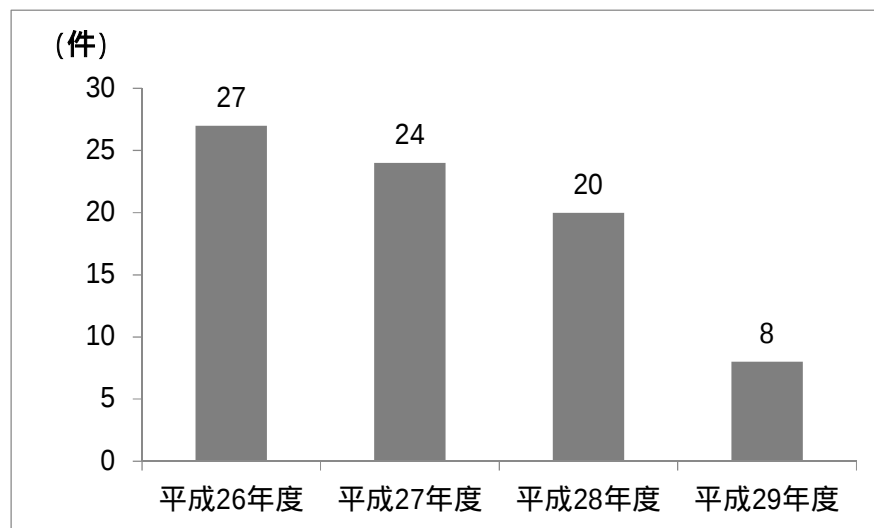
分野(3) 勤労者福祉

施策の方針 働く環境の充実

鎌倉市の動向

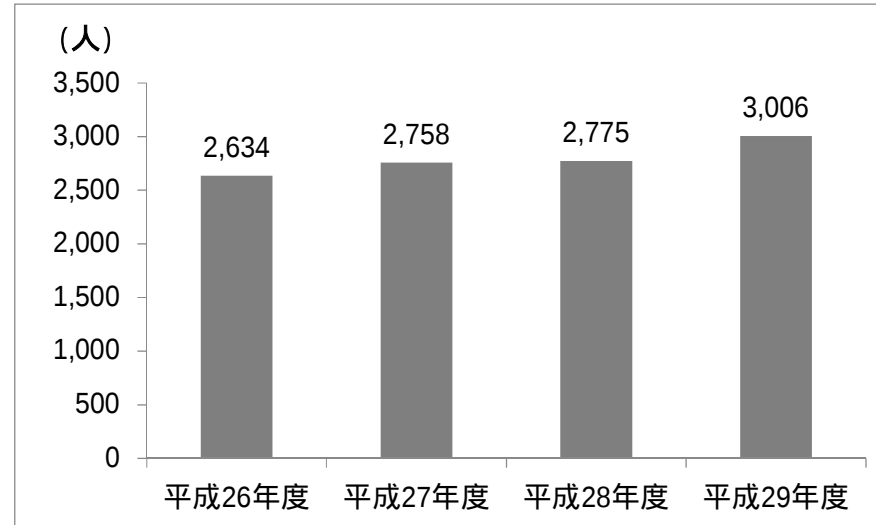
- ・鎌倉市では事業所全体の9割以上を中小企業が占めているが、勤労者生活資金融資の利用件数は近年大幅な減少傾向を示しており、直近の2年は目標値の24に届いていない。
- ・湘南勤労者福祉サービスセンターの会員数は近年堅調に増加している。

図表6-45 勤労者生活資金融資の利用件数



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表6-46 湘南勤労者福祉サービスセンターの会員数(鎌倉市内事業所分)



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

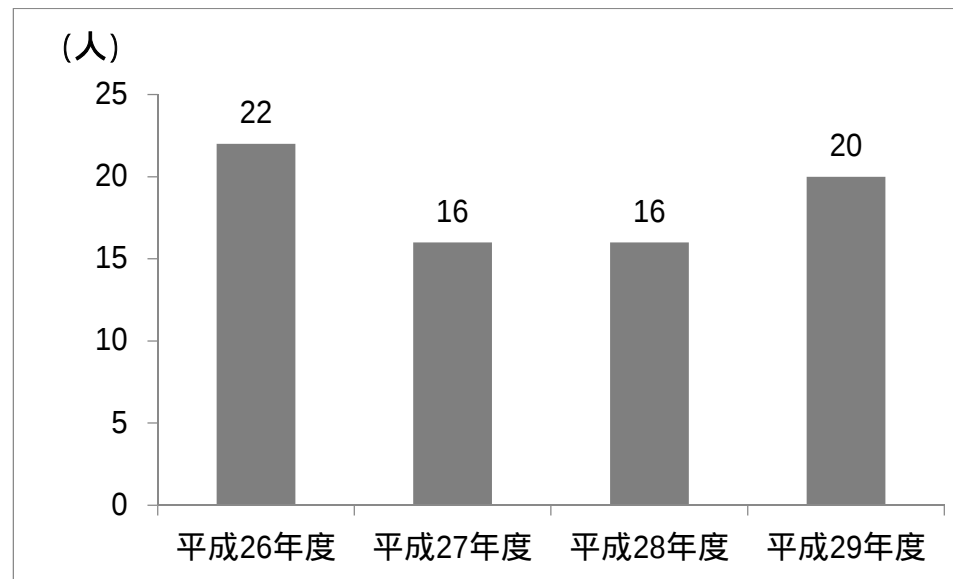
分野(3) 勤労者福祉

施策の方針 技能振興の充実

鎌倉市の動向

・技能者表彰受賞者数については、平成29年度は過去2年と比較してややもちなおしたものの、目標値である32人には届いていない。

図表6-47 技能者表彰受賞者数



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標6 活力ある暮らしやすいまち

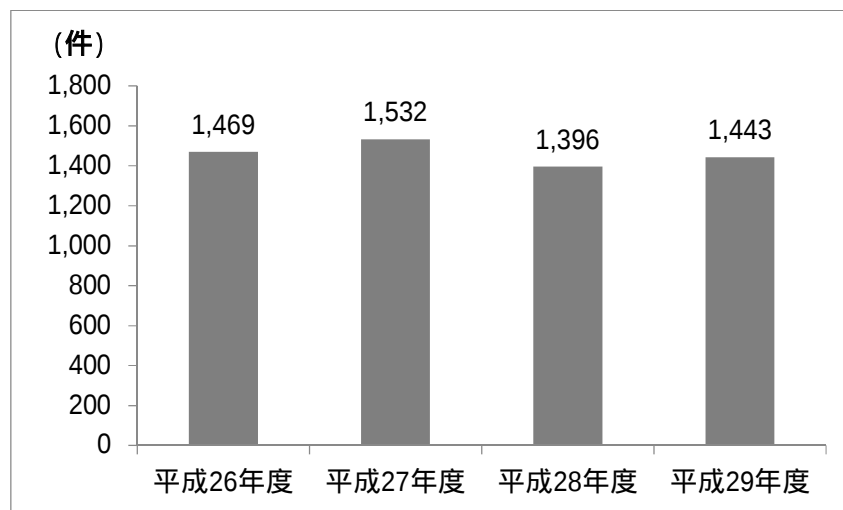
分野(4)消費者対策

施策の方針 消費者施策の充実

鎌倉市の動向

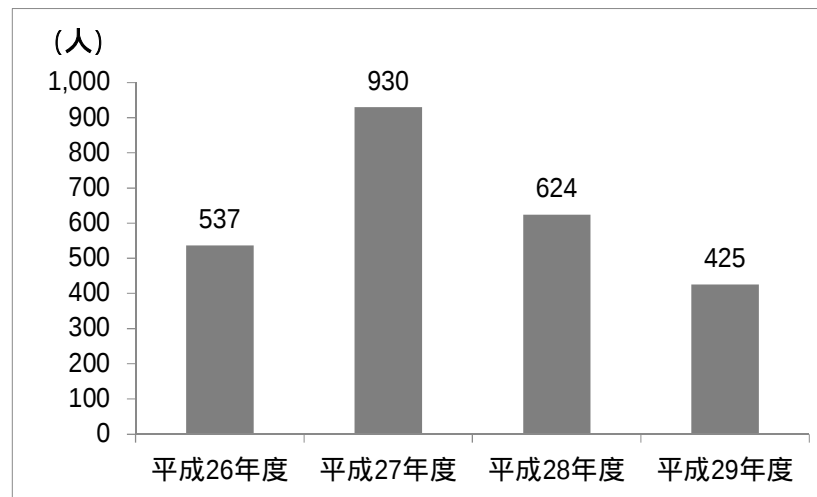
- ・消費生活センターにおける消費生活相談件数は、近年1,400～1,500件程度で安定的に推移している。
- ・グローバル化や技術革新等による商品・サービスの多様化によって、消費者教育の重要性が認識されているが、近年消費者啓発事業への参加者数は、大きく減少し、平成29年度は目標値の600を大きく下回ってしまっている。

図表6-48 消費生活相談件数



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表6-49 消費者啓発事業(移動教室、消費生活講座、出前講座等)への参加者数



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

将来目標に係る地域の概況

計画の推進に向けた市と地域のまちづくりに取り組む体制や基盤として、市民自治の支援と市との協働、行財政運営の強化への取り組みが進められている。また、本市の特性を活かした、分野横断的に踏まえるべきまちづくりの方向性として、歴史的遺産の保全・活用への取り組みを推進している。

市民自治

市のHPへのアクセス数や広報広聴事業の実績、相互提案事業や地域福祉に係る支援など、市民との協働に係る取り組みの実績は堅調に推移している。

行財政運営

市の歳出額は高齢化に伴う扶助費の増加などにより増加傾向にあり、人件費の抑制など歳出削減に取り組んでいるものの、一層の高齢化の進展や子育て支援充実の必要性など今後も厳しい状況が続くと想定される。

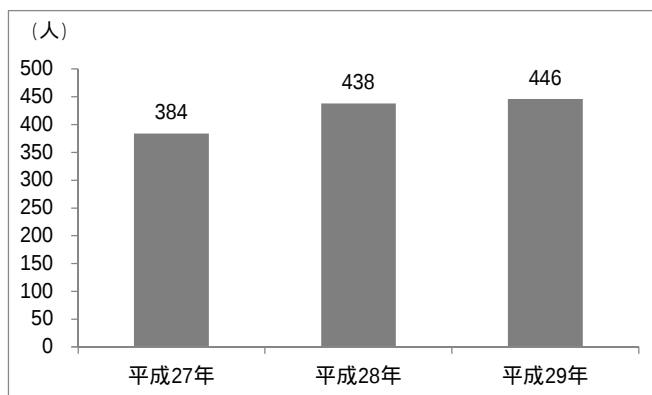
歴史的遺産と共生するまちづくり

世界遺産登録に向けた取り組みの再構築と、その一環として「鎌倉市歴史的風致維持向上計画」にもとづく歴史的遺産の保全・活用、歴史的遺産と調和したまちの環境整備、情報発信、啓発などに取り組んでいる。

鎌倉市の動向

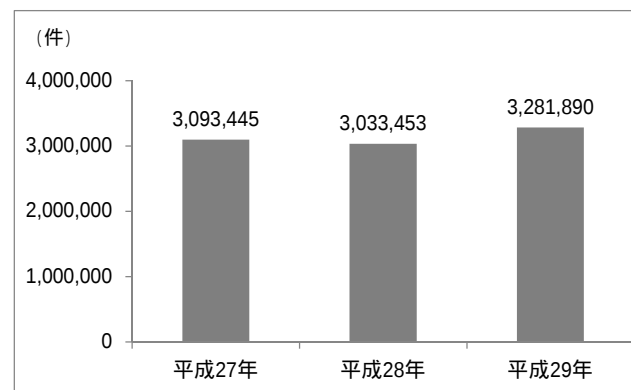
- ・広聴事業については、e-モニター登録者数・市ホームページアクセス数などが堅調に増加している。
- ・地域コミュニティの基礎となる自治会・町内会の加入率は8割程度で横ばいにとどまっている。
- ・相互提案協働事業が継続的に年間数件実施されており、行政サービス改善や地域の課題解決に向けた協働による取り組みが浸透しているといえる。

図表7-1 e-モニター登録者数の推移



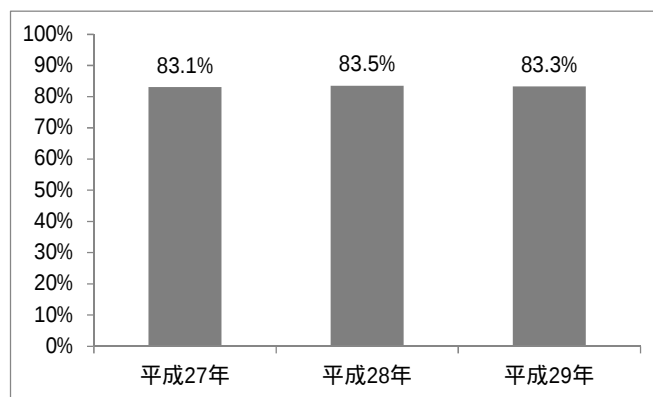
資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表7-2 市ホームページアクセス数の推移



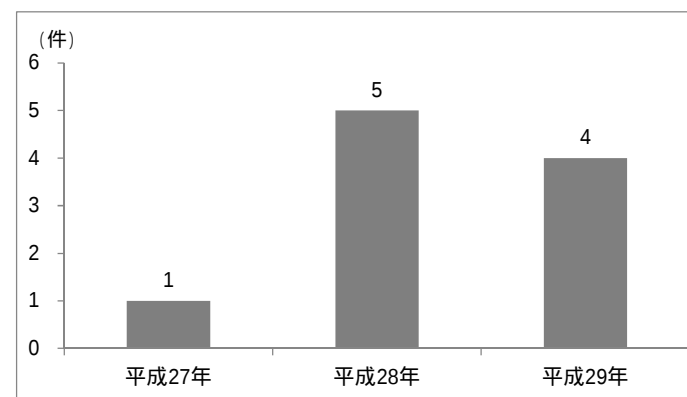
資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表7-3 自治会・町内会加入率の推移



資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表7-4 相互提案協働事業の事業実施件数の推移

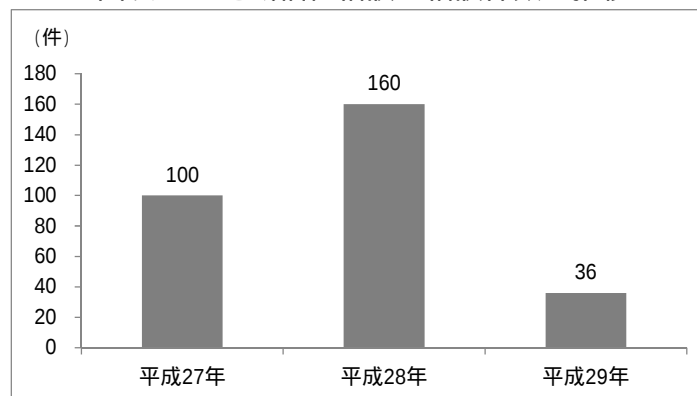


資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

鎌倉市の動向

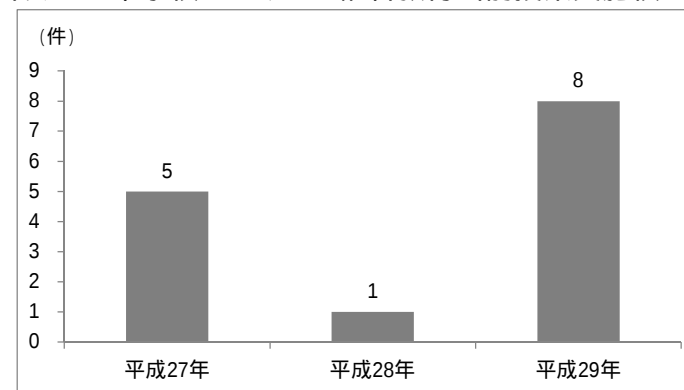
- ・地域福祉相談に取り組んでおり、平成28年をピークに件数は減少したものの、生活課題の把握と解決に向けた地域における見守りや支えあいの支援が継続されている。
- ・選挙権年齢の引き下げに対応し、若年層の市民自治の意識を高めるため、中学校から主権者教育が一定校数を継続して実施されている。

図表7-5 地域福祉相談室相談件数の推移



資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

図表7-6 中学校における主権者教育出前授業実施校の推移

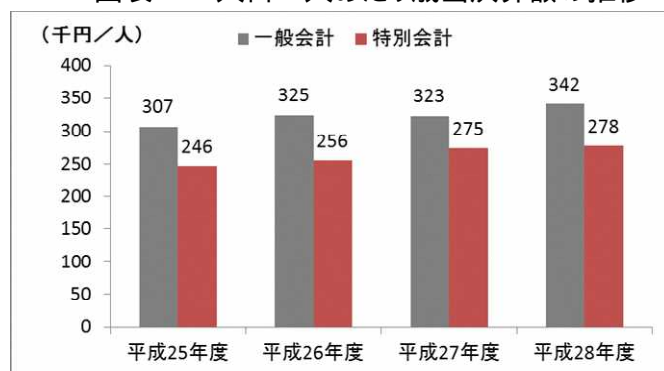


資料) 鎌倉市「平成30年度行政評価シート」より作成

鎌倉市の動向

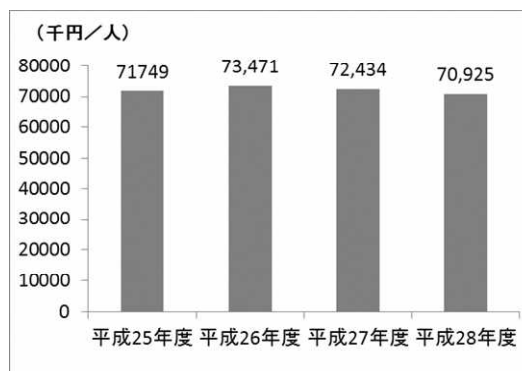
- ・市の人口一人あたり歳出額は徐々に増加している。このうち、人件費は平成26年度をピークに減少傾向にある一方、子育て世帯や高齢者、障害者、経済的に困窮している人々への支援に係る経費である扶助費は、高齢化の進展などにより急増している。
- ・このため、市の財政の硬直性の目安である経常収支比率は、近隣都市の中では低いものの、一般に理想とされる水準である80%を大幅に上回っている。

図表7-7 人口一人あたり歳出決算額の推移



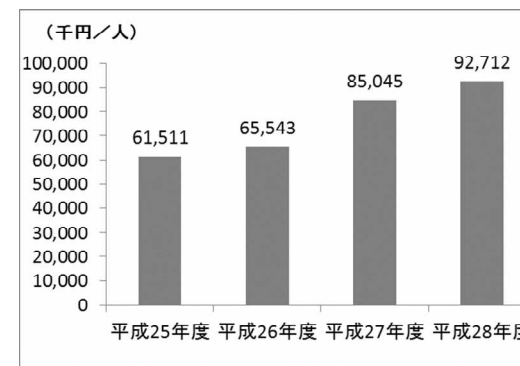
注：人口は各年度末時点の住民基本台帳人口
資料) 鎌倉市「一般会計・特別会計歳出決算年度別比較表」及び
鎌倉市「地域別・町丁字別の年齢別人口」より作成

図表7-8 人口一人あたり人件費決算額の推移



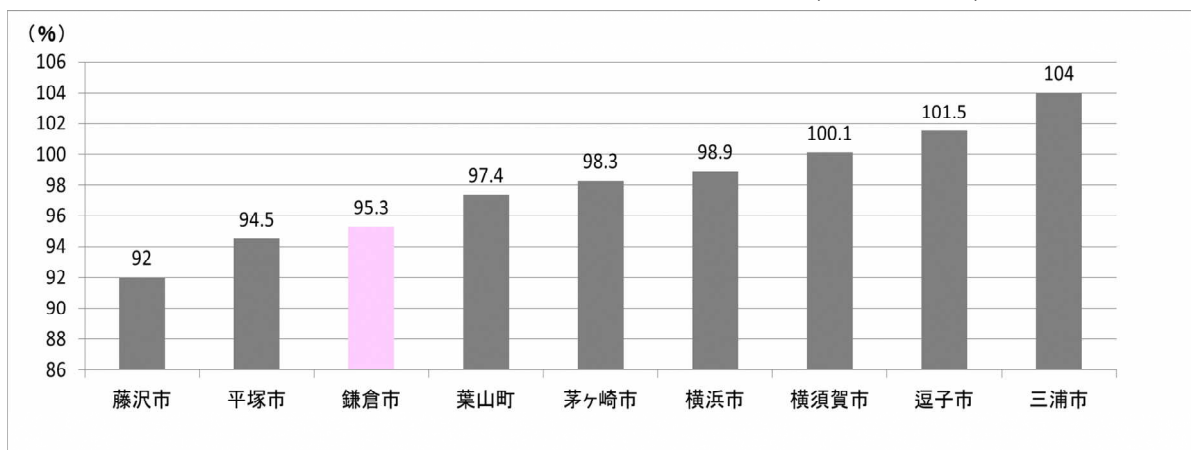
注：人口は各年1月1日時点の住民基本台帳人口
資料) 総務省「決算財政状況資料集」より作成

図表7-9 人口一人あたり扶助費決算額の推移



注：人口は各年1月1日時点の住民基本台帳人口
資料) 総務省「決算財政状況資料集」より作成

図表7-10 近隣都市の経常収支比率(平成28年度)

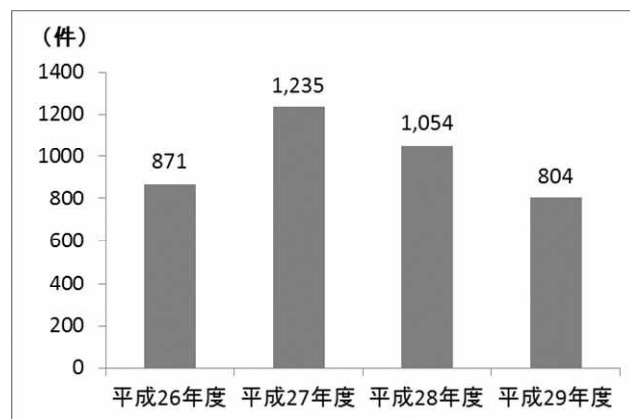


資料) 神奈川県「かながわジェンダーダイバーシティ・データベース」より作成

鎌倉市の動向

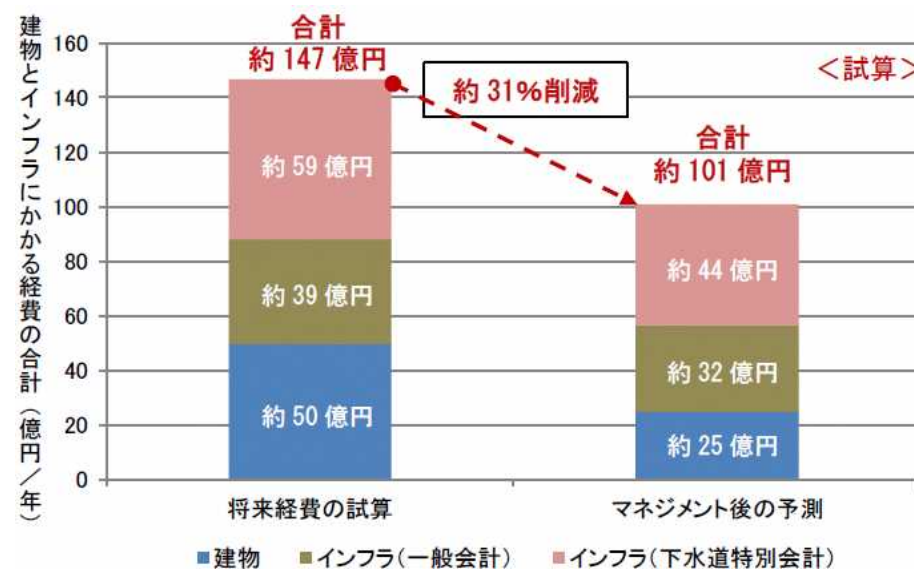
- ・行政の効率化と市民の利便性向上を目指して導入した電子申請の利用件数は、平成27年度ピークに減少傾向にある。
- ・また、過剰な公共施設による維持管理・更新負担を抜本的に改善するため、市は「鎌倉市公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設の再編・削減により、公共施設に係るコストを約3割削減することを目標に掲げている。

図表7-11 電子申請利用件数の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表7-12 公共施設の維持管理・更新に要するコストの削減目標

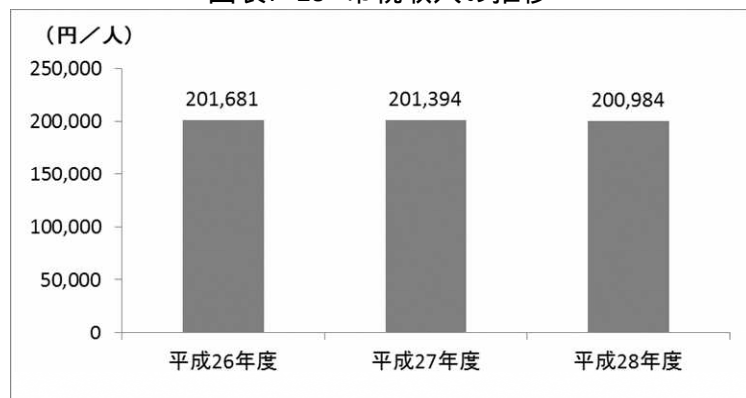


資料)鎌倉市「鎌倉市公共施設等総合管理計画(平成28年3月)」

鎌倉市の動向

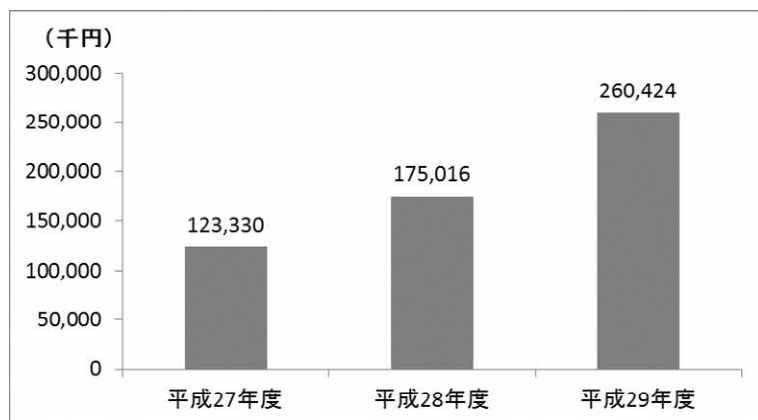
- ・市の主要な財源である市税収入は近年安定的に推移している。また、市民一人あたりの市税収入も近隣都市の中では最も高い。
- ・さらに、新たな財源確保策の1つであるふるさと寄付金事業(ふるさと納税)は近年大きく増加増加している。

図表7-13 市税収入の推移



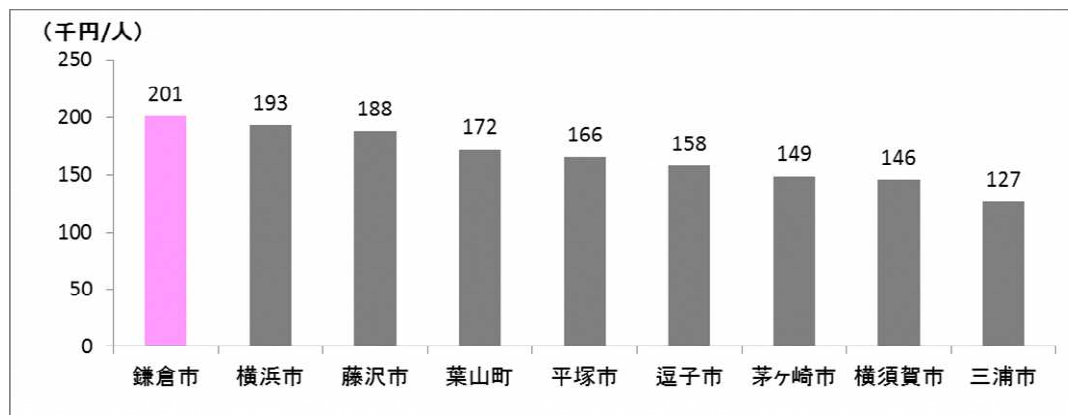
資料)「鎌倉の統計」より作成

図表7-15 ふるさと寄付金事業の実績の推移



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表7-14 近隣都市における市民ひとりあたり市税収入(平成28年度)



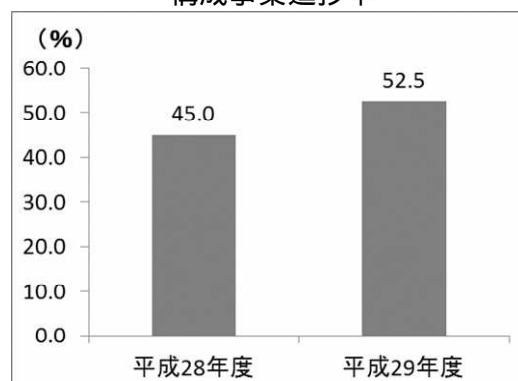
注:人口は平成28年1月1日時点の住民基本台帳人口

資料)総務省「決算財政状況資料集」及び「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成

鎌倉市の動向

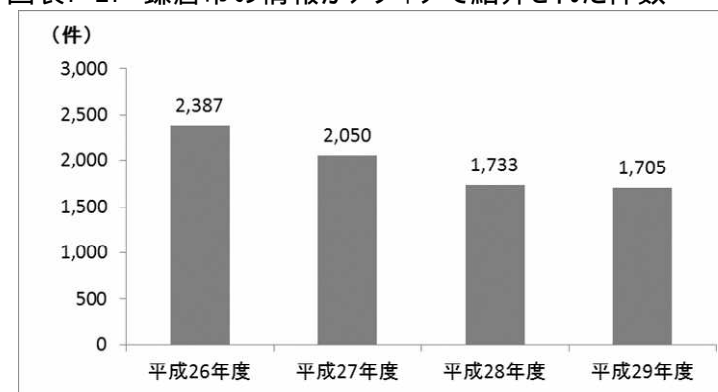
- ・鎌倉市は、県、横浜市、逗子市とともに鎌倉の世界遺産登録に向けて取り組んでいたが、平成25年にユネスコの諮問機関であるイコモスからの「不記載」勧告を受けたことから、取り組みの方針を再構築し、関係団体とともに、改めて登録に向けた取り組みを推進している。
- ・こうした取り組みの一環として、平成28年1月25日に「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(歴史まちづくり法)」に基づく「鎌倉市歴史的風致維持向上計画」の認定を受け、この計画に基づき、歴史的遺産の保全・活用、歴史的遺産と調和したまちの環境整備、情報発信、啓発などの取り組みを推進している。

図表7-16 鎌倉市歴史的風致向上計画(平成28年1月認定)の構成事業進捗率



資料)「平成30年度行政評価シート」より作成

図表7-17 鎌倉市の情報がメディアで紹介された件数



資料) 鎌倉市「平成29年度「鎌倉市歴史的風致維持向上計画」進行管理・評価シート」より作成